

第2次諫早市総合計画策定のための
まちづくりアンケート調査結果報告書

諫早市民

平成26年12月

諫 早 市

目次

I	調査の概要及び回答者の属性	1
1	調査の概要	1
	(1) 調査目的	1
	(2) 調査対象及び調査方法	1
	(3) 配布数及び回収結果	2
2	本調査報告書の基本的な事項	2
	(1) 数値の基本的な取り扱いについて	2
3	回答者の属性	3
	(1) 性別	3
	(2) 年齢	3
	(3) 職業	3
	(4) 居住地域	4
	(5) 居住年数	4
	(6) 家族構成	4
II	調査結果	5
1	諫早市の取り組みについて	5
	(1) 市の取り組みについての満足度	5
	(2) 市の取り組みについての重要度	16
	(3) 満足度と重要度の相関（優先度）	26
2	地域との関わりや地域活動について	31
	(1) 地域の活動や行事に参加した頻度	31
	(2) 実施すべき防災活動	34
	(3) 実行できる手助け	36
	(4) 地域の活動や行事などへの参加について	39
	(5) 活発な地域活動のために大切なこと	88
3	子ども・若者・高齢者のことなどについて	90
	(1) 子どもたちが健やかに育つまちとなるためには	90
	(2) 子育てを支援するために今後必要なこと	92
	(3) 高齢者が自宅での生活を続けていくために必要な支援	95
	(4) 今後特に力を入れるべき高齢者支援	97
	(5) 若年者増加のために重要な施策	100
4	諫早市のまちづくりについて	109
	(1) 市政への市民意向の反映度合い	109

(2) 市民意向を反映させるために力を入れるべきこと……………	112
(3) 今後の居留意向……………	114
(4) 「諫早市らしさ」を感じ、愛着や誇りを持てるもの……………	117
(5) 諫早市の望ましい将来像……………	120
(6) 九州新幹線西九州長崎ルートが完成した後のまちづくりに期待すること…	123

I 調査の概要及び回答者の属性

1 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、第2次諫早市総合計画の策定に当たって、市への愛着度や定住意向をはじめ、市の現状評価や今後重視する取り組み、各分野における施策要望など、市民の意識構造の実態を把握し、計画づくりの基礎資料を得るために実施しました。

(2) 調査対象及び調査方法

項目	内容
調査対象	諫早市に居住する18歳以上の市民
配布数	3,000
抽出法	無作為抽出
調査方法	郵送法（郵送による配布・回収）
調査時期	平成26年10月
調査地域	市内全域。ただし、分析上は地域的傾向を把握するため、以下の6地域に区分しました。 ①諫早地域 ②多良見地域 ③森山地域 ④飯盛地域 ⑤高来地域 ⑥小長井地域

(3) 配布数及び回収結果

配布数	3,000
有効回収数	1,533
有効回収率	51.1%

2 本調査報告書の基本的な事項

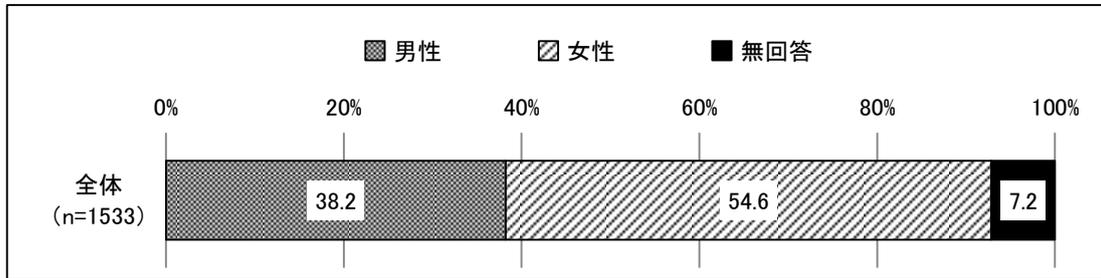
(1) 数値の基本的な取り扱いについて

- ①比率はすべて百分率(%)で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出しています。従って、合計が100%を上下する場合があります。
- ②基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出しています。
- ③質問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出してもよい問であり、従って、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。
- ④文中、グラフ中の選択肢の文言は一部簡略化している場合があります。

3 回答者の属性

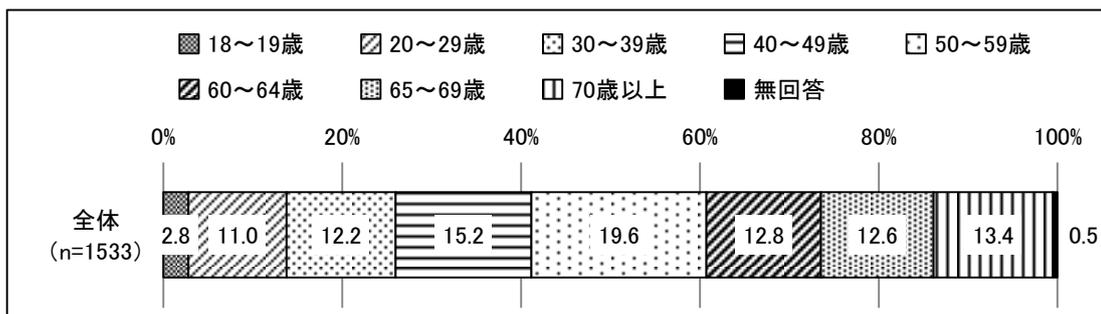
(1) 性別

回答者の性別構成は、「女性」が54.6%、「男性」が38.2%となっています。



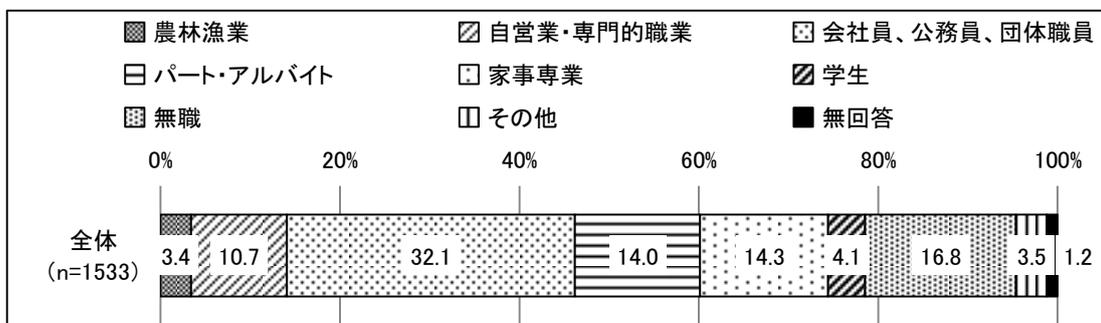
(2) 年齢

回答者の年齢構成は、「50～59歳」が19.6%で最も多く、次いで「40～49歳」(15.2%)、「70歳以上」(13.4%)、「60～64歳」(12.8%)、「65～69歳」(12.6%)、「30～39歳」(12.2%)「20～29歳」(11.0%)、「18～19歳」(2.8%)の順となっています。



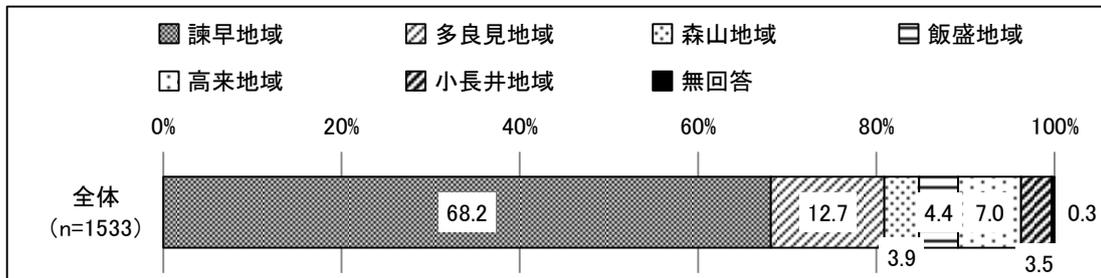
(3) 職業

回答者の職業については、「会社員、公務員、団体職員」が32.1%で最も多く、次いで「無職」(16.8%)、「家事専業」(14.3%)、「パート・アルバイト」(14.0%)、「自営業・専門的職業」(10.7%)、「学生」(4.1%)、「その他」(3.5%)、「農林漁業」(3.4%)の順となっています。



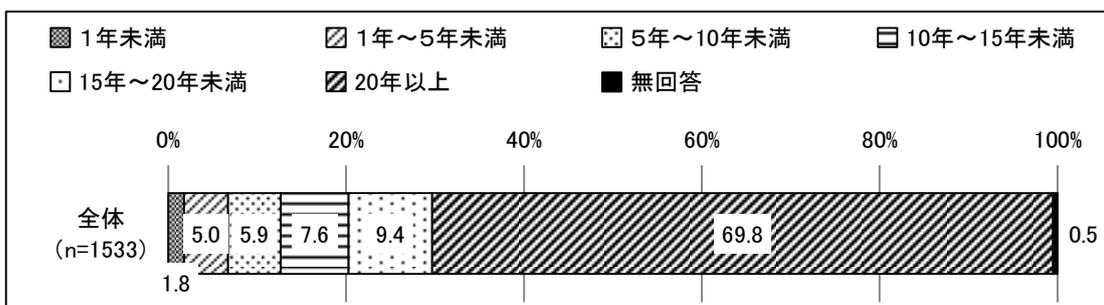
(4) 居住地

回答者の居住地については、「諫早地域」が68.2%で最も多く、次いで「多良見地域」(12.7%)、「高来地域」(7.0%)、「飯盛地域」(4.4%)、「森山地域」(3.9%)、「小長井地域」(3.5%)の順となっています。



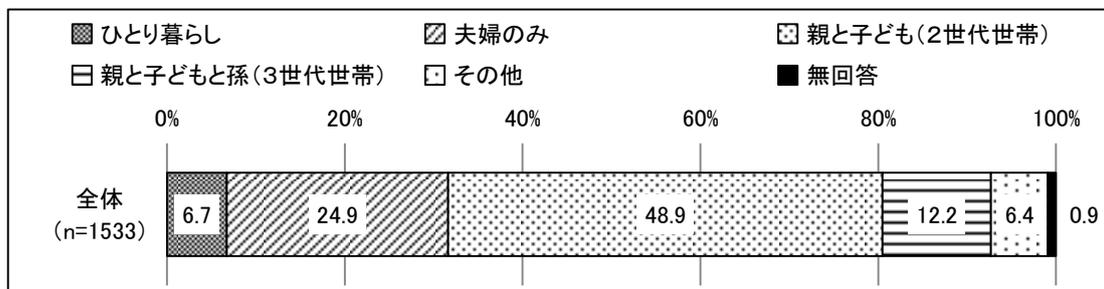
(5) 居住年数

回答者の居住年数については、「20年以上」が69.8%で最も多く、次いで「15年～20年未満」(9.4%)、「10年～15年未満」(7.6%)、「5年～10年未満」(5.9%)、「1年～5年未満」(5.0%)、「1年未満」(1.8%)の順となっています。



(6) 家族構成

回答者の家族構成は、「親と子ども(2世代世帯)」が48.9%で最も多く、次いで「夫婦のみ」(24.9%)、「親と子どもと孫(3世代世帯)」(12.2%)、「ひとり暮らし」(6.7%)、「その他」(6.4%)の順となっています。



Ⅱ 調査結果

1 諫早市の取り組みについて

(1) 市の取り組みについての満足度

問2 次にあげる項目について、あなたは、諫早市の取り組み状況について、どの程度満足していますか。(1)から(48)のそれぞれについて、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

- ▼
- 満足度の最も高い項目は「健康診断・相談、保健予防への取組」。次いで「スポーツ施設の整備」「歴史・文化財の保存、活用、継承」の順。
 - 満足度の最も低い項目は「商店街の賑わい」。次いで「就労支援・働く場の確保」「観光施設、特産品の情報発信」の順。

市の取り組みについて、現在どの程度満足しているかを把握するため、輝くひとづくり、活力ある産業づくり、暮らしの充実、市民主役のまちづくりの4分野 48項目について、「満足」「やや満足」「普通」「やや不満」「不満」の5段階で評価してもらいました。

“満足”（「満足」と「やや満足」の合計）の比率が高い項目としては、『スポーツ施設の整備』（28.4%）が第1位に挙げられ、次いで『健康診断・相談、保健予防への取組』（24.7%）、『上下水道の整備』（20.2%）などの順となっています。一方、“不満”（「やや不満」と「不満」の合計）の比率が高い項目としては『商店街の賑わい』（73.4%）が第1位に挙げられ、次いで『就労支援・働く場の確保』（51.0%）、『観光施設、特産品の情報発信』（43.7%）などの順となっています。

さらに、その結果を加重平均値【後述参照】による数量化で評価点（満足度：最高点10点、中間点0点、最低点-10点）を算出しました。

この結果をみると、満足度は「健康診断・相談、保健予防への取組」（0.75点）が第1位に挙げられ、次いで「スポーツ施設の整備」（0.69点）、「歴史・文化財の保存、活用、継承」（0.31点）と続き、以下、「ごみ減量化と資源リサイクルへの取組」（0.30点）、「スポーツ・レクリエーション活動の推進」（0.28点）、「上下水道の整備」（0.24点）などの順となっています。また、地域別で満足度の高い項目をみると、飯盛地域、高来地域、小長井地域では全体と同様に「健康診断・相談、保健予防への取組」、諫早地域では「スポーツ施設の整備」、多良見地域では「健康診断・相談、保健予防への取組」及び「スポーツ施設の整備」、森山地域では「上下水道の整備」が最も多く挙げられています。

一方、満足度評価の低い項目をみると、「商店街の賑わい」（-6.01点）が最も低く、次いで「就労支援・働く場の確保」（-3.46点）、「観光施設、特産品の情報発信」（-2.87点）、「新たな産業団地の開発による企業誘致」（-2.43点）、「公共交通機関の充実」（-2.30点）と続いています。また、地域別で満足度の低い項目をみ

ると、すべての地域で全体と同様に「商店街の賑わい」が最も低くなっています。
全体的にみると、満足度がプラス評価の項目が6項目、マイナス評価の項目が42項目となっています。[図表1～10参照]

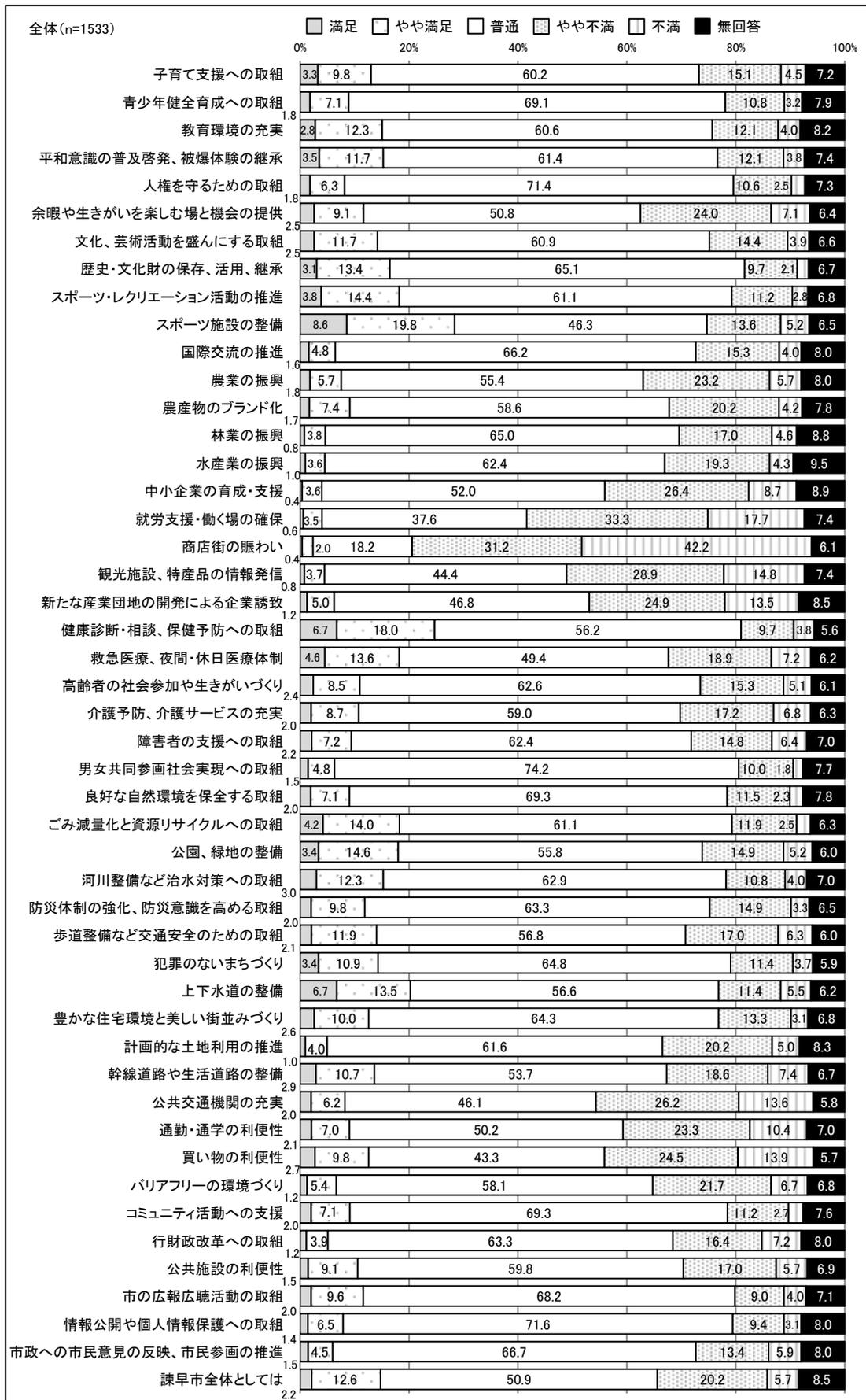
※加重平均値の算出方法

5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点（満足度）を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\begin{array}{l} \text{「満足」の回答者数} \times 10 \text{ 点} \\ + \\ \text{「やや満足」の回答者数} \times 5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「普通」の回答者数} \times 0 \text{ 点} \\ + \\ \text{「やや不満」の回答者数} \times -5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「不満」の回答者数} \times -10 \text{ 点} \end{array}}{\begin{array}{l} \text{「満足」、「やや満足」、} \\ \text{「普通」、「やや不満」、} \\ \text{「不満」の回答者数} \end{array}}$$

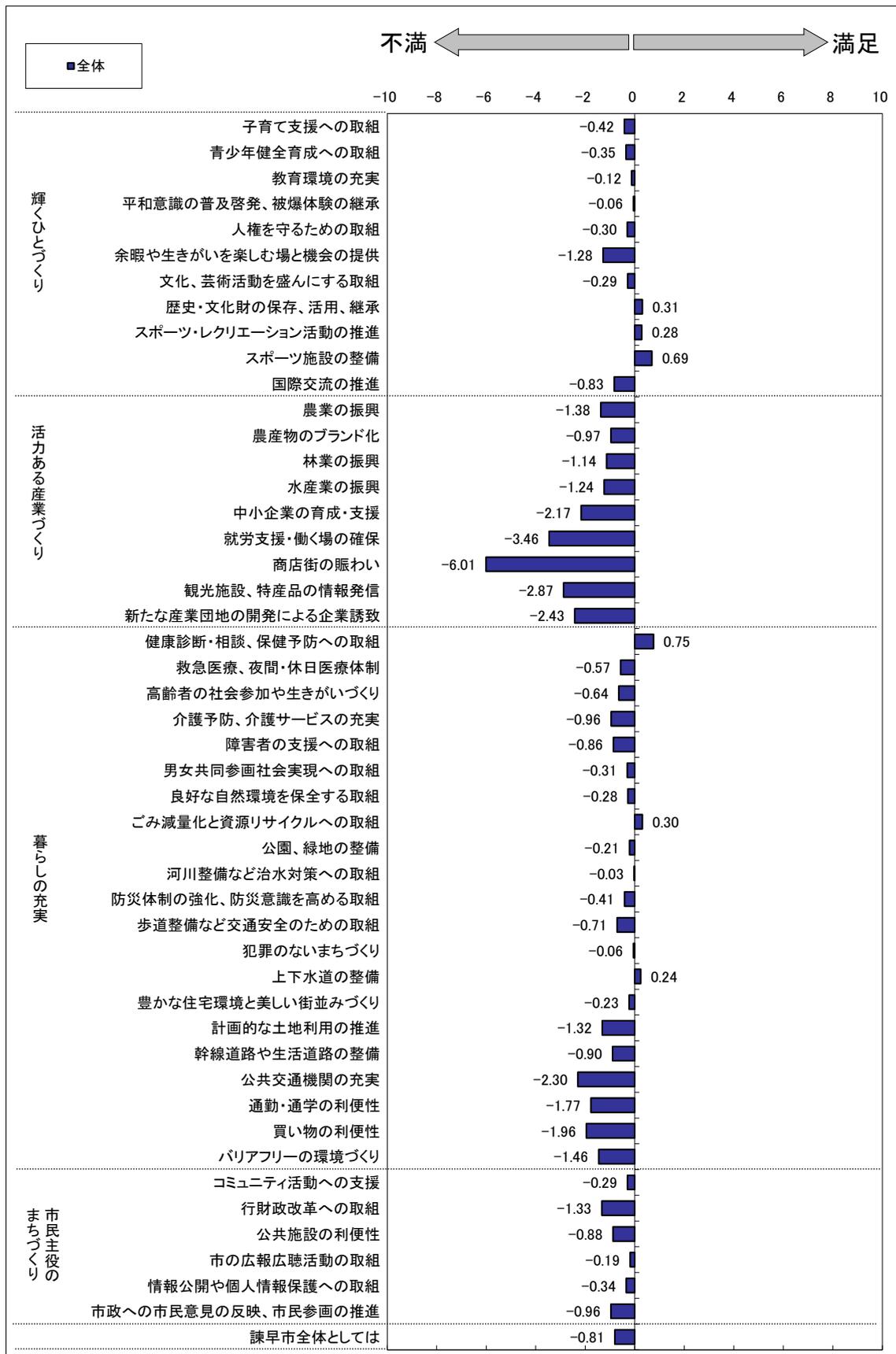
この算出方法により、評価点（満足度）は10点～-10点の間に分布し、中間点の0点を境に、10点に近くなるほど評価は高いと考えられ、逆に-10点に近くなるほど評価が低いと考えられる。

[図表 1]市の取り組みについての満足度（全体／％）



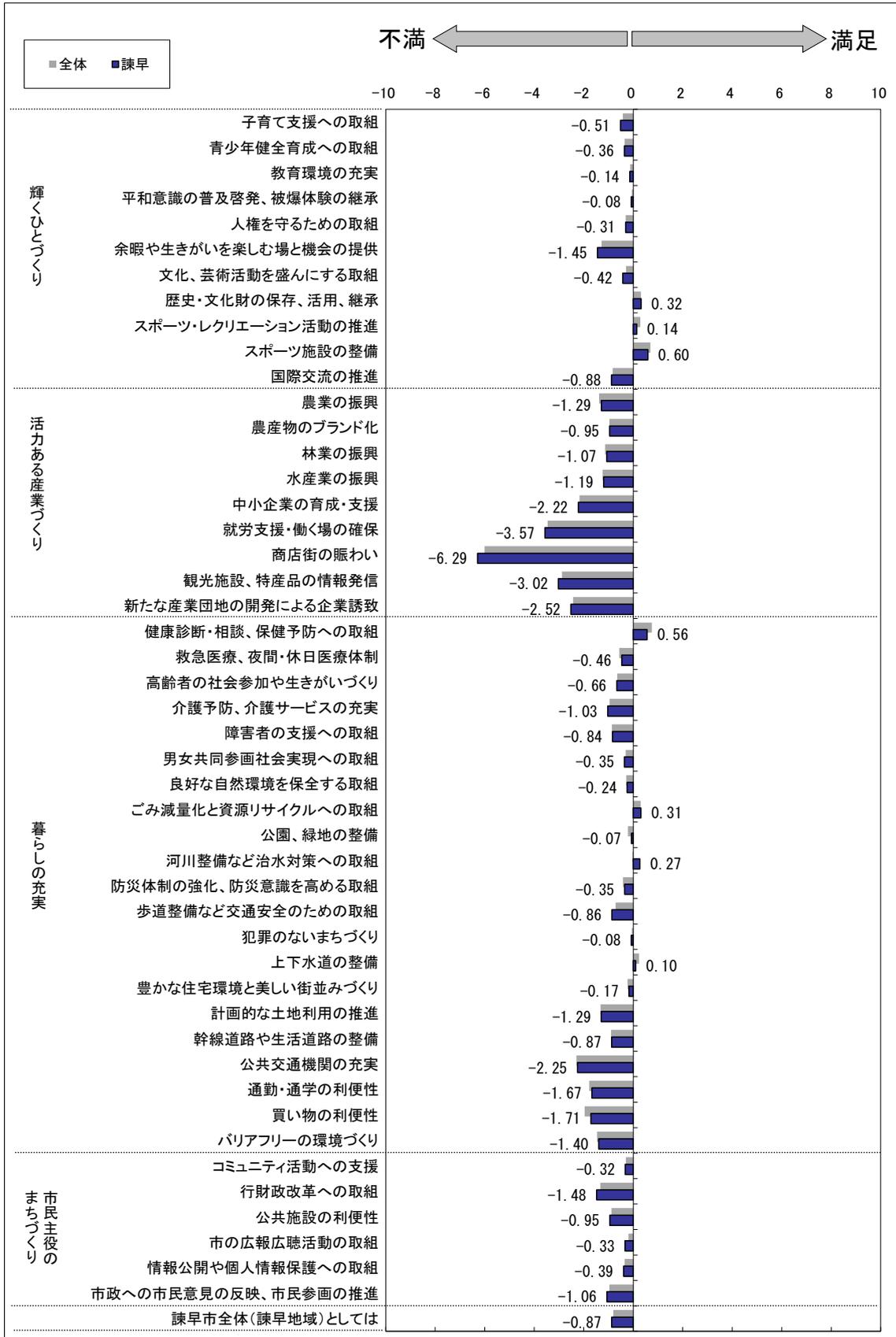
[図表2]市の取り組みについての満足度（全体／評価点）

（単位：評価点）



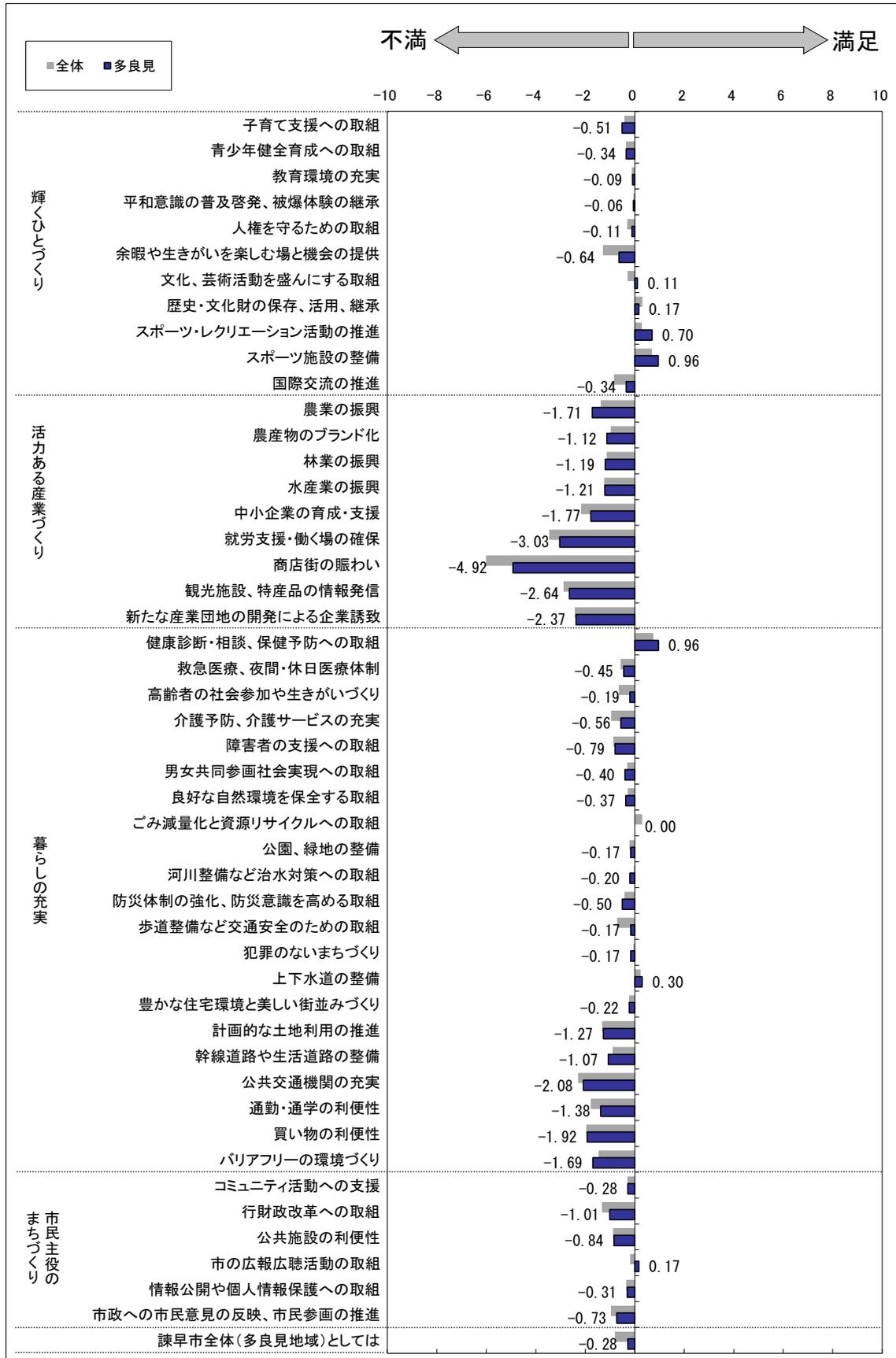
[図表3]市の取り組みについての満足度（諫早地域／評価点）

（単位：評価点）



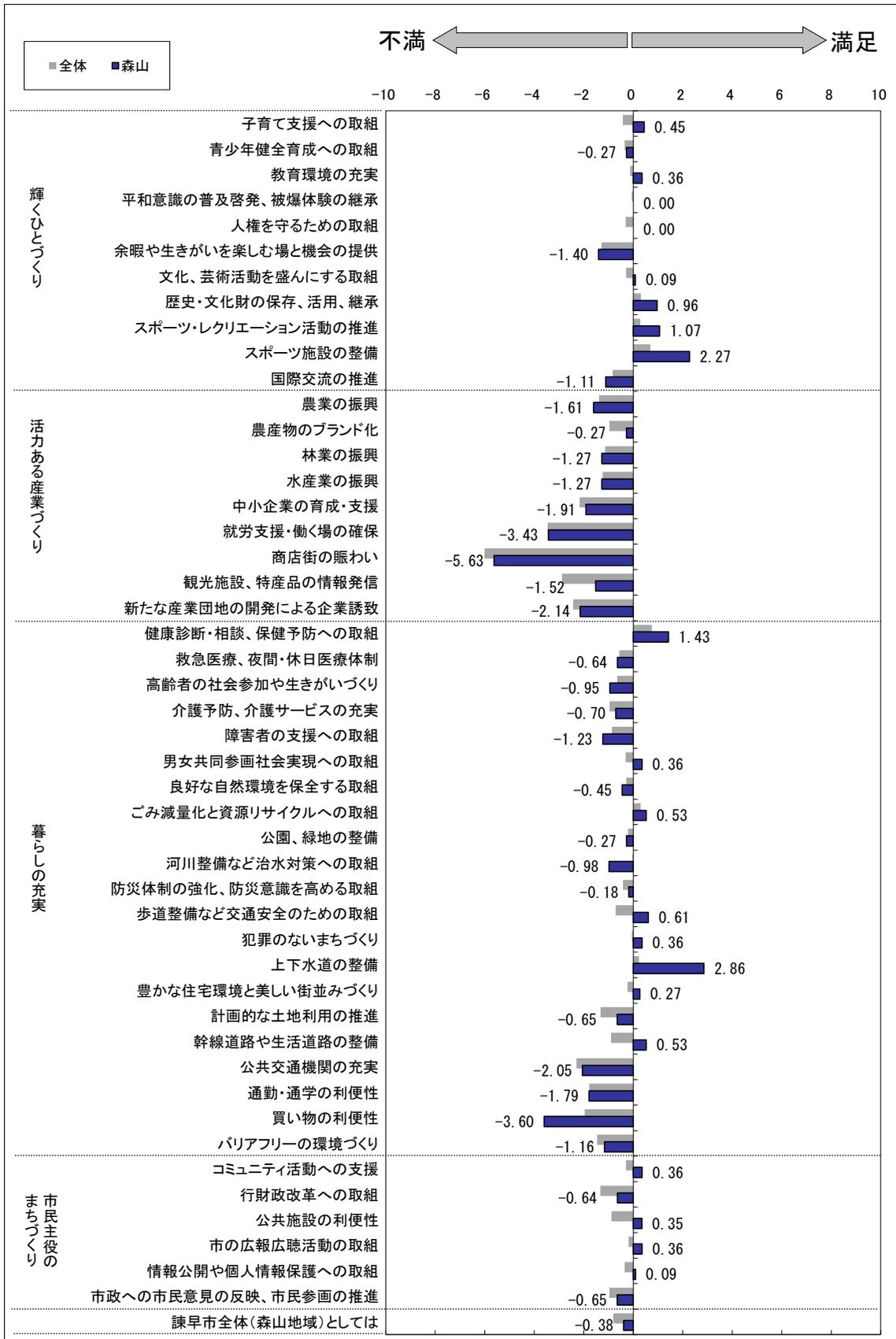
[図表 4]市の取り組みについての満足度（多良見地域／評価点）

（単位：評価点）



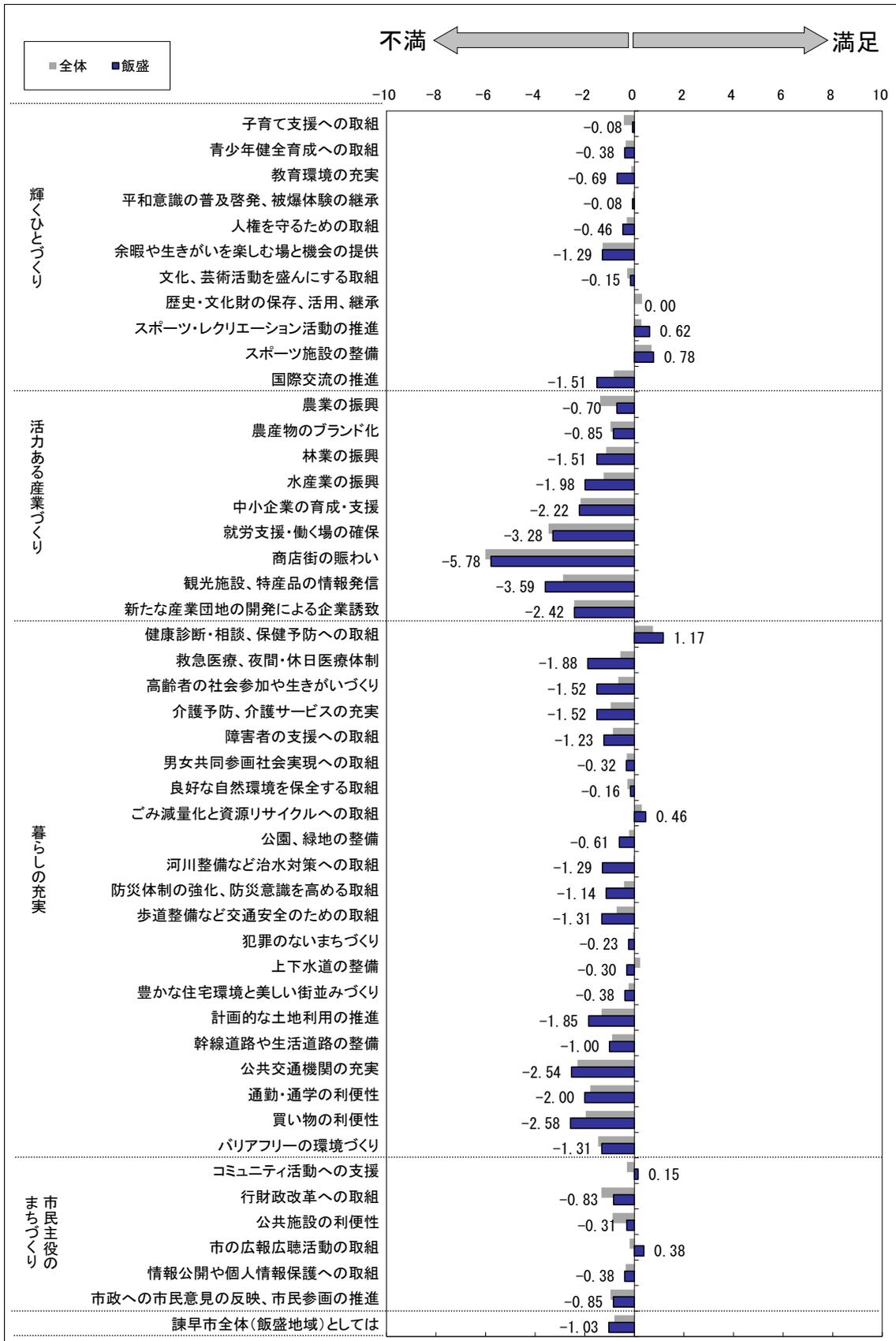
[図表5]市の取り組みについての満足度（森山地域／評価点）

（単位：評価点）



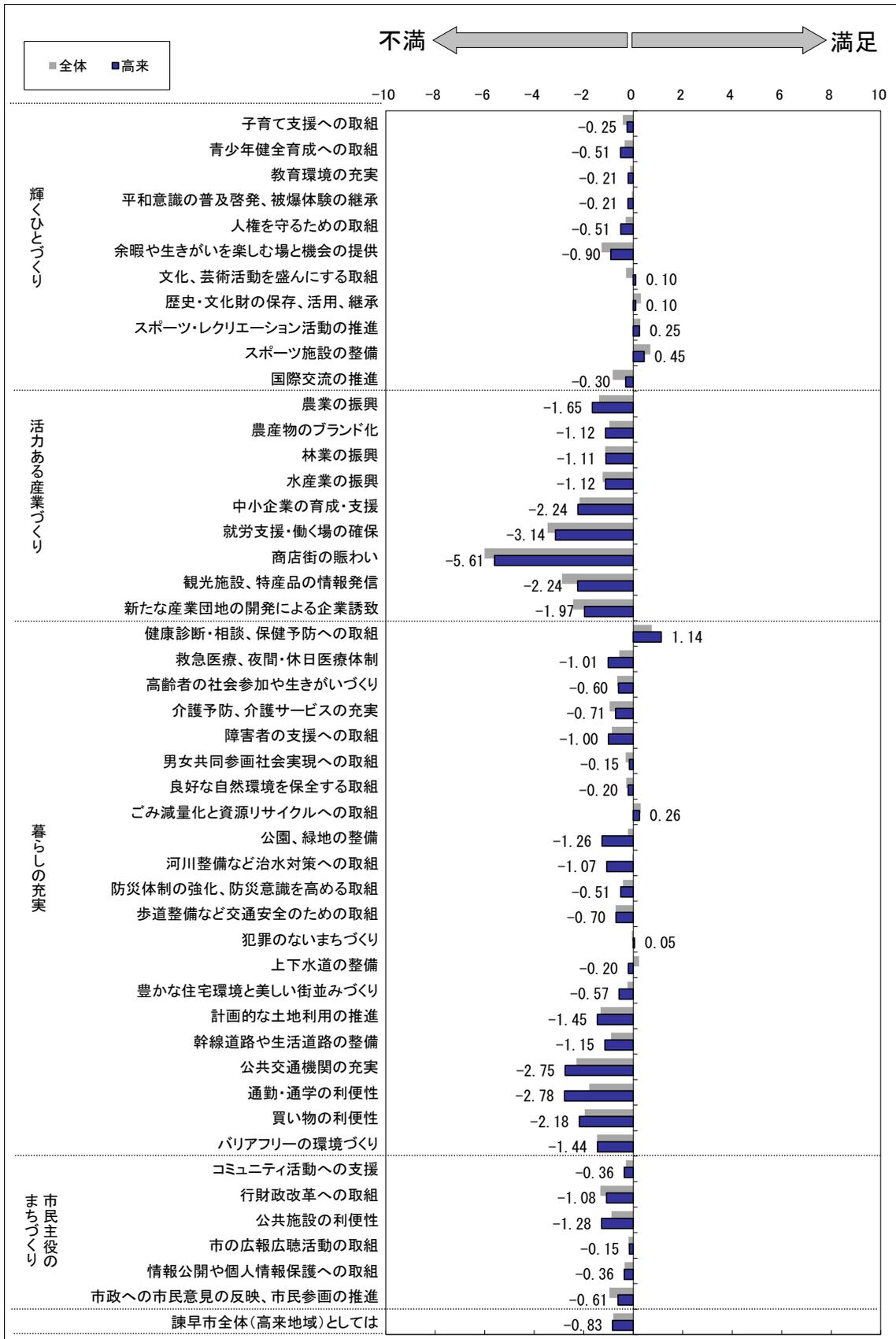
[図表6]市の取り組みについての満足度（飯盛地域／評価点）

（単位：評価点）



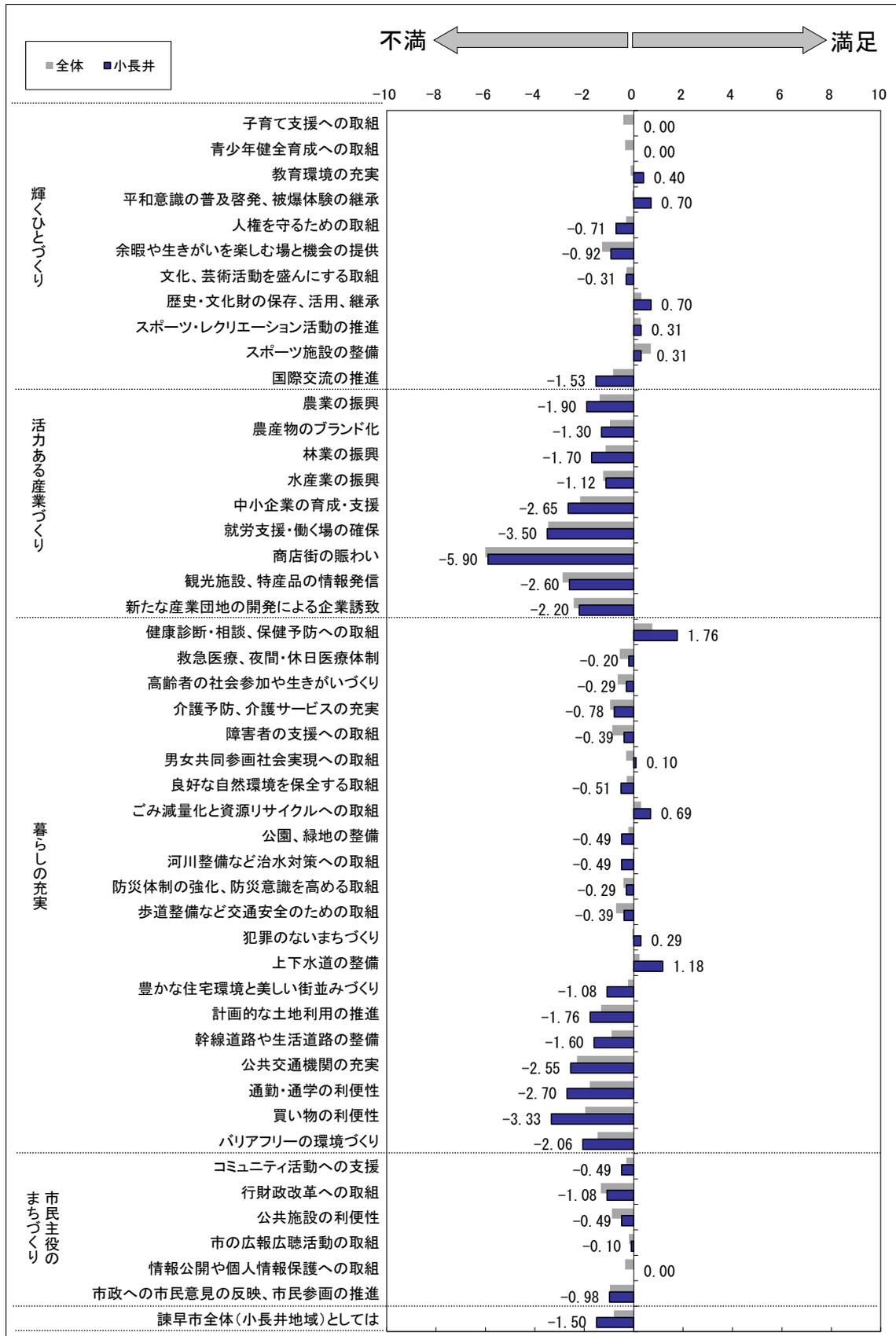
[図表7]市の取り組みについての満足度（高来地域／評価点）

（単位：評価点）



[図表8]市の取り組みについての満足度（小長井地域／評価点）

（単位：評価点）



[図表9]市の取り組みについての満足度（全体、居住地域別）

（上位3項目、単位：評価点）

		第1位	第2位	第3位
全体		健康診断・相談、保健予防への取組 0.75	スポーツ施設の整備 0.69	歴史・文化財の保存、活用、継承 0.31
居住地域	諫早地域	スポーツ施設の整備 0.60	健康診断・相談、保健予防への取組 0.56	歴史・文化財の保存、活用、継承 0.32
	多良見地域	健康診断・相談、保健予防への取組／スポーツ施設の整備 0.96		スポーツ・レクリエーション活動の推進 0.70
	森山地域	上下水道の整備 2.86	スポーツ施設の整備 2.27	健康診断・相談、保健予防への取組 1.43
	飯盛地域	健康診断・相談、保健予防への取組 1.17	スポーツ施設の整備 0.78	スポーツ・レクリエーション活動の推進 0.62
	高来地域	健康診断・相談、保健予防への取組 1.14	スポーツ施設の整備 0.45	ごみ減量化と資源リサイクルへの取組 0.26
	小長井地域	健康診断・相談、保健予防への取組 1.76	上下水道の整備 1.18	平和意識の普及啓発、被爆体験の継承／歴史・文化財の保存、活用、継承 0.70

[図表10]市の取り組みについての満足度（全体、居住地域別）

（下位3項目、単位：評価点）

		第1位	第2位	第3位
全体		商店街の賑わい -6.01	就労支援・働く場の確保 -3.46	観光施設、特産品の情報発信 -2.87
居住地域	諫早地域	商店街の賑わい -6.29	就労支援・働く場の確保 -3.57	観光施設、特産品の情報発信 -3.02
	多良見地域	商店街の賑わい -4.92	就労支援・働く場の確保 -3.03	観光施設、特産品の情報発信 -2.64
	森山地域	商店街の賑わい -5.63	買い物の利便性 -3.60	就労支援・働く場の確保 -3.43
	飯盛地域	商店街の賑わい -5.78	観光施設、特産品の情報発信 -3.59	就労支援・働く場の確保 -3.28
	高来地域	商店街の賑わい -5.61	就労支援・働く場の確保 -3.14	通勤・通学の利便性 -2.78
	小長井地域	商店街の賑わい -5.90	就労支援・働く場の確保 -3.50	買い物の利便性 -3.33

(2) 市の取り組みについての重要度

問2 次にあげる項目について、あなたにとって今後、どの程度重要になると思いますか。
(1)から(48)のそれぞれについて、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。



●重要度の最も高い項目は「就労支援・働く場の確保」。次いで「救急医療、夜間・休日医療体制」「子育て支援への取組」の順。

市の取り組みについて、今後どの程度重視しているかを把握するため、4分野47項目について、「大変重要」「やや重要」「重要でない」の3段階で評価してもらいました。

“重要である”（「大変重要」と「やや重要」の合計）の比率をみると、ほぼすべての項目で7割以上を占めています。

さらに、その結果を加重平均値【後述参照】による数量化で評価点（重要度：最高点10点、最低点0点）を算出しました。

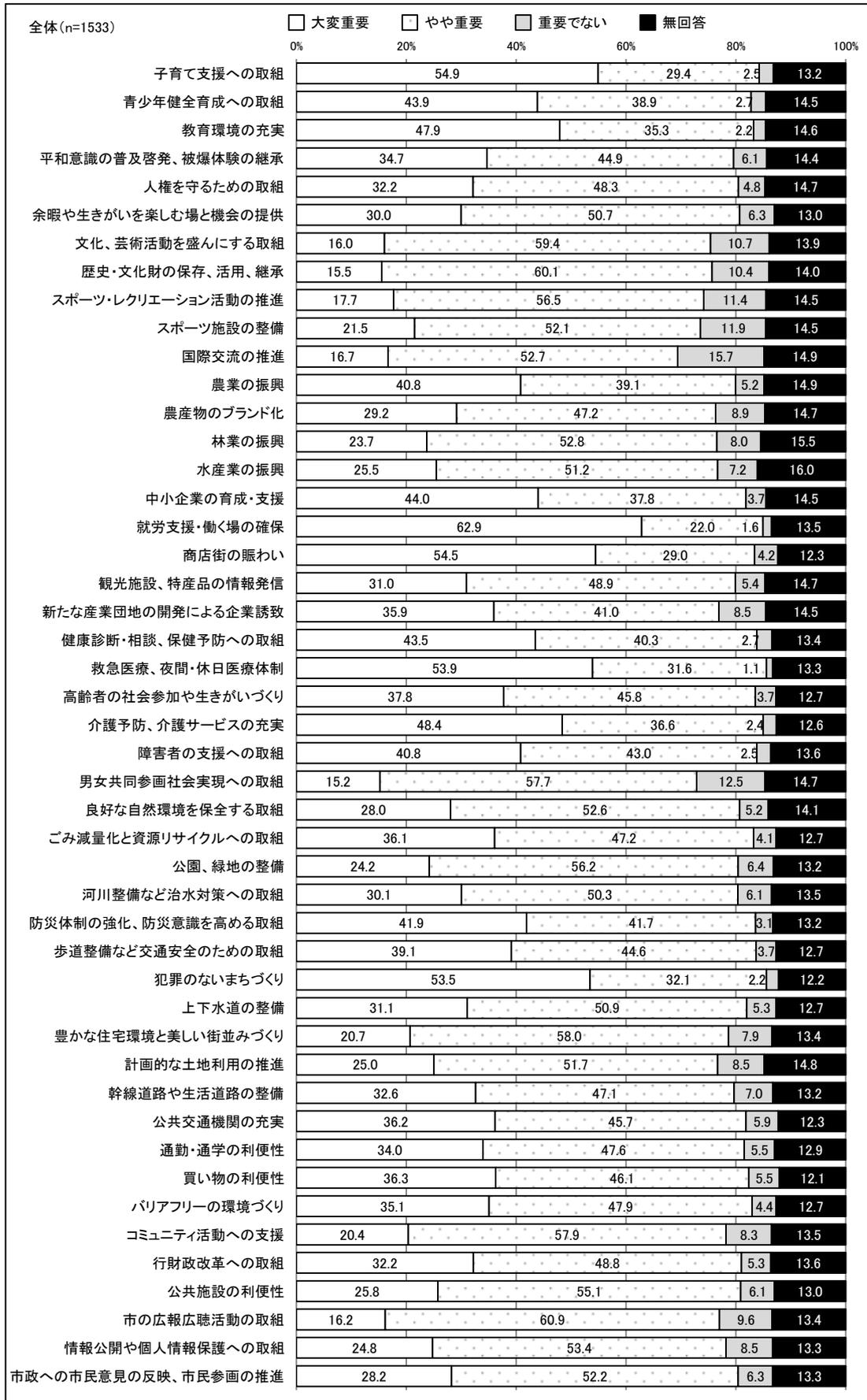
この結果をみると、重要度は「就労支援・働く場の確保」（8.54点）が第1位に挙げられ、次いで第2位が「救急医療、夜間・休日医療体制」（8.05点）、第3位が「子育て支援への取組」（8.02点）と続き、以下、「犯罪のないまちづくり」（7.92点）、「商店街の賑わい」（7.86点）、「教育環境の充実」（7.68点）などの順となっています。また、地域別で重要度の高い項目をみると、すべての地域で全体と同様に「就労支援・働く場の確保」が第1位に挙げられています。【図表11～19参照】

※加重平均値の算出方法

3段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点（重要度）を算出する。

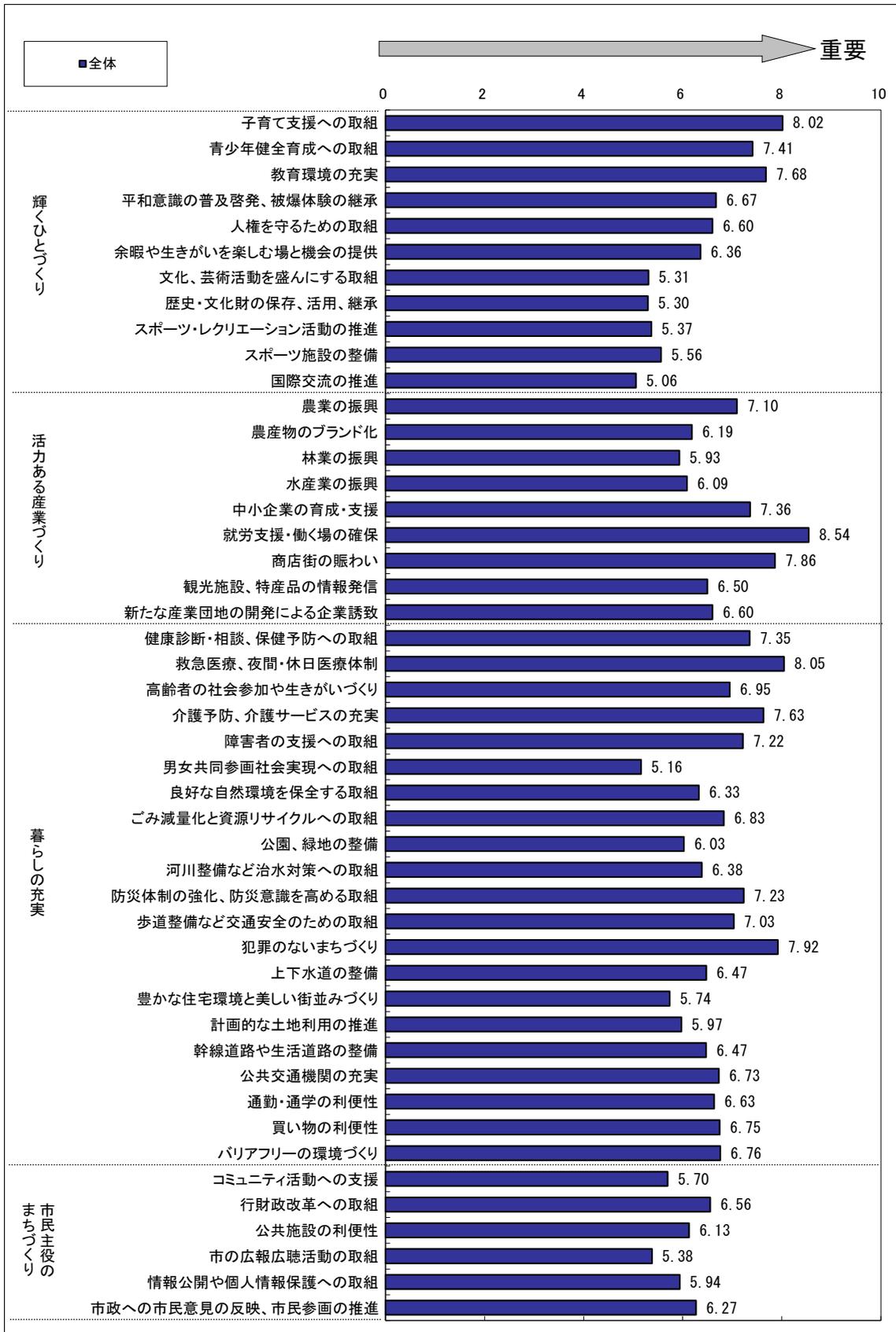
$$\text{評価点} = \left[\begin{array}{l} \text{「大変重要」の回答者数} \times 10 \text{ 点} \\ + \\ \text{「やや重要」の回答者数} \times 5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「重要でない」の回答者数} \times 0 \text{ 点} \end{array} \right] \div \left[\begin{array}{l} \text{「大変重要」、「やや重要」、「重} \\ \text{要でない」の回答者数} \end{array} \right]$$

[図表 11]市の取り組み状況についての重要度（全体／％）



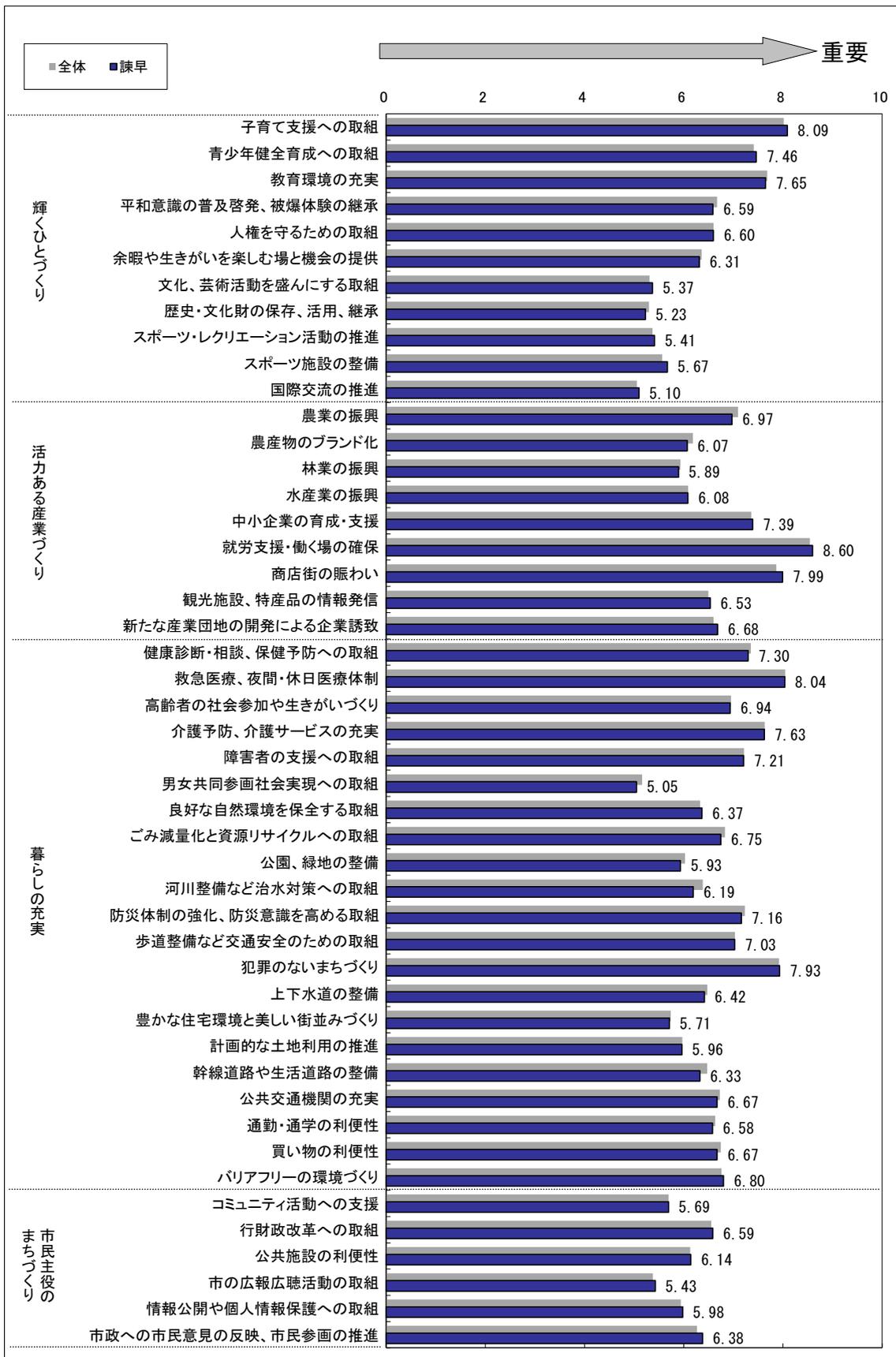
[図表 12]市の取り組みについての重要度（全体／評価点）

（単位：評価点）



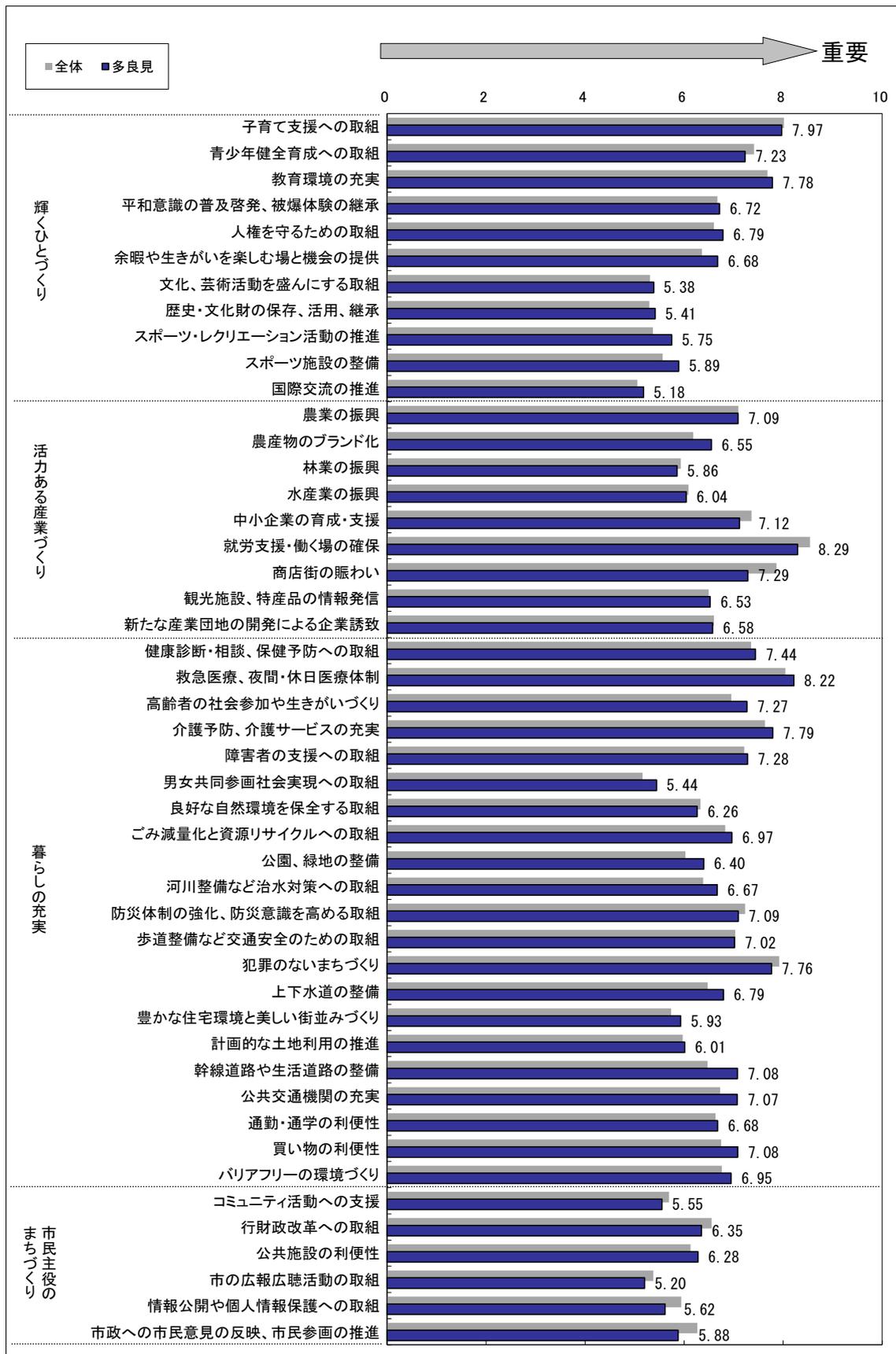
[図表 13]市の取り組みについての重要度（諫早地域／評価点）

（単位：評価点）



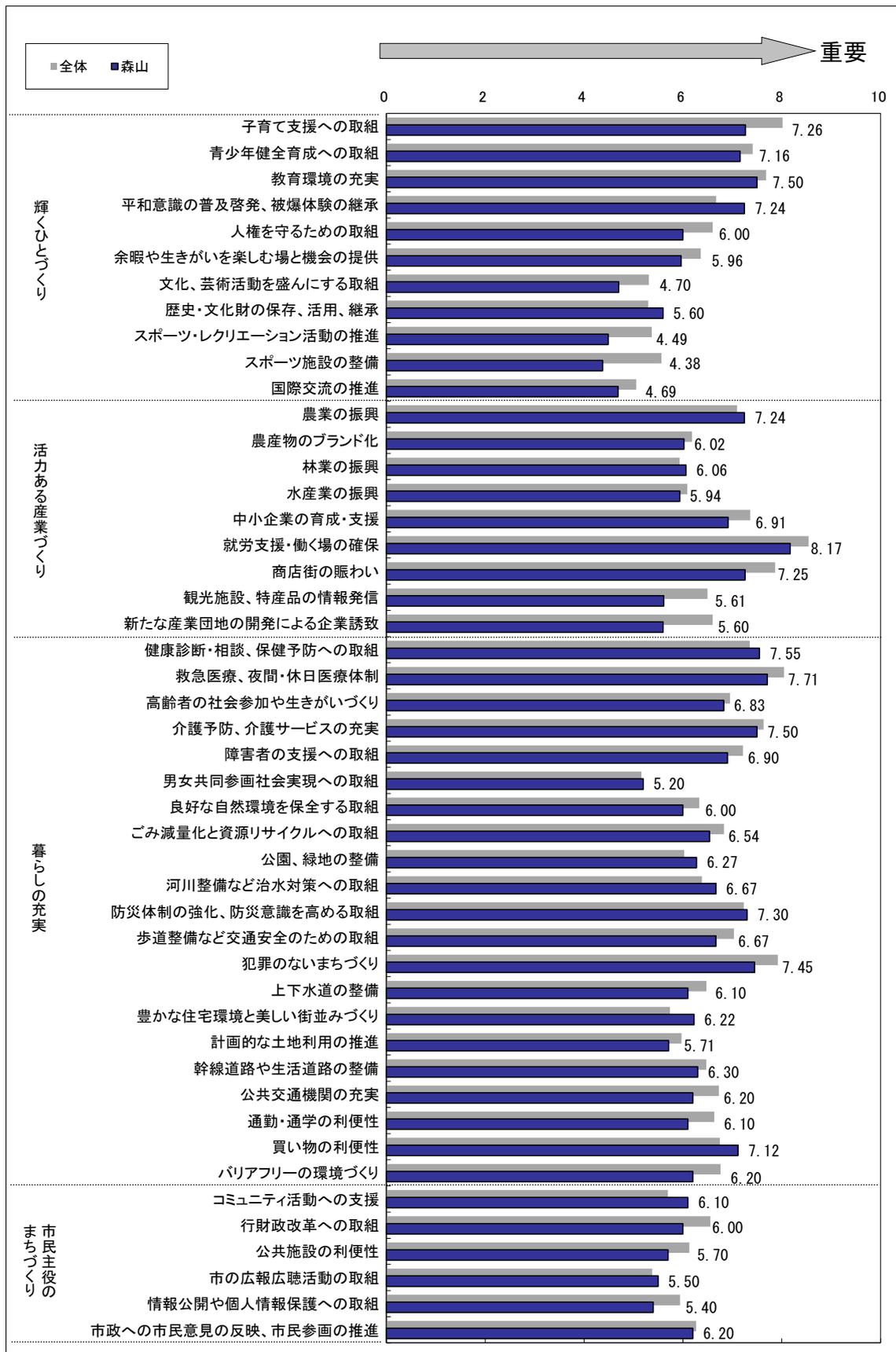
[図表 14]市の取り組みについての重要度（多良見地域／評価点）

（単位：評価点）



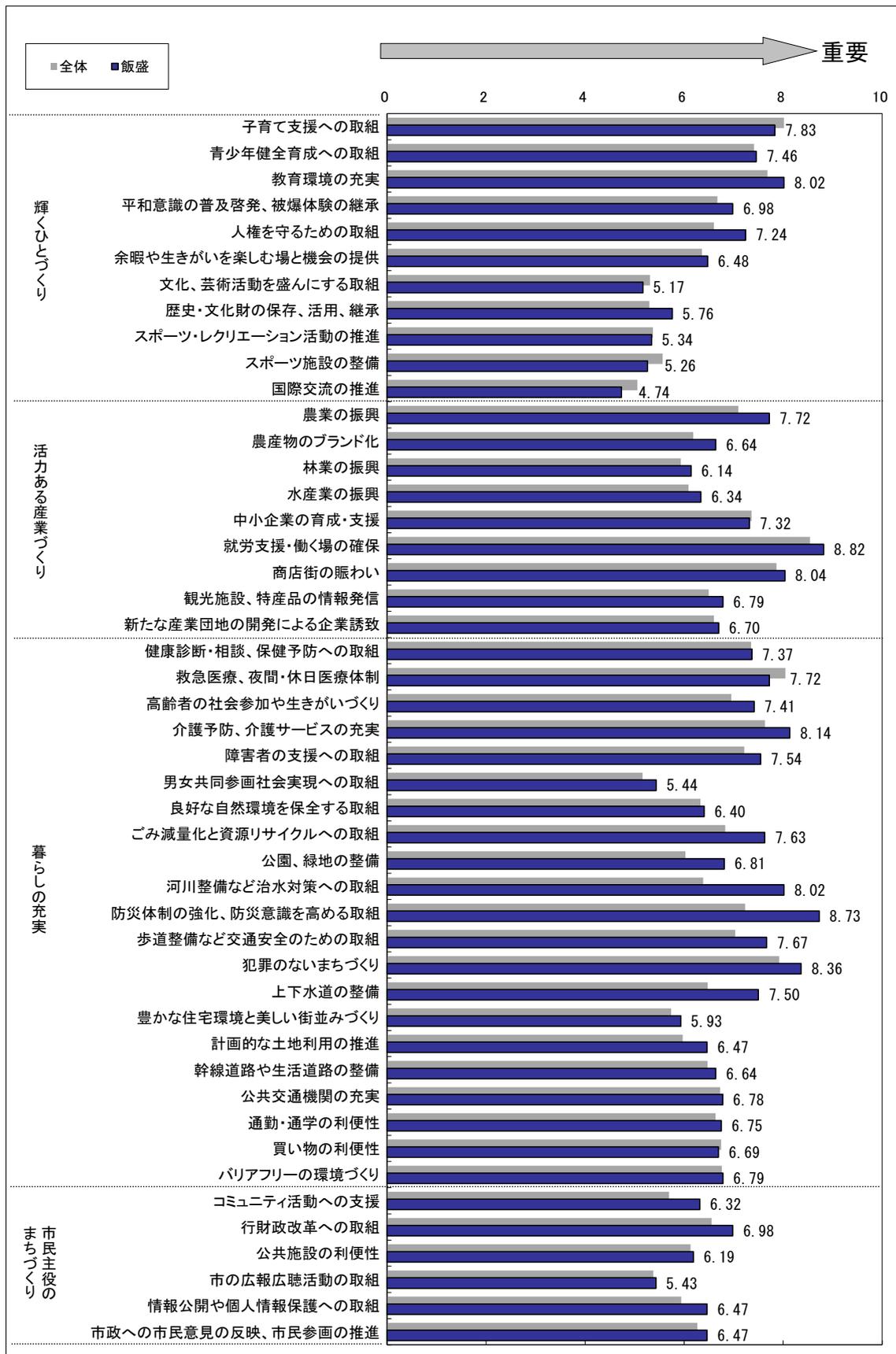
[図表 15]市の取り組みについての重要度（森山地域／評価点）

（単位：評価点）



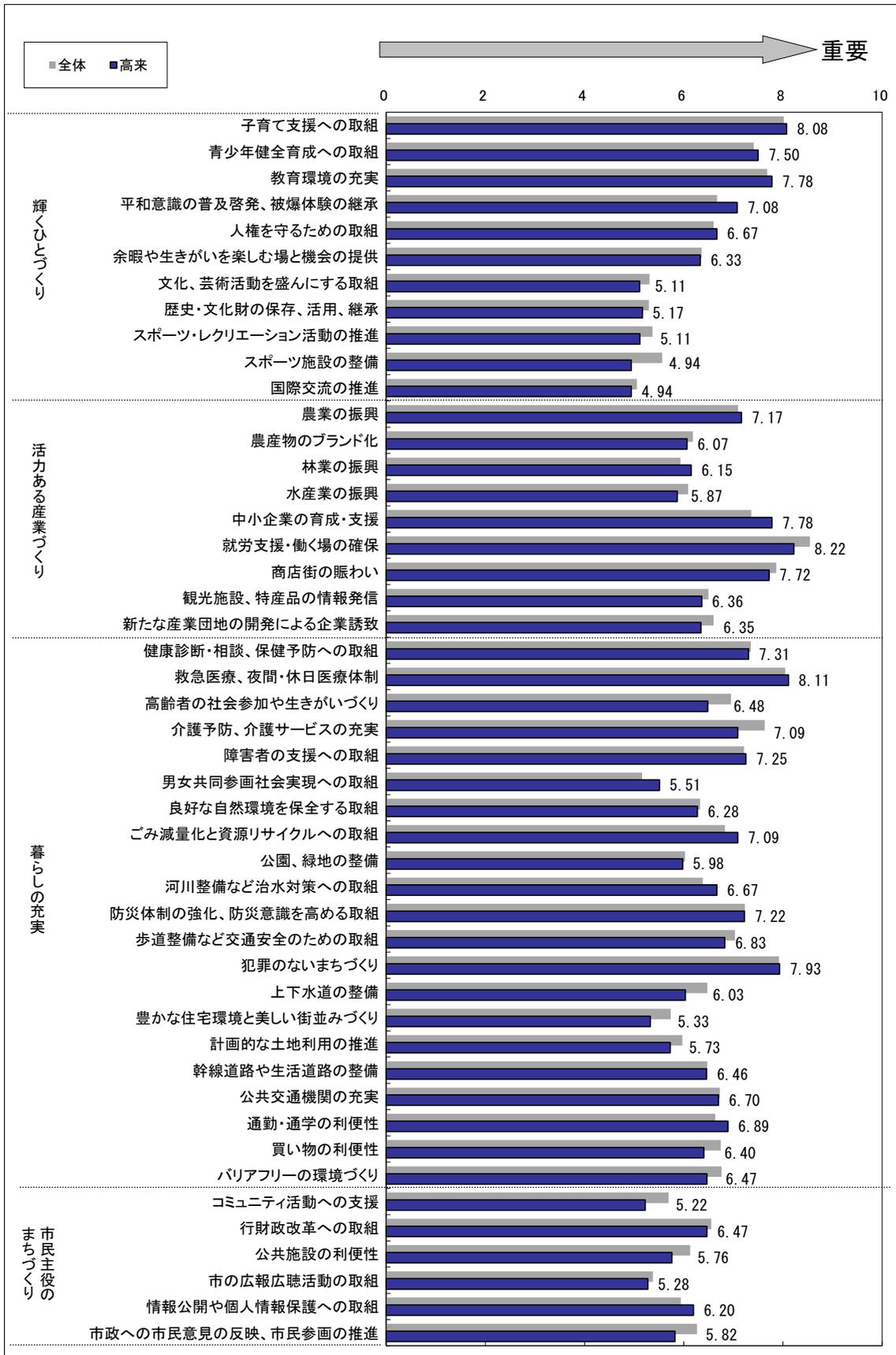
[図表 16]市の取り組みについての重要度（飯盛地域／評価点）

（単位：評価点）



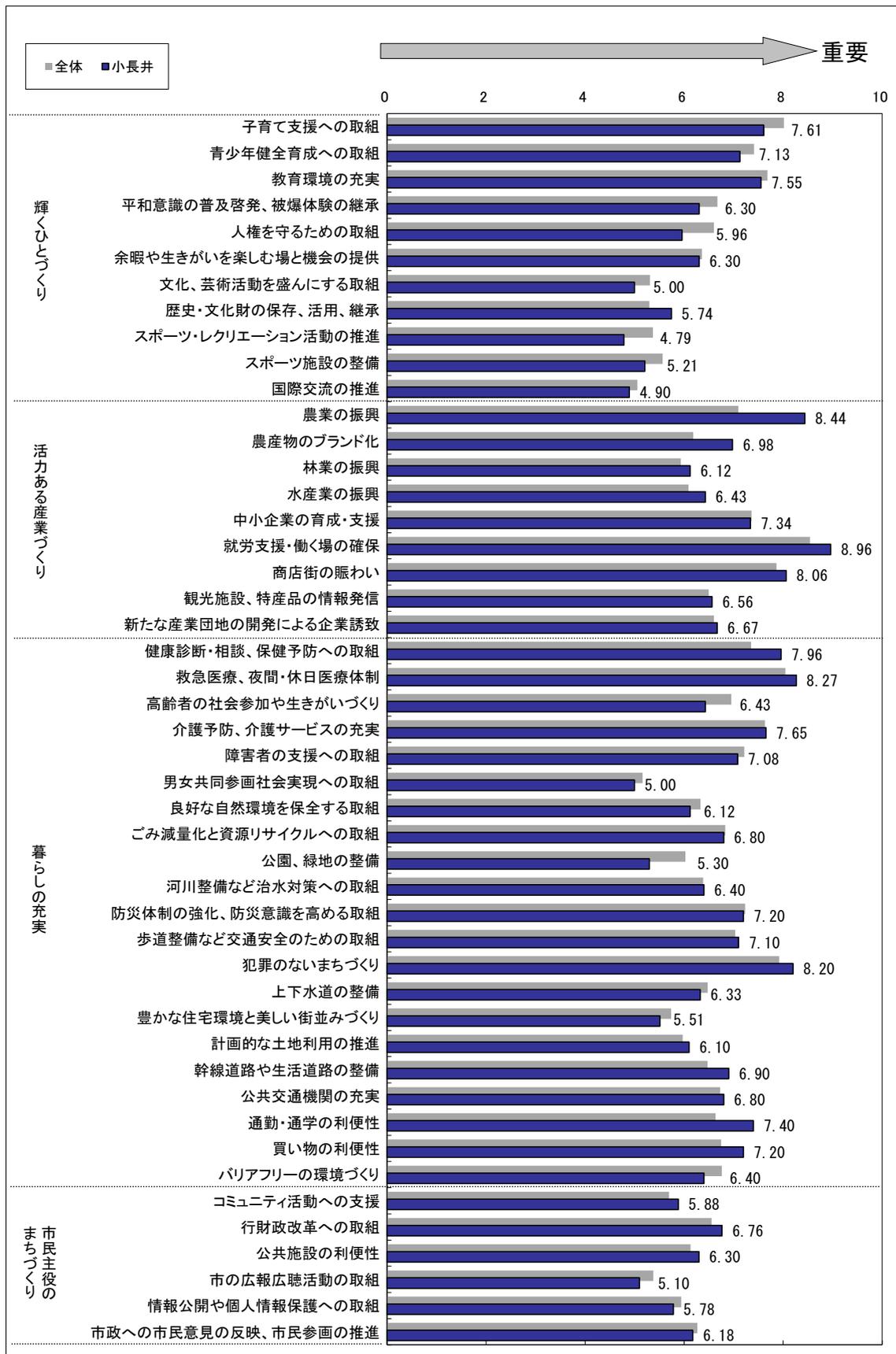
[図表 17]市の取り組みについての重要度（高来地域／評価点）

（単位：評価点）



[図表 18]市の取り組みについての重要度（小長井地域／評価点）

（単位：評価点）



[図表 19]市の取り組みについての重要度（全体、居住地域別）

（上位3項目、単位：評価点）

		第1位	第2位	第3位
全体		就労支援・働く場の確保 8.54	救急医療、夜間・休日医療体制 8.05	子育て支援への取組 8.02
居住地域	諫早地域	就労支援・働く場の確保 8.60	子育て支援への取組 8.09	救急医療、夜間・休日医療体制 8.04
	多良見地域	就労支援・働く場の確保 8.29	救急医療、夜間・休日医療体制 8.22	子育て支援への取組 7.97
	森山地域	就労支援・働く場の確保 8.17	救急医療、夜間・休日医療体制 7.71	健康診断・相談、保健予防への取組 7.55
	飯盛地域	就労支援・働く場の確保 8.82	防災体制の強化、防災意識を高める取組 8.73	犯罪のないまちづくり 8.36
	高来地域	就労支援・働く場の確保 8.22	救急医療、夜間・休日医療体制 8.11	子育て支援への取組 8.08
	小長井地域	就労支援・働く場の確保 8.96	農業の振興 8.44	救急医療、夜間・休日医療体制 8.27

(3) 満足度と重要度の相関（優先度）

●優先度が最も高い項目は「商店街の賑わい」。次いで「就労支援・働く場の確保」、「中小企業の育成・支援」の順。

これまでみてきた満足度と重要度の分析結果を踏まえ、今後優先的に取り組むべき施策項目を抽出するための一つの試みとして、満足度評価と重要度評価を相関させた散布図を作成しました。このグラフでは左上隅の「満足度評価最低・重要度評価最高」に近づくほど優先度が高くなり、右下隅の「満足度評価最高・重要度評価最低」に近づくほど優先度が低くなります。この散布図からの数量化 [下記参照] による分析で優先度（評価点：最高点 42.43 点、中間点 0 点、最低点 -42.43 点）を算出しました。

この結果をみると、優先度は「商店街の賑わい」（32.95 点）が第 1 位に挙げられ、次いで第 2 位が「就労支援・働く場の確保」（31.28 点）、第 3 位が「中小企業の育成・支援」（13.59 点）と続き、以下「観光施設、特産品の情報発信」（7.86 点）、「公共交通機関の充実」（7.20 点）、「救急医療、夜間・休日医療体制」（7.08 点）などの順となっています。[図表 20~23 参照]

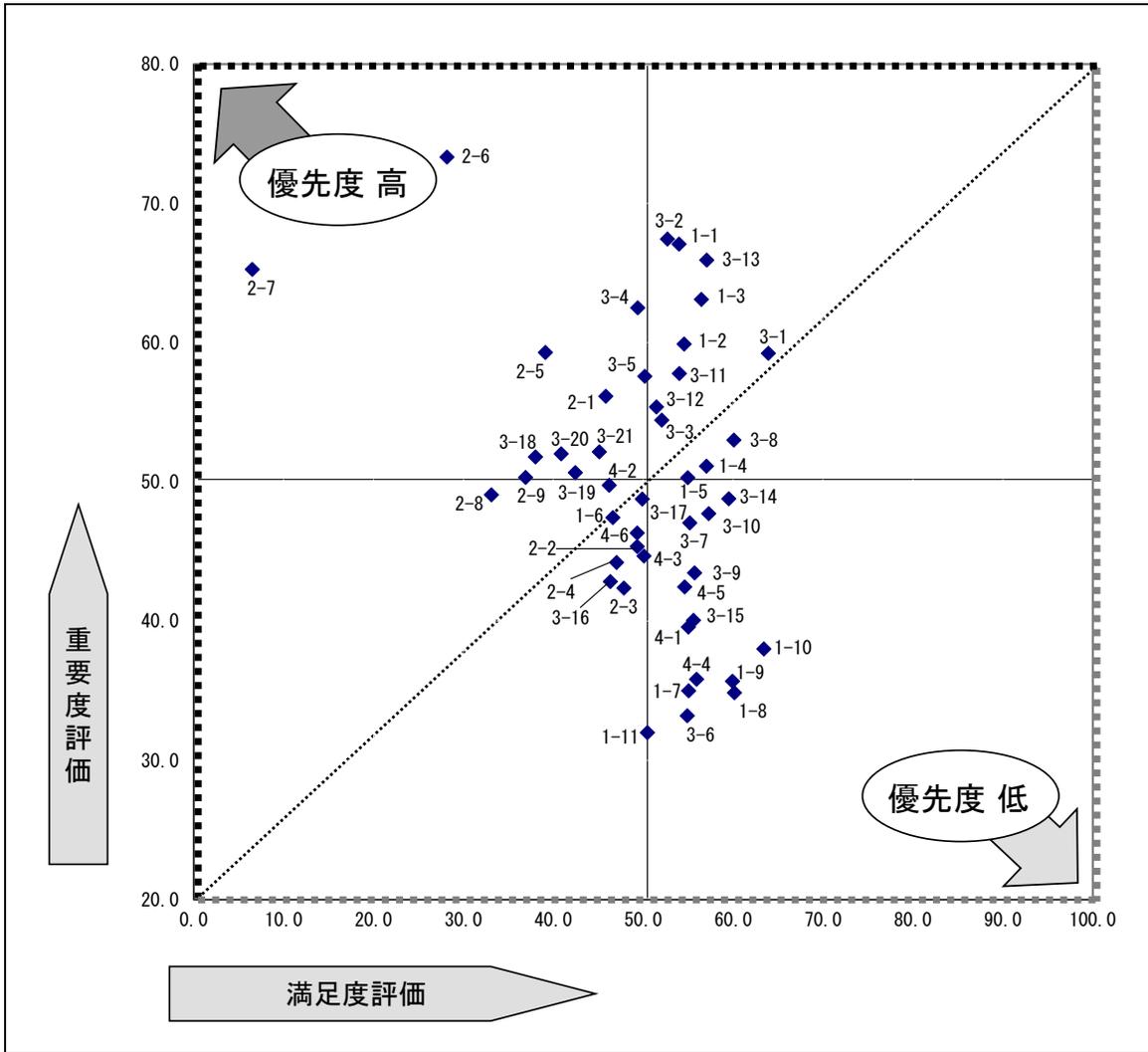
※優先度の算出方法

- ① 散布図を作成するため、満足度偏差値・重要度偏差値を算出する。
例：「商店街の賑わい」→満足度偏差値 6.50…、重要度偏差値 65.26…
- ② ①で算出した偏差値から、平均値（中心）からの距離を算出する。
例：「商店街の賑わい」→ $46.09… = \sqrt{(6.50-50)^2 + (65.26-50)^2}$
- ③ 平均値（中心）から「満足度評価最低・重要度評価最高」への線と、平均値（中心）から各項目への線の角度を求める。
例：「商店街の賑わい」→25.66 度
- ④ ③で求められた角度より修正指数を算出する（指数は下記のとおり設定し、左上隅の「満足度評価最低・重要度評価最高」に近づくほど得点が高くなる）。
例：「商店街の賑わい」→ $0.7148 = (90-25.66) \times (1 \div 90)$
- ⑤ ②で算出された平均値（中心）からの距離と④で算出された修正指数から優先度を算出する。
例：「商店街の賑わい」→ $32.95 = 46.09… \times 0.7148…$

距離・角度

指数の設定

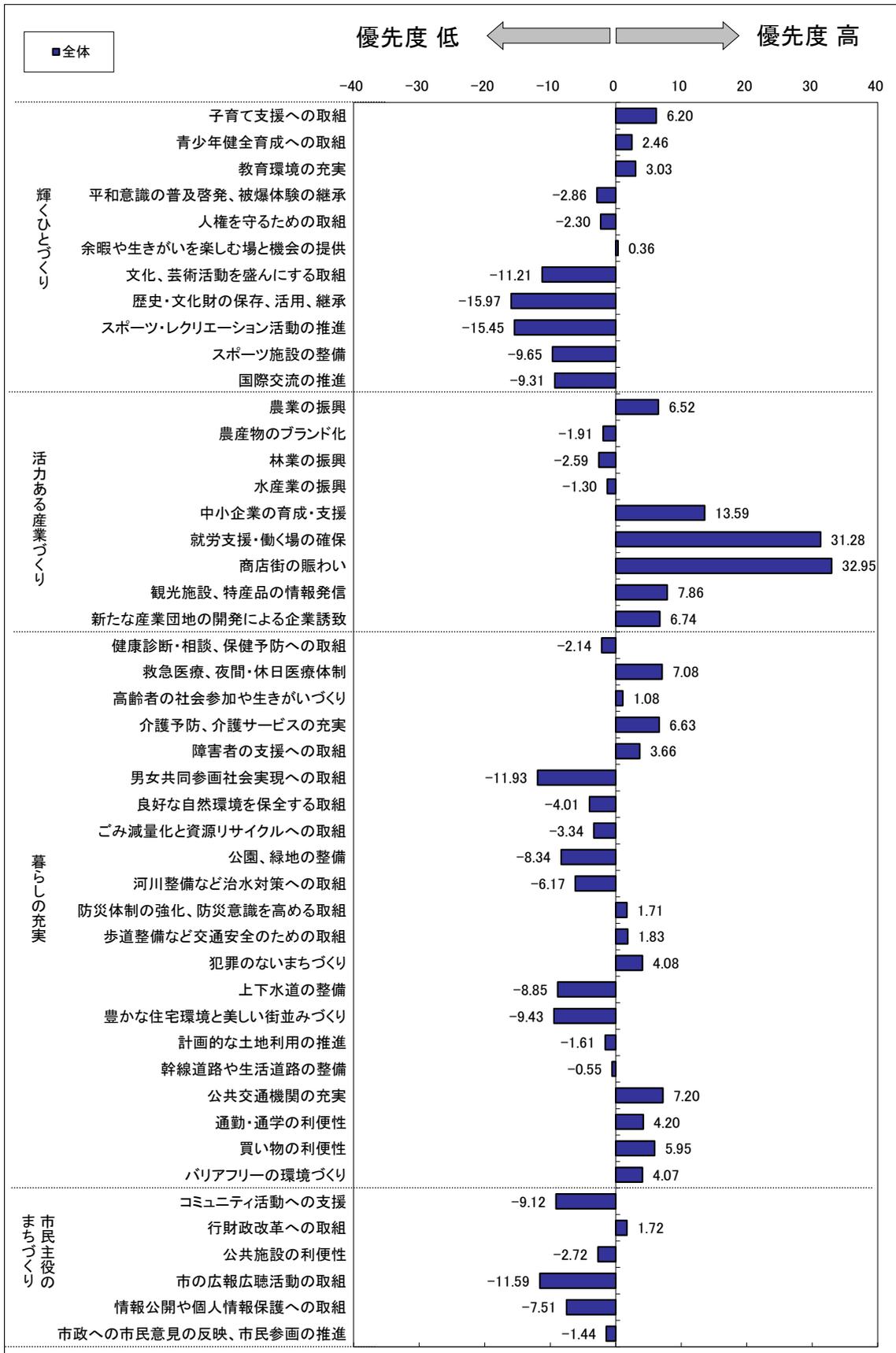
[図表 20] 優先度（全体）



凡 例		
1-1 子育て支援への取組	2-6 就労支援・働く場の確保	3-13 犯罪のないまちづくり
1-2 青少年健全育成への取組	2-7 商店街の賑わい	3-14 上下水道の整備
1-3 教育環境の充実	2-8 観光施設、特産品の情報発信	3-15 豊かな住宅環境と美しい街並みづくり
1-4 平和意識の普及啓発、被爆体験の継承	2-9 新たな産業団地の開発による企業誘致	3-16 計画的な土地利用の推進
1-5 人権を守るための取組	3-1 健康診断・相談、保健予防への取組	3-17 幹線道路や生活道路の整備
1-6 余暇や生きがいを楽しむ場と機会の提供	3-2 救急医療、夜間・休日医療体制	3-18 公共交通機関の充実
1-7 文化、芸術活動を盛んにする取組	3-3 高齢者の社会参加や生きがいづくり	3-19 通勤・通学の利便性
1-8 歴史・文化財の保存、活用、継承	3-4 介護予防、介護サービスの充実	3-20 買い物の利便性
1-9 スポーツ・レクリエーション活動の推進	3-5 障害者の支援への取組	3-21 バリアフリーの環境づくり
1-10 スポーツ施設の整備	3-6 男女共同参画社会実現への取組	4-1 コミュニティ活動への支援
1-11 国際交流の推進	3-7 良好な自然環境を保全する取組	4-2 行財政改革への取組
2-1 農業の振興	3-8 ごみ減量化と資源リサイクルへの取組	4-3 公共施設の利便性
2-2 農産物のブランド化	3-9 公園、緑地の整備	4-4 市の広報広聴活動の取組
2-3 林業の振興	3-10 河川整備など治水対策への取組	4-5 情報公開や個人情報保護への取組
2-4 水産業の振興	3-11 防災体制の強化、防災意識を高める取組	4-6 市政への市民意見の反映、市民参画の推進
2-5 中小企業の育成・支援	3-12 歩道整備など交通安全のための取組	

[図表 21] 優先度（全体）

（単位：評価点）



[図表 22] 優先度（全体）

（上位 10 項目、単位：評価点）

順位	項目	評価点
第1位	商店街の賑わい	32.95
第2位	就労支援・働く場の確保	31.28
第3位	中小企業の育成・支援	13.59
第4位	観光施設、特産品の情報発信	7.86
第5位	公共交通機関の充実	7.20
第6位	救急医療、夜間・休日医療体制	7.08
第7位	新たな産業団地の開発による企業誘致	6.74
第8位	介護予防、介護サービスの充実	6.63
第9位	農業の振興	6.52
第10位	子育て支援への取組	6.20

[図表 23] 優先度（全体）

（下位 10 項目、単位：評価点）

順位	項目	評価点
第1位	歴史・文化財の保存、活用、継承	-15.97
第2位	スポーツ・レクリエーション活動の推進	-15.45
第3位	男女共同参画社会実現への取組	-11.93
第4位	市の広報広聴活動の取組	-11.59
第5位	文化、芸術活動を盛んにする取組	-11.21
第6位	スポーツ施設の整備	-9.65
第7位	豊かな住宅環境と美しい街並みづくり	-9.43
第8位	国際交流の推進	-9.31
第9位	コミュニティ活動への支援	-9.12
第10位	上下水道の整備	-8.85

2 地域との関わりや地域活動について

(1) 地域の活動や行事に参加した頻度

問3 あなたはこの1年で、地域の活動や行事にどの程度参加されましたか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。



● 「年に数回程度」が46.4%で最も多い。

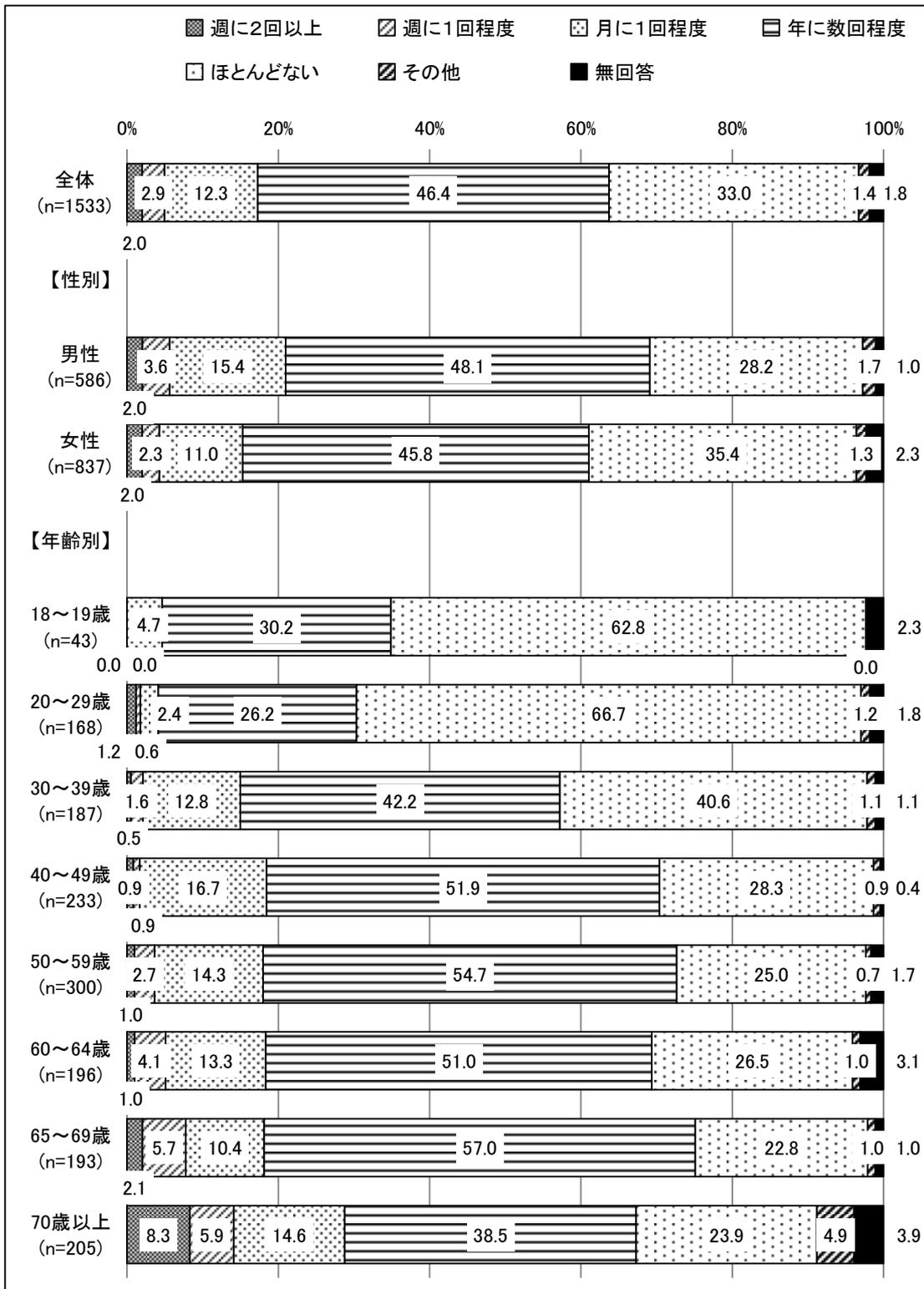
この1年で地域の活動や行事にどの程度参加したかについては、「年に数回程度」(46.4%)が最も多く、次いで「ほとんどない」(33.0%)、「月に1回程度」(12.3%)「週に1回程度」(2.9%)、「週に2回以上」(2.0%)の順となっています。

性別で見ると、男女ともに「年に数回程度」が最も多くなっています。また、「週に2回以上」は男女ともに2.0%と同率となっていますが、「週に1回程度」「月に1回程度」「年に数回程度」は男性が女性を上回っており、男性の方が女性より地域の活動や行事の参加率が高い傾向がうかがえます。

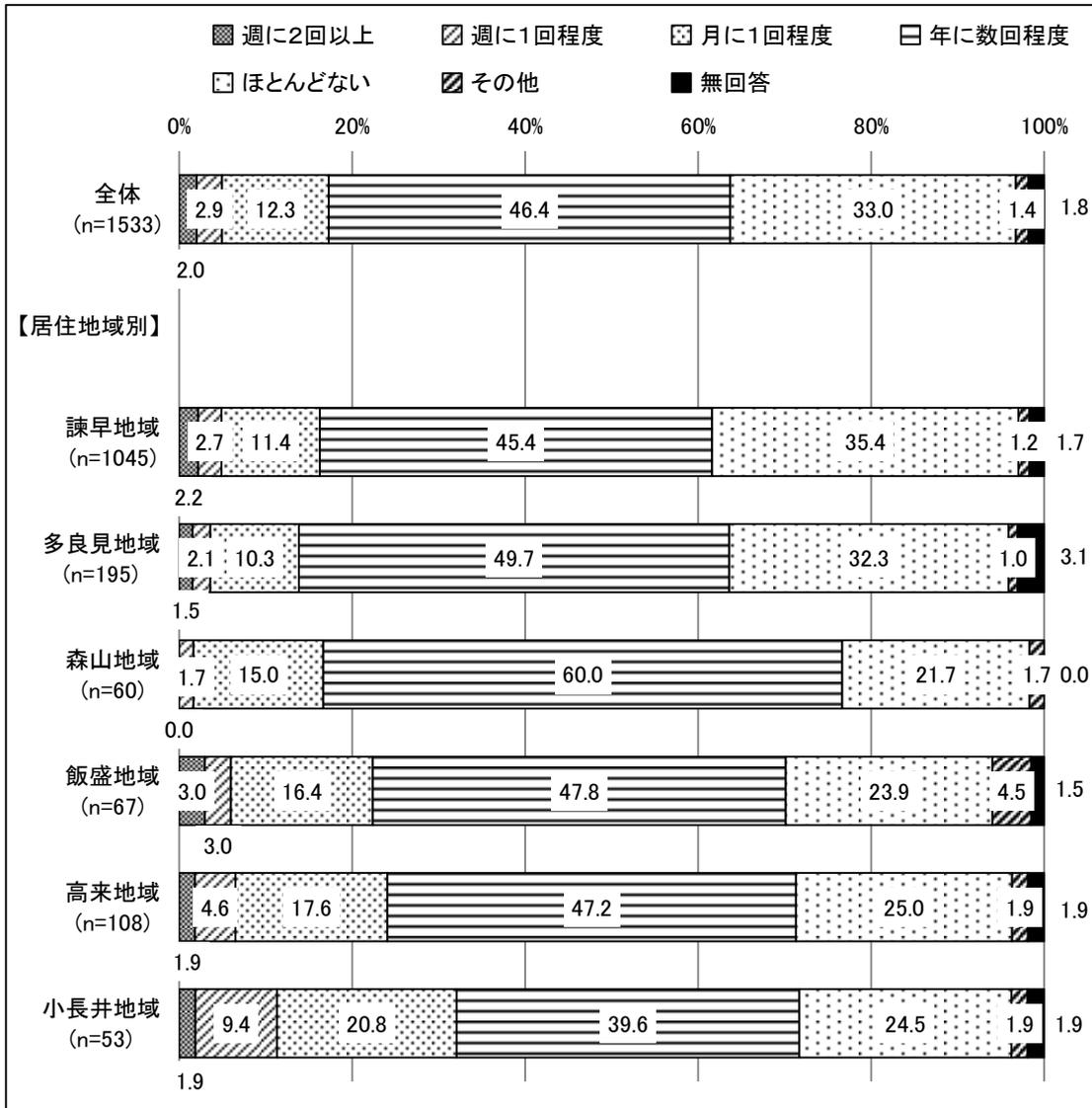
年齢別で見ると、30歳以上の層では「年に数回程度」が最も多くなっていますが、18～19歳と20～29歳では「ほとんどない」が最も多く、6割以上を占めています。

居住地域別で見ると、すべての地域で「年に数回程度」が最も多く4～5割前後を占めており、特に森山地域では6割と半数以上を占めています。[図表24～25参照]

[図表 24] 地域の活動や行事に参加した頻度（全体、性別、年齢別）



[図表 25] 地域の活動や行事に参加した頻度（全体、居住地域別）



(2) 実施すべき防災活動

問4 お住まいの地域で実施したらいいと思う防災活動はありますか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。【複数回答】

●「災害発生のおそれのある所を点検する」が57.0%で第1位。

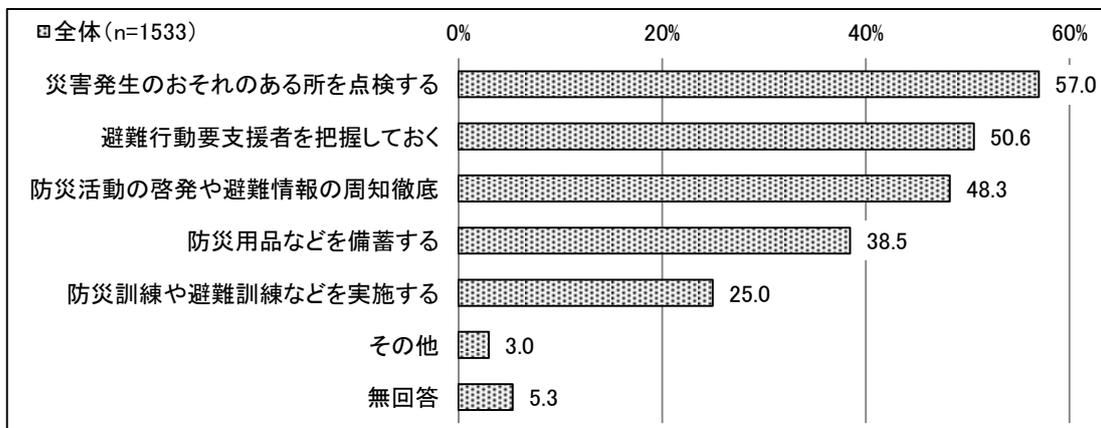
居住地域で実施すべき防災活動については、「災害発生のおそれのある所を点検する」(57.0%)が第1位に挙げられ、次いで「避難行動要支援者を把握しておく」(50.6%)、「防災活動の啓発や避難情報の周知徹底」(48.3%)が上位を占め、以下、「防災用品などを備蓄する」(38.5%)が続いています。

男女別でみると、男女ともに全体と同様で「災害発生のおそれのある所を点検する」「避難行動要支援者を把握しておく」「防災活動の啓発や避難情報の周知徹底」が上位を占めています。

年齢別でみると、18～19歳では「防災活動の啓発や避難情報の周知徹底」、60～64歳と70歳以上では「避難行動要支援者を把握しておく」、それ以外の年齢層では「災害発生のおそれのある所を点検する」が第1位に挙げられています。また、すべての年齢層で「防災活動の啓発や避難情報の周知徹底」が上位3位以内に挙げられています。

居住地域別でみると、小長井地域では「避難行動要支援者を把握しておく」、それ以外の地域では「災害発生のおそれのある所を点検する」が第1位に挙げられています。また、すべての地域で「避難行動要支援者を把握しておく」が上位3位以内に挙げられています。[図表26～27参照]

[図表26]実施すべき防災活動（全体／複数回答）



[図表 27]実施すべき防災活動（全体、性別、年齢別、居住地域別／複数回答）

（上位3項目、単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		災害発生のおそれのある所を点検する 57.0	避難行動要支援者を把握しておく 50.6	防災活動の啓発や避難情報の周知徹底 48.3
性別	男性	災害発生のおそれのある所を点検する 56.3	防災活動の啓発や避難情報の周知徹底 49.8	避難行動要支援者を把握しておく 46.8
	女性	災害発生のおそれのある所を点検する 57.6	避難行動要支援者を把握しておく 52.9	防災活動の啓発や避難情報の周知徹底 46.8
年齢	18～19歳	防災活動の啓発や避難情報の周知徹底 65.1	避難行動要支援者を把握しておく 55.8	災害発生のおそれのある所を点検する 51.2
	20～29歳	災害発生のおそれのある所を点検する 63.7	防災活動の啓発や避難情報の周知徹底 56.0	避難行動要支援者を把握しておく 53.0
	30～39歳	災害発生のおそれのある所を点検する 62.0	防災活動の啓発や避難情報の周知徹底 54.0	防災用品などを備蓄する 49.2
	40～49歳	災害発生のおそれのある所を点検する 56.2	防災用品などを備蓄する 50.6	防災活動の啓発や避難情報の周知徹底 49.4
	50～59歳	災害発生のおそれのある所を点検する 62.3	避難行動要支援者を把握しておく 52.0	防災活動の啓発や避難情報の周知徹底 46.7
	60～64歳	避難行動要支援者を把握しておく 58.7	防災活動の啓発や避難情報の周知徹底 52.6	災害発生のおそれのある所を点検する 52.0
	65～69歳	災害発生のおそれのある所を点検する 57.5	避難行動要支援者を把握しておく 48.2	防災活動の啓発や避難情報の周知徹底 44.0
	70歳以上	避難行動要支援者を把握しておく 46.3	災害発生のおそれのある所を点検する 45.9	防災活動の啓発や避難情報の周知徹底 33.2
居住地域	諫早地域	災害発生のおそれのある所を点検する 56.2	避難行動要支援者を把握しておく 51.1	防災活動の啓発や避難情報の周知徹底 50.5
	多良見地域	災害発生のおそれのある所を点検する 59.5	避難行動要支援者を把握しておく 49.7	防災活動の啓発や避難情報の周知徹底 48.2
	森山地域	災害発生のおそれのある所を点検する 56.7	避難行動要支援者を把握しておく 50.0	防災用品などを備蓄する 43.3
	飯盛地域	災害発生のおそれのある所を点検する 61.2	避難行動要支援者を把握しておく 47.8	防災用品などを備蓄する 43.3
	高来地域	災害発生のおそれのある所を点検する 59.3	避難行動要支援者を把握しておく 42.6	防災活動の啓発や避難情報の周知徹底 39.8
	小長井地域	避難行動要支援者を把握しておく 64.2	災害発生のおそれのある所を点検する 52.8	防災活動の啓発や避難情報の周知徹底 41.5

(3) 実行できる手助け

問5 ご近所とおつきあいの中で、あなたが今後、周りの方などに手助けをしてもよいと思うことがありますか。(1)から(8)のそれぞれについて、あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。



●すべての項目で「できればしてあげたい」が最も多い。

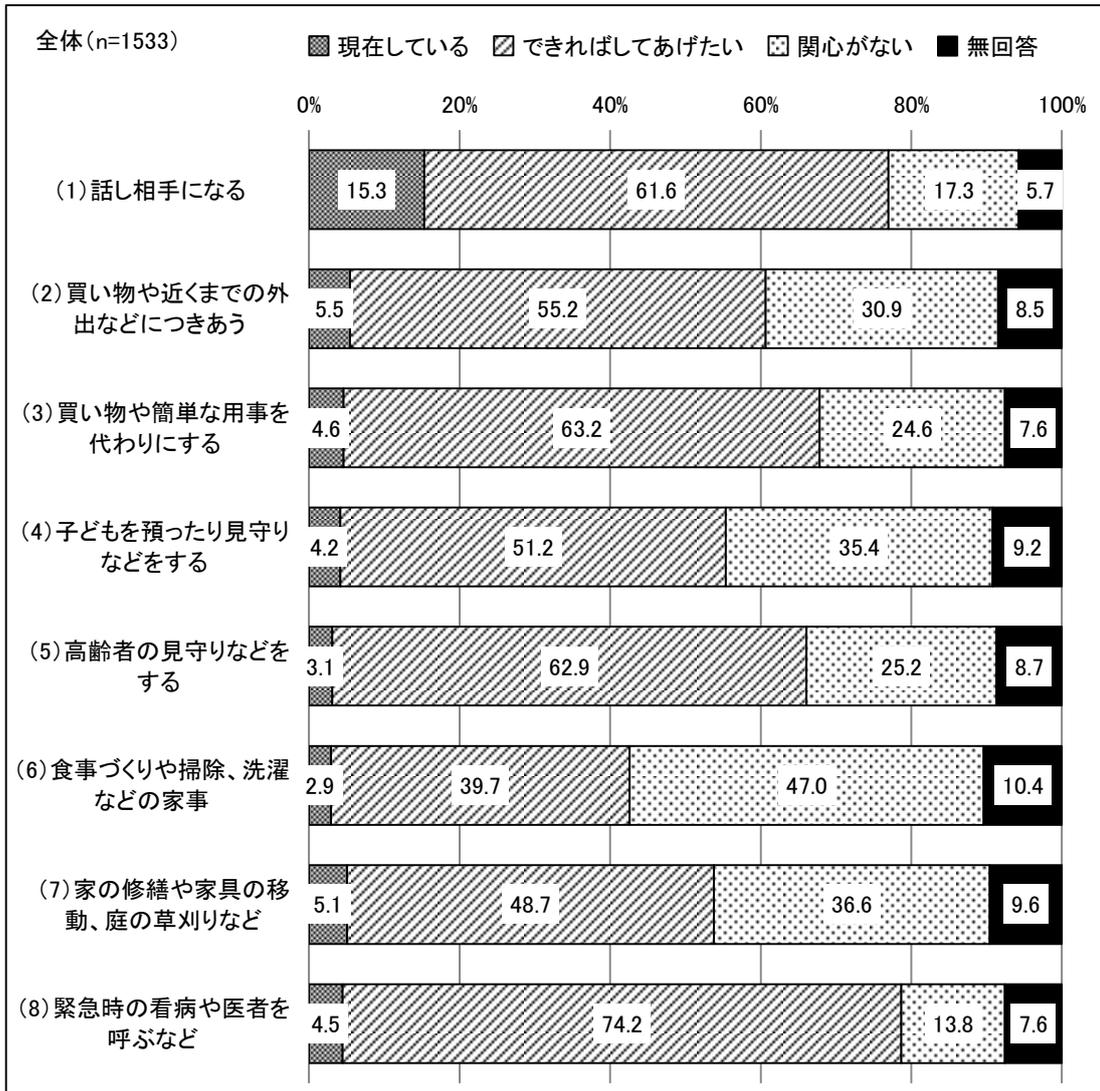
ご近所とおつきあいの中で、今後周りの方などに手助けをしてもよいと思うことについては、すべての項目で「できればしてあげたい」が最も多く、次いで「関心がない」「現在している」の順となっています。また、「現在している」と「できればしてあげたい」を合わせた“現在している・してあげたい”の比率が高い項目としては『(8)緊急時の看病や医者を呼ぶなど』(78.7%)が最も多く、次いで『(1)話し相手になる』(76.9%)、『(3)買い物や簡単な用事を代わりにする』(67.8%)、『(5)高齢者の見守りなどをする』(66.0%)などの順となっています。

性別で“現在している・してあげたい”の比率をみると、男性は『(8)緊急時の看病や医者を呼ぶなど』(82.4%)、女性は『(1)話し相手になる』(77.9%)がそれぞれ最も多くなっています。また、男性は『(7)家の修繕や家具の移動、庭の草刈りなど』(65.0%)などの割合が女性よりやや多く、女性は『(6)食事づくりや掃除、洗濯などの家事』(46.0%)などの割合が男性よりやや多くなっています。

年齢別で“現在している・してあげたい”の比率をみると、50～59歳と70歳以上は『(1)話し相手になる』、それ以外の年齢層は『(8)緊急時の看病や医者を呼ぶなど』が最も多くなっています。

居住地域別で“現在している・してあげたい”の比率をみると、高来地域と小長井地域は『(1)話し相手になる』、諫早地域と多良見地域は『(8)緊急時の看病や医者を呼ぶなど』、森山地域と飯盛地域は『(1)話し相手になる』及び『(8)緊急時の看病や医者を呼ぶなど』が最も多くなっています。[図表 28～29 参照]

[図表 28] 実行できる手助け（全体）



[図表 29] 実行できる手助けについての“現在している・してあげたい”の割合
(全体、性別、年齢別、居住地域別)

(単位：%)

		n	(1) 話し相手になる	(2) 買い物や近くまでの外出などにつきあう	(3) 買い物や簡単な用事を代わりにする	(4) 子どもを預ったり見守りなどをする	(5) 高齢者の見守りなどをする	(6) 食事づくりや掃除、洗濯などの家事	(7) 家の修繕や家具の移動、庭の草刈りなど	(8) 緊急時の看病や医者を呼ぶなど
全体		1533	76.9	60.7	67.8	55.4	66.0	42.6	53.8	78.7
性別	男性	586	76.4	59.3	66.9	54.5	68.4	39.0	65.0	82.4
	女性	837	77.9	61.9	69.9	57.0	65.7	46.0	47.2	77.6
年齢	18～19 歳	43	76.7	58.1	62.8	55.8	53.5	53.5	65.1	83.7
	20～29 歳	168	72.0	52.4	58.4	53.6	60.1	37.5	48.8	79.8
	30～39 歳	187	74.9	57.2	66.3	64.7	64.7	40.1	49.8	79.1
	40～49 歳	233	74.3	57.9	67.3	56.7	66.1	39.9	54.5	80.3
	50～59 歳	300	80.7	66.0	74.7	58.3	69.7	46.3	54.0	77.7
	60～64 歳	196	76.6	65.8	69.9	57.2	72.0	46.0	56.1	81.1
	65～69 歳	193	83.4	66.3	77.2	53.9	73.0	44.1	63.8	87.0
	70 歳以上	205	74.6	55.6	57.5	43.4	57.1	39.5	46.4	65.3
居住地域	諫早地域	1045	76.6	58.3	66.3	53.5	64.4	40.6	51.8	78.5
	多良見地域	195	73.4	63.1	70.8	55.9	66.1	42.0	52.9	79.5
	森山地域	60	85.0	70.0	76.7	66.7	76.7	53.3	65.0	85.0
	飯盛地域	67	80.6	74.7	79.1	68.7	76.1	49.3	64.2	80.6
	高来地域	108	75.0	60.2	62.9	53.7	62.0	43.5	53.7	73.2
	小長井地域	53	86.8	71.7	73.6	67.9	81.2	64.2	73.6	81.2

(4) 地域の活動や行事などへの参加について

問6 地域の活動や行事などへの参加について、あなたは次のようなことに参加したことがありますか。また、今後参加しようと思いませんか。(1)から(11)のそれぞれについて、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

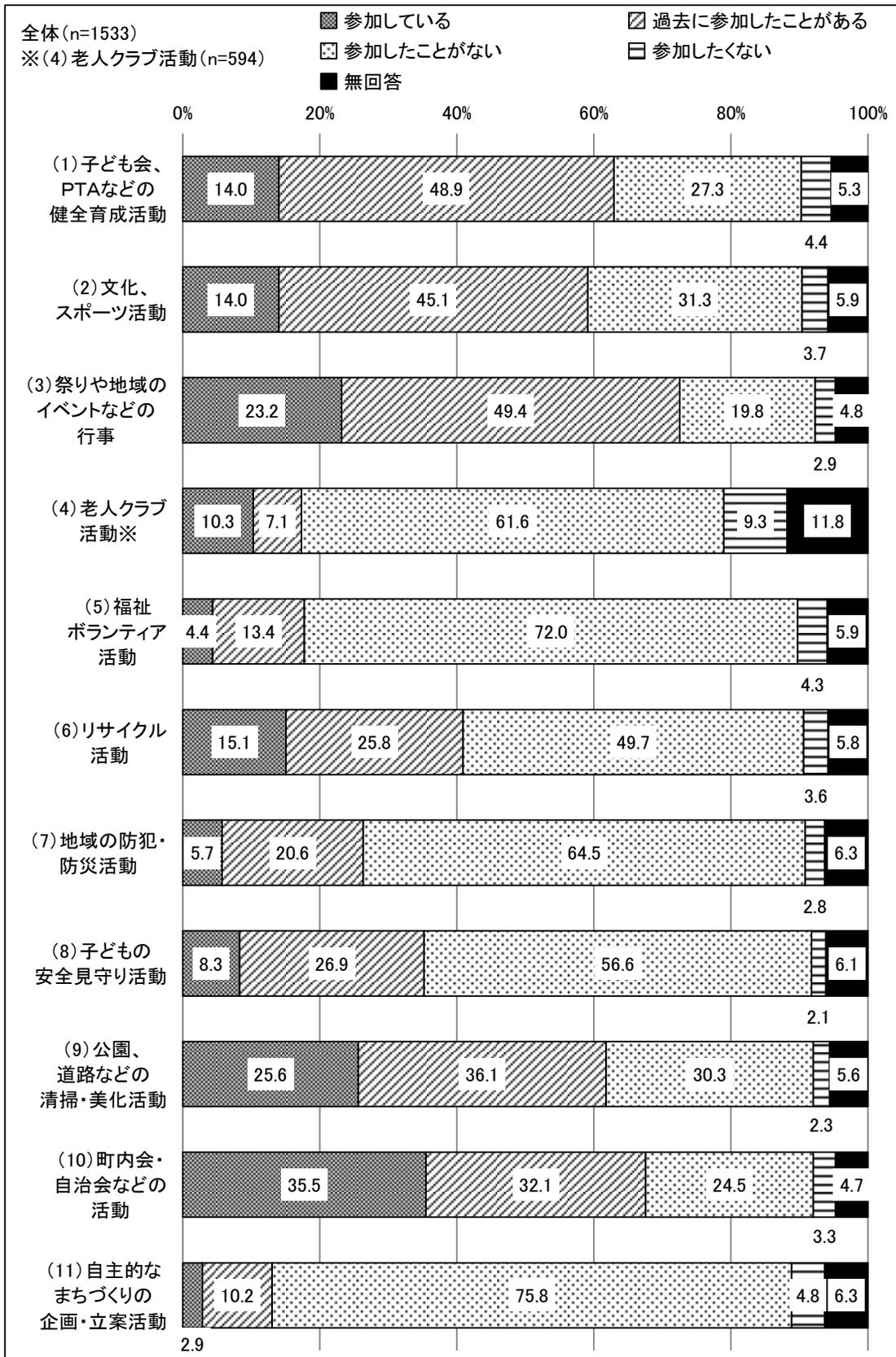
①参加状況

- 『(11) 自主的なまちづくりの企画・立案活動』では7割以上が「参加したことがない」と回答。

地域の活動や行事などの参加状況については、『(10) 町内会・自治会などの活動』では「参加している」、『(1) 子ども会、PTAなどの健全育成活動』『(2) 文化、スポーツ活動』『(3) 祭りや地域のイベントなどの行事』『(9) 公園、道路などの清掃・美化活動』では「過去に参加したことがある」、『(4) 老人クラブ活動』『(5) 福祉ボランティア活動』『(6) リサイクル活動』『(7) 地域の防犯・防災活動』『(8) 子どもの安全見守り活動』『(11) 自主的なまちづくりの企画・立案活動』では「参加したことがない」がそれぞれ最も多くなっています。

「参加したことがない」の比率が高い項目としては、『(4) 老人クラブ活動』『(5) 福祉ボランティア活動』『(7) 地域の防犯・防災活動』『(8) 子どもの安全見守り活動』『(11) 自主的なまちづくりの企画・立案活動』が5割を超えており、半数以上が「参加したことがない」と回答しています。特に、『(5) 福祉ボランティア活動』『(11) 自主的なまちづくりの企画・立案活動』では7割を超えています。[図表 30 参照]

[図表 30] 地域の活動や行事などへの参加について①参加状況（全体）



※回答者を 60 歳以上で抽出

①参加状況（1）子ども会、PTAなどの健全育成活動

- 「過去に参加したことがある」が48.9%で最も多い。

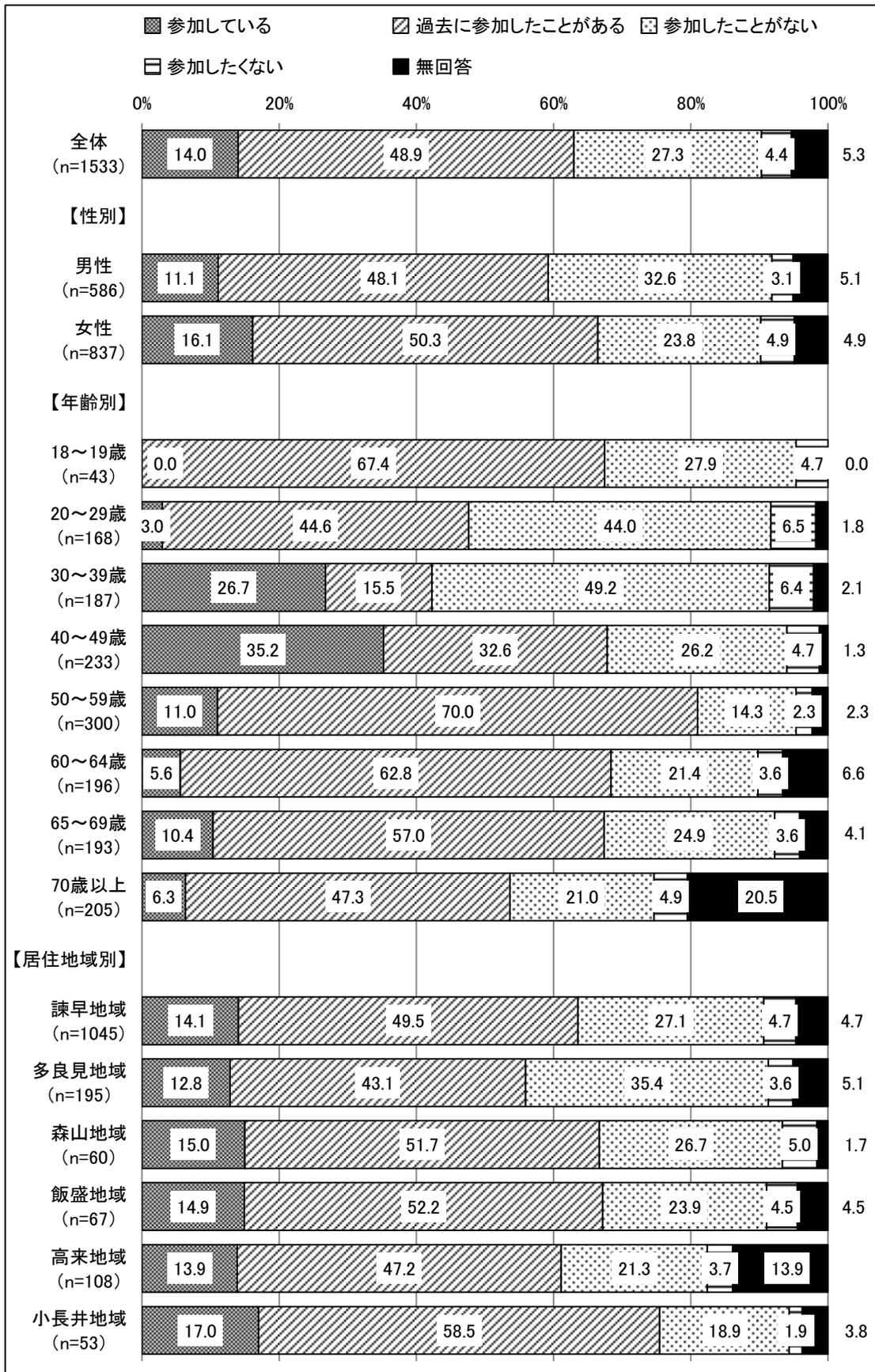
子ども会、PTAなどの健全育成活動の参加状況については、「過去に参加したことがある」(48.9%)が最も多く、次いで「参加したことがない」(27.3%)、「参加している」(14.0%)、「参加したくない」(4.4%)の順となっています。

性別で見ると、男女ともに「過去に参加したことがある」が5割前後で最も多くなっています。また、男性は「参加したことがない」(32.6%)が女性(23.8%)に比べて8.8ポイント多くなっています。

年齢別で見ると、30～39歳では「参加したことがない」(49.2%)、40～49歳では「参加している」(35.2%)、それ以外の年齢層では「過去に参加したことがある」が最も多くなっています。

居住地域別で見ると、すべての地域で「過去に参加したことがある」が最も多く、特に小長井地域では58.5%と6割弱にのびります。[図表 31 参照]

[図表 31]①参加状況（１）子ども会、PTAなどの健全育成活動
（全体、性別、年齢別、居住地域別）



①参加状況（２）文化、スポーツ活動

- 「過去に参加したことがある」が45.1%で最も多い。

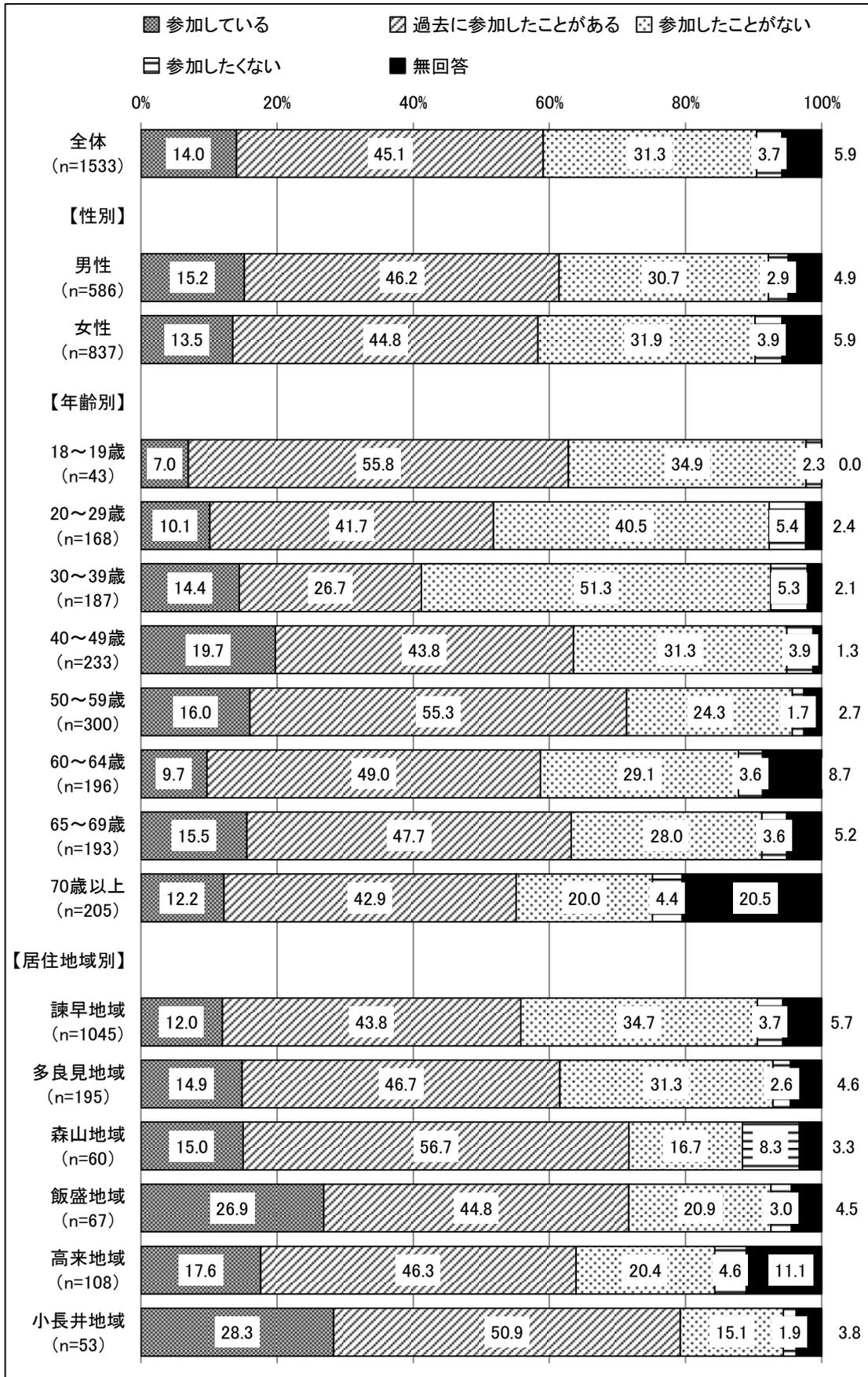
文化、スポーツ活動の参加状況については、「過去に参加したことがある」(45.1%)が最も多く、次いで「参加したことがない」(31.3%)、「参加している」(14.0%)、「参加したくない」(3.7%)の順となっています。

性別で見ると、男女ともに「過去に参加したことがある」が4割以上で最も多くなっています。

年齢別で見ると、30～39歳では「参加したことがない」(51.3%)、それ以外の年齢層では「過去に参加したことがある」が最も多くなっています。

居住地域別で見ると、すべての地域で「過去に参加したことがある」が最も多く、特に小長井地域では50.9%と5割を占めます。[図表 32 参照]

[図表 32]①参加状況（2）文化、スポーツ活動
（全体、性別、年齢別、居住地域別）



①参加状況（3）祭りや地域のイベントなどの行事

- 「過去に参加したことがある」が49.4%で最も多い。

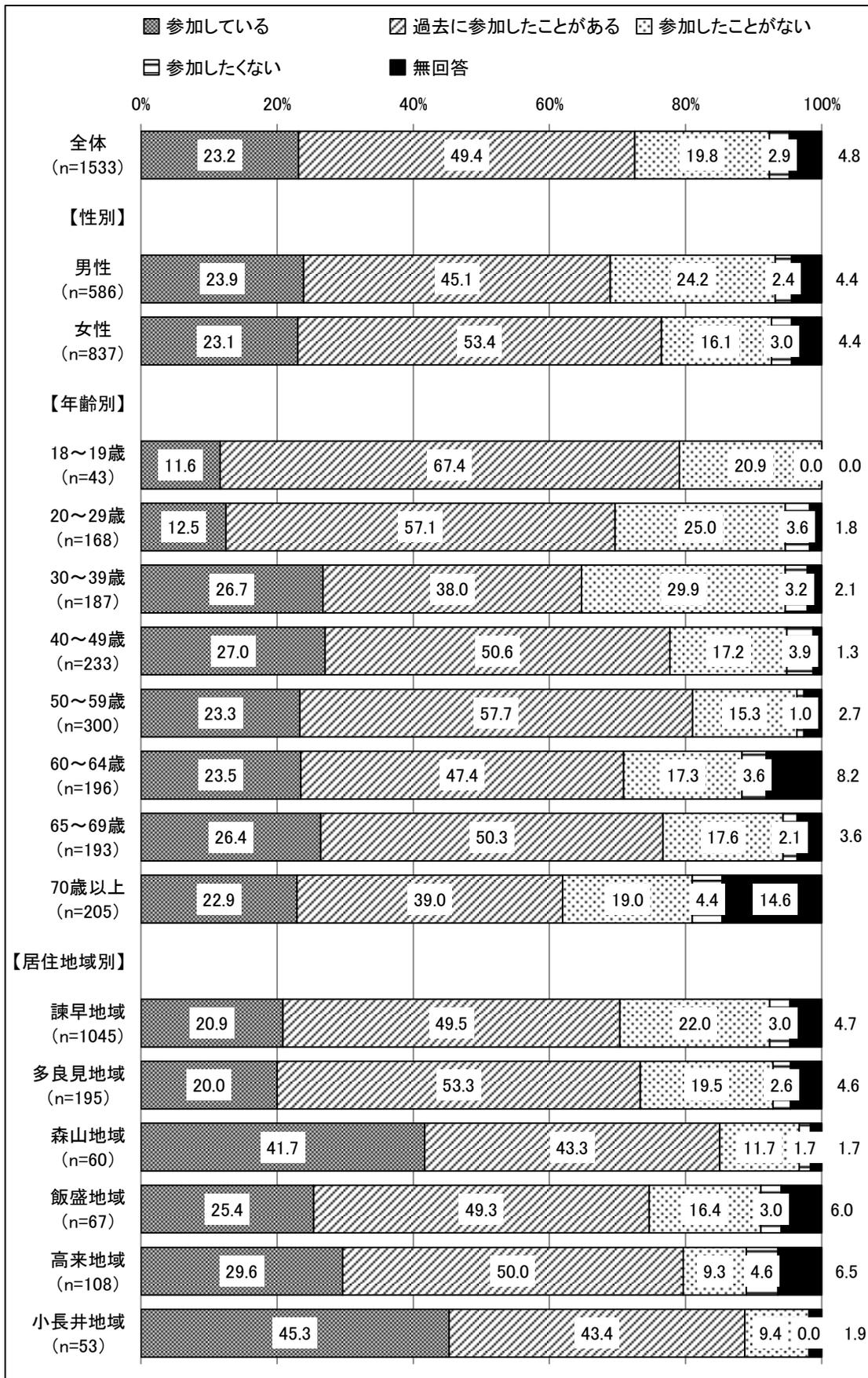
祭りや地域のイベントなどの行事の参加状況については、「過去に参加したことがある」(49.4%)が最も多く、次いで「参加している」(23.2%)、「参加したことがない」(19.8%)、「参加したくない」(2.9%)の順となっています。

性別で見ると、男女ともに「過去に参加したことがある」が4～5割前後で最も多くなっています。

年齢別で見ると、すべての年齢層で「過去に参加したことがある」が最も多く、特に18～19歳では67.4%で7割弱にのぼります。また、30歳以上の年齢層では「参加している」が2割を超えます。

居住地域別で見ると、小長井地域では「参加している」(45.3%)、それ以外の地域では「過去に参加したことがある」が最も多くなっています。また、森山地域では「参加している」が41.7%で4割を超えます。[図表 33 参照]

[図表 33]①参加状況（3）祭りや地域のイベントなどの行事
（全体、性別、年齢別、居住地域別）



①参加状況（４）老人クラブ活動

- 「参加したことがない」が 61.6%で最も多い。

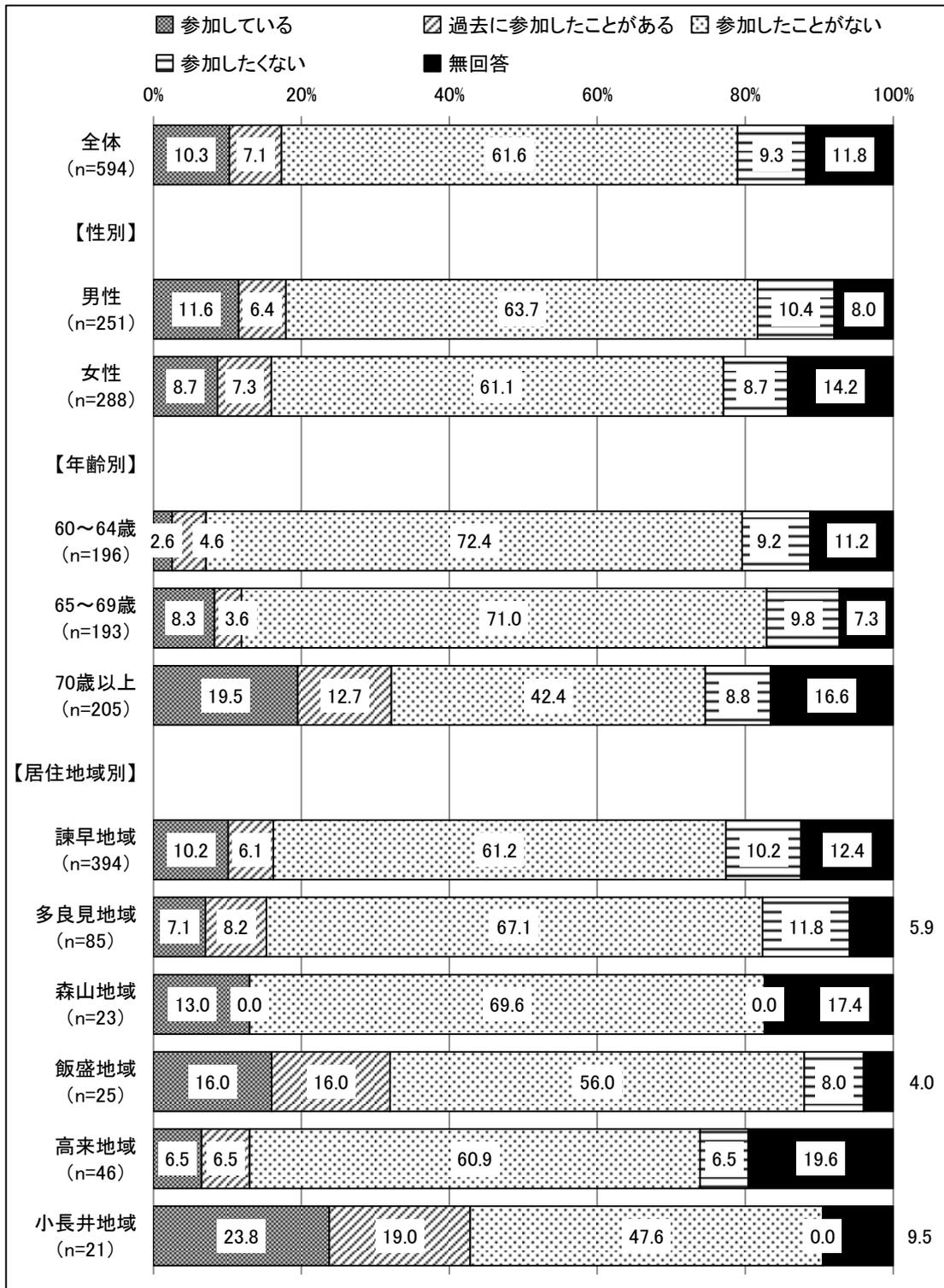
老人クラブ活動の参加状況については、「参加したことがない」(61.6%) が最も多く、次いで「参加している」(10.3%)、「参加したくない」(9.3%)、「過去に参加したことがある」(7.1%) の順となっています。

性別で見ると、男女ともに「参加したことがない」が最も多くなっています。また、「参加している」の割合は、男性(11.6%)が女性(8.7%)をやや上回り、「過去に参加したことがある」の割合は、女性(7.3%)が男性(6.4%)をやや上回ります。

年齢別で見ると、60歳以上のすべての年齢層で「参加したことがない」が最も多くなっています。また、「参加している」、「過去に参加したことがある」の割合は、どちらも70歳以上が他の年齢層に比べて最も多くなっています。

居住地域別で見ると、すべての地域で「参加したことがない」が最も多くなっています。また、「参加している」、「過去に参加したことがある」の割合は、どちらも小長井地域が他の地域に比べて最も多くなっています。[図表 34 参照]

[図表 34]①参加状況（４）老人クラブ活動
（全体、性別、年齢別、居住地域別）※



※回答者を60歳以上で抽出

①参加状況（５）福祉ボランティア活動

- 「参加したことがない」が72.0%で最も多い。

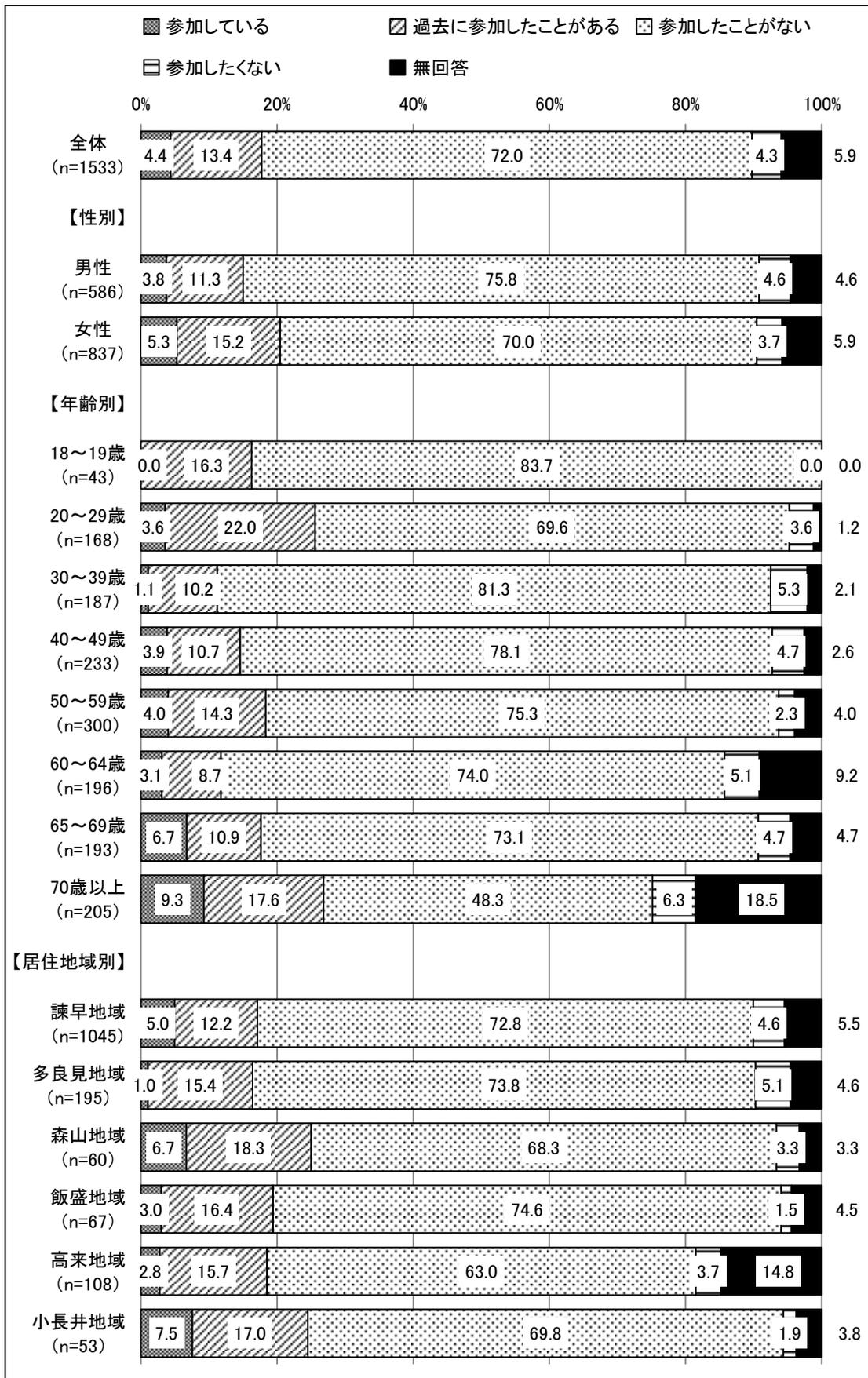
福祉ボランティア活動の参加状況については、「参加したことがない」（72.0%）が最も多く、次いで「過去に参加したことがある」（13.4%）、「参加している」（4.4%）、「参加したくない」（4.3%）の順となっています。

性別で見ると、男女ともに「参加したことがない」が最も多く、7割を超えます。「参加している」、「過去に参加したことがある」の割合は、どちらも女性の方が男性に比べてやや多くなっています。

年齢別で見ると、すべての年齢層で「参加したことがない」が最も多くなっています。また、「参加している」の割合は70歳以上が9.3%で他の年齢層に比べて最も多く、「過去に参加したことがある」の割合は、20～29歳が22.0%で他の年齢層に比べて最も多くなっています。

居住地域別で見ると、すべての地域で「参加したことがない」が最も多くなっています。また、「参加している」の割合は、小長井地域が7.5%で他の地域に比べて最も多く、「過去に参加したことがある」の割合は、森山地域が18.3%で他の地域に比べて最も多くなっています。【図表 35 参照】

【図表 35】①参加状況（５）福祉ボランティア活動
（全体、性別、年齢別、居住地域別）



①参加状況（6）リサイクル活動

- 「参加したことがない」が49.7%で最も多い。

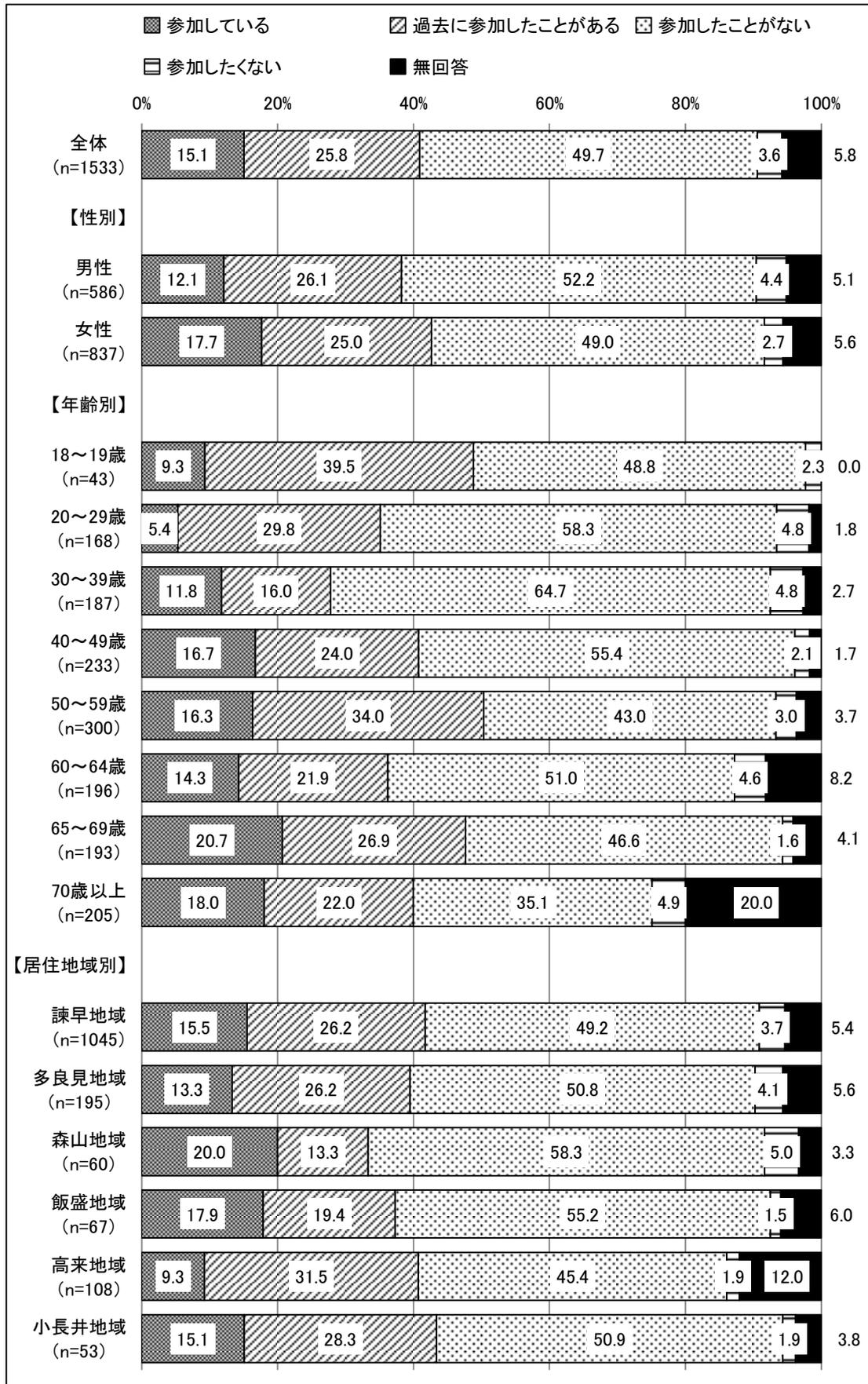
リサイクル活動の参加状況については、「参加したことがない」（49.7%）が最も多く、次いで「過去に参加したことがある」（25.8%）、「参加している」（15.1%）、「参加したくない」（3.6%）の順となっています。

性別で見ると、男女ともに「参加したことがない」が最も多く、5割前後にのぼります。「参加している」の割合は、女性（17.7%）が男性（12.1%）をやや上回り、「過去に参加したことがある」の割合は、男性（26.1%）が女性（25.0%）をやや上回ります。

年齢別で見ると、すべての年齢層で「参加したことがない」が最も多くなっています。また、「参加している」の割合は、65～69歳が20.7%で他の年齢層に比べて最も多く、「過去に参加したことがある」の割合は、18～19歳が39.5%で他の年齢層に比べて最も多くなっています。

居住地域別で見ると、すべての地域で「参加したことがない」が最も多くなっています。また、「参加している」の割合は、森山地域が20.0%で他の地域に比べて最も多く、「過去に参加したことがある」の割合は、高来地域が31.5%で他の地域に比べて最も多くなっています。[図表 36 参照]

[図表 36]①参加状況（6）リサイクル活動
（全体、性別、年齢別、居住地域別）



①参加状況（7）地域の防犯・防災活動

- 「参加したことがない」が64.5%で最も多い。

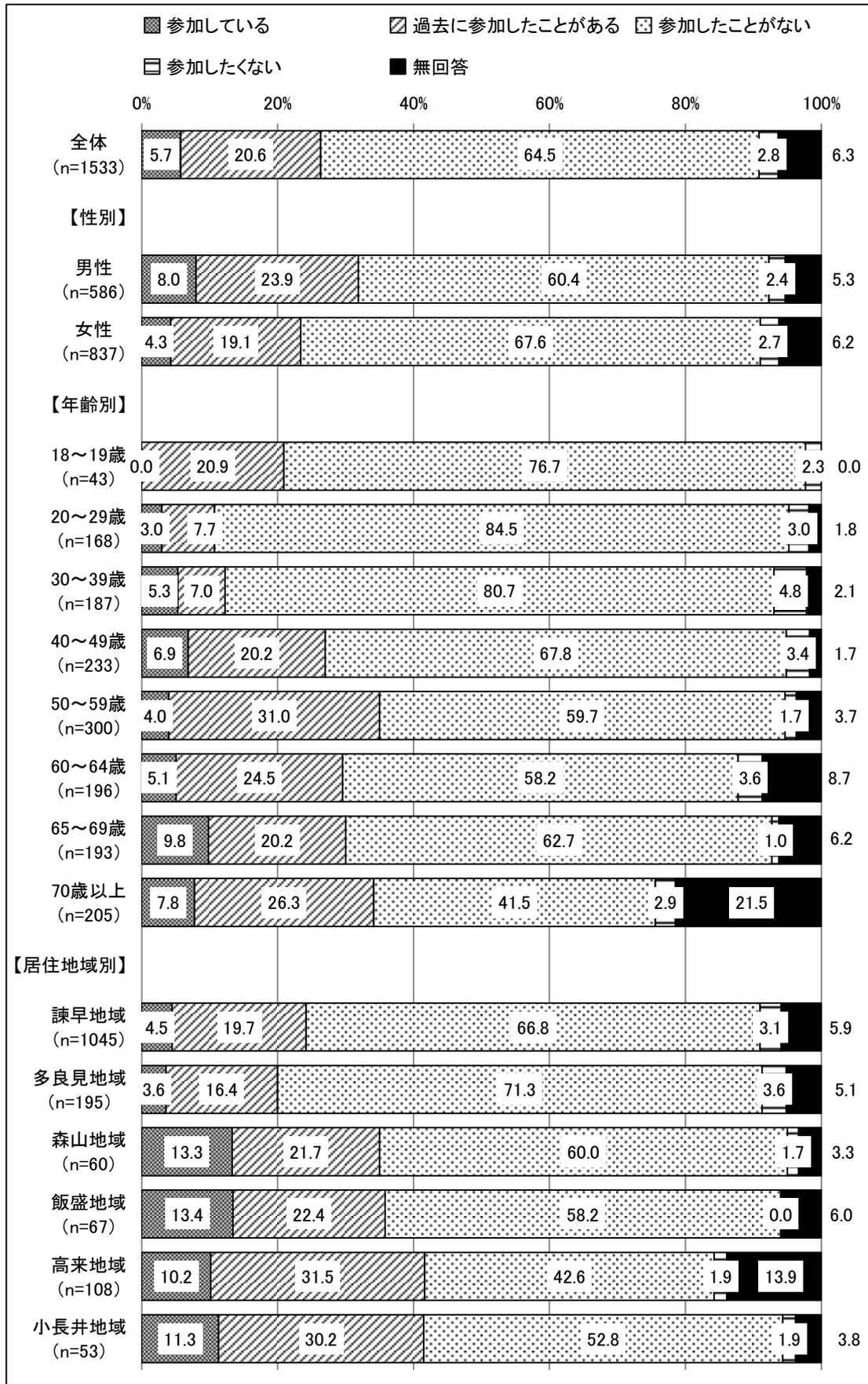
地域の防犯・防災活動の参加状況については、「参加したことがない」（64.5%）が最も多く、次いで「過去に参加したことがある」（20.6%）、「参加している」（5.7%）、「参加したくない」（2.8%）の順となっています。

性別で見ると、男女ともに「参加したことがない」が最も多く、6割を超えます。「参加している」、「過去に参加したことがある」の割合は、どちらも男性が女性をやや上回ります。

年齢別で見ると、すべての年齢層で「参加したことがない」が最も多くなっています。また、「参加している」の割合は、65～69歳が9.8%で他の年齢層に比べて最も多く、「過去に参加したことがある」の割合は、50～59歳が31.0%で他の年齢層に比べて最も多くなっています。

居住地域別で見ると、すべての地域で「参加したことがない」が最も多くなっています。また、「参加している」の割合は、飯盛地域が13.4%で他の地域に比べて最も多く、「過去に参加したことがある」の割合は、高来地域が31.5%で他の地域に比べて最も多くなっています。【図表 37 参照】

[図表 37]①参加状況（7）地域の防犯・防災活動
（全体、性別、年齢別、居住地域別）



①参加状況（８）子どもの安全見守り活動

- 「参加したことがない」が56.6%で最も多い。

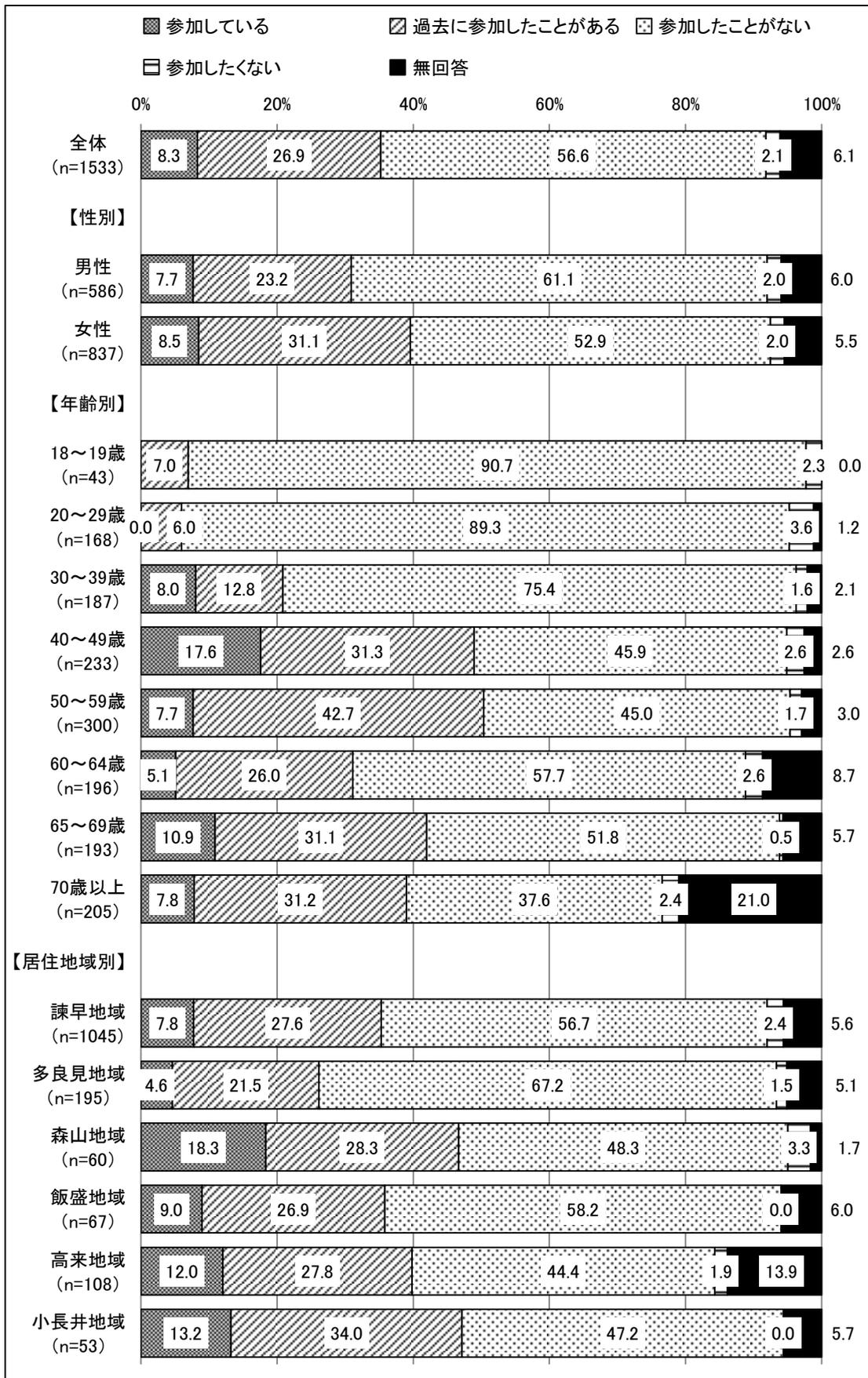
子どもの安全見守り活動の参加状況については、「参加したことがない」(56.6%)が最も多く、次いで「過去に参加したことがある」(26.9%)、「参加している」(8.3%)、「参加したくない」(2.1%)の順となっています。

性別で見ると、男女ともに「参加したことがない」が最も多く、5～6割前後となっています。「参加している」、「過去に参加したことがある」の割合は、どちらも女性が男性を上回ります。

年齢別で見ると、すべての年齢層で「参加したことがない」が最も多くなっています。また、「参加している」の割合は、40～49歳が17.6%で他の年齢層に比べて最も多く、「過去に参加したことがある」の割合は、50～59歳が42.7%で他の年齢層に比べて最も多くなっています。

居住地域別で見ると、すべての地域で「参加したことがない」が最も多くなっています。また、「参加している」の割合は、森山地域が18.3%で他の地域に比べて最も多く、「過去に参加したことがある」の割合は、小長井地域が34.0%で他の地域に比べて最も多くなっています。[図表 38 参照]

[図表 38]①参加状況（８）子どもの安全見守り活動
（全体、性別、年齢別、居住地域別）



①参加状況（9）公園、道路などの清掃・美化活動

- 「過去に参加したことがある」が36.1%で最も多い。

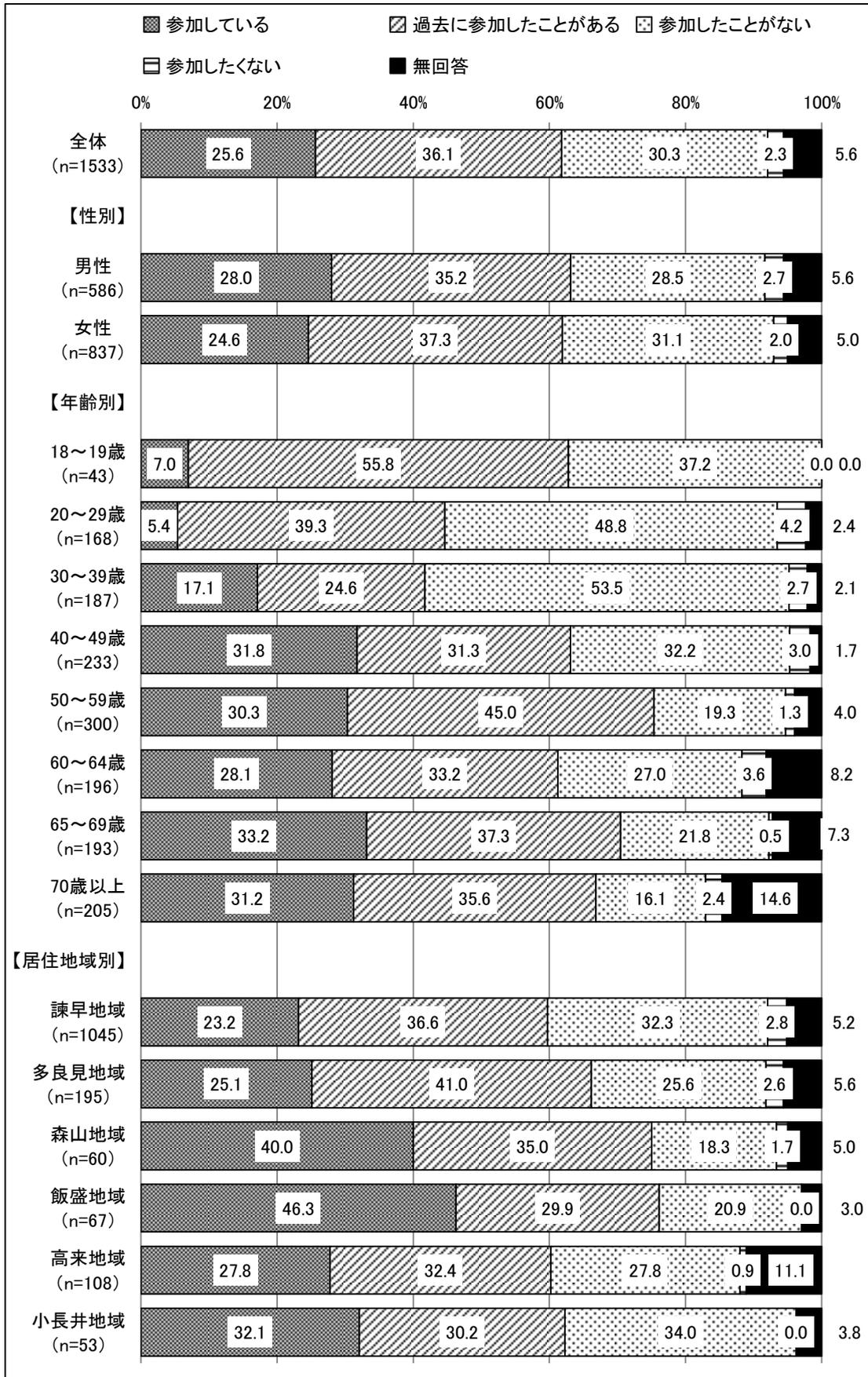
公園、道路などの清掃・美化活動の参加状況については、「過去に参加したことがある」(36.1%)が最も多く、次いで「参加したことがない」(30.3%)、「参加している」(25.6%)、「参加したくない」(2.3%)の順となっています。

性別でみると、男女ともに「過去に参加したことがある」が最も多くなっています。

年齢別でみると、20～29歳、30～39歳、40～49歳では「参加したことがない」、18～19歳、50歳以上の年齢層では「過去に参加したことがある」がそれぞれ最も多くなっています。

居住地域別でみると、諫早地域、多良見地域、高来地域では「過去に参加したことがある」、森山地域、飯盛地域では「参加している」、小長井地域では「参加したことがない」がそれぞれ最も多くなっています。[図表 39 参照]

[図表 39] ①参加状況（9）公園、道路などの清掃・美化活動
 （全体、性別、年齢別、居住地域別）



①参加状況（10）町内会・自治会などの活動

- 「参加している」が35.5%で最も多い。

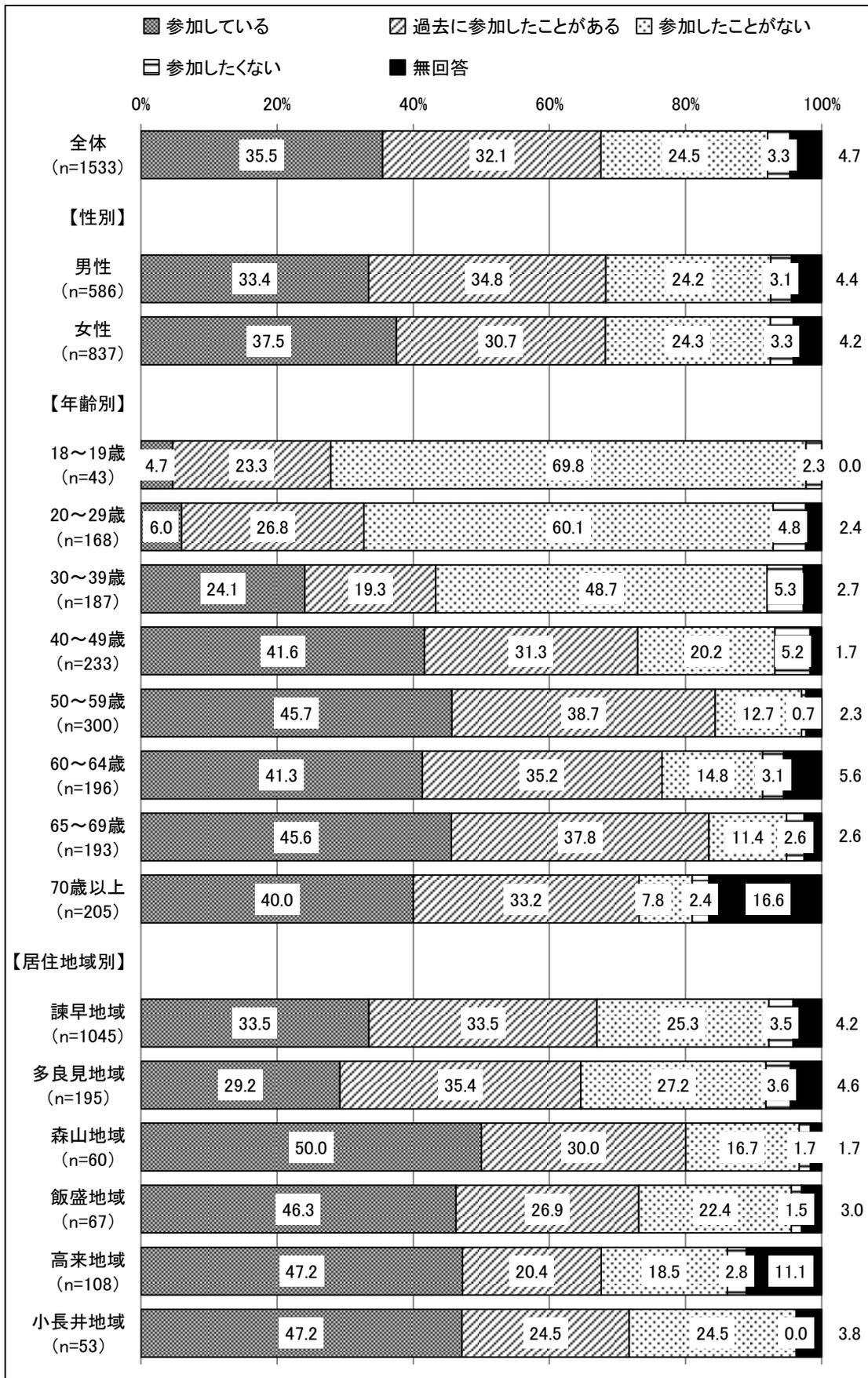
町内会・自治会などの活動の参加状況については、「参加している」（35.5%）が最も多く、次いで「過去に参加したことがある」（32.1%）、「参加したことがない」（24.5%）、「参加したくない」（3.3%）の順となっています。

性別で見ると、男性は「過去に参加したことがある」（34.8%）、女性は「参加している」（37.5%）がそれぞれ最も多くなっています。

年齢別で見ると、39歳以下の年齢層では「参加したことがない」、40歳以上の年齢層では「参加している」がそれぞれ最も多くなっています。

居住地域別で見ると、諫早地域では「参加している」及び「過去に参加したことがある」、多良見地域では「過去に参加したことがある」、それ以外の地域では「参加している」がそれぞれ最も多くなっています。[図表 40 参照]

[図表 40] ①参加状況 (10) 町内会・自治会などの活動
(全体、性別、年齢別、居住地域別)



①参加状況（11）自主的なまちづくりの企画・立案活動

- 「参加したことがない」が 75.8%で最も多い。

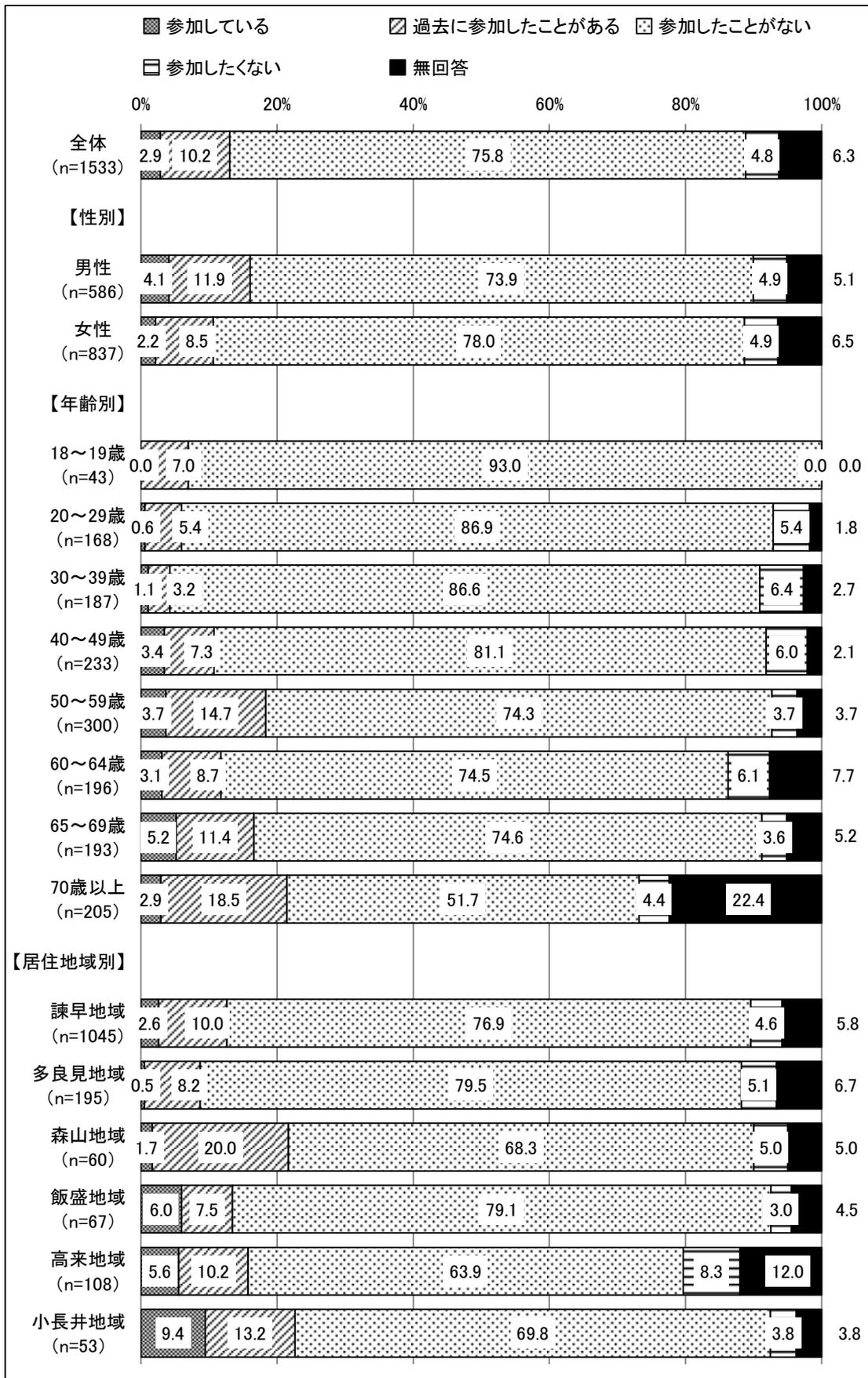
自主的なまちづくりの企画・立案活動の参加状況については、「参加したことがない」（75.8%）が最も多く、次いで「過去に参加したことがある」（10.2%）、「参加したくない」（4.8%）、「参加している」（2.9%）の順となっています。

性別でみると、男女ともに「参加したことがない」が最も多く、7割を超えます。「参加している」、「過去に参加したことがある」の割合は、どちらも男性が女性をやや上回ります。

年齢別でみると、すべての年齢層で「参加したことがない」が最も多くなっています。また、「参加している」の割合は、65～69歳が5.2%で他の年齢層に比べて最も多く、「過去に参加したことがある」の割合は、70歳以上が18.5%で他の年齢層に比べて最も多くなっています。

居住地域別でみると、すべての地域で「参加したことがない」が最も多くなっています。また、「参加している」の割合は、小長井地域が9.4%で他の地域に比べて最も多く、「過去に参加したことがある」の割合は、森山地域が20.0%で他の地域に比べて最も多くなっています。[図表 41 参照]

[図表 41]①参加状況 (11) 自主的なまちづくりの企画・立案活動
(全体、性別、年齢別、居住地域別)



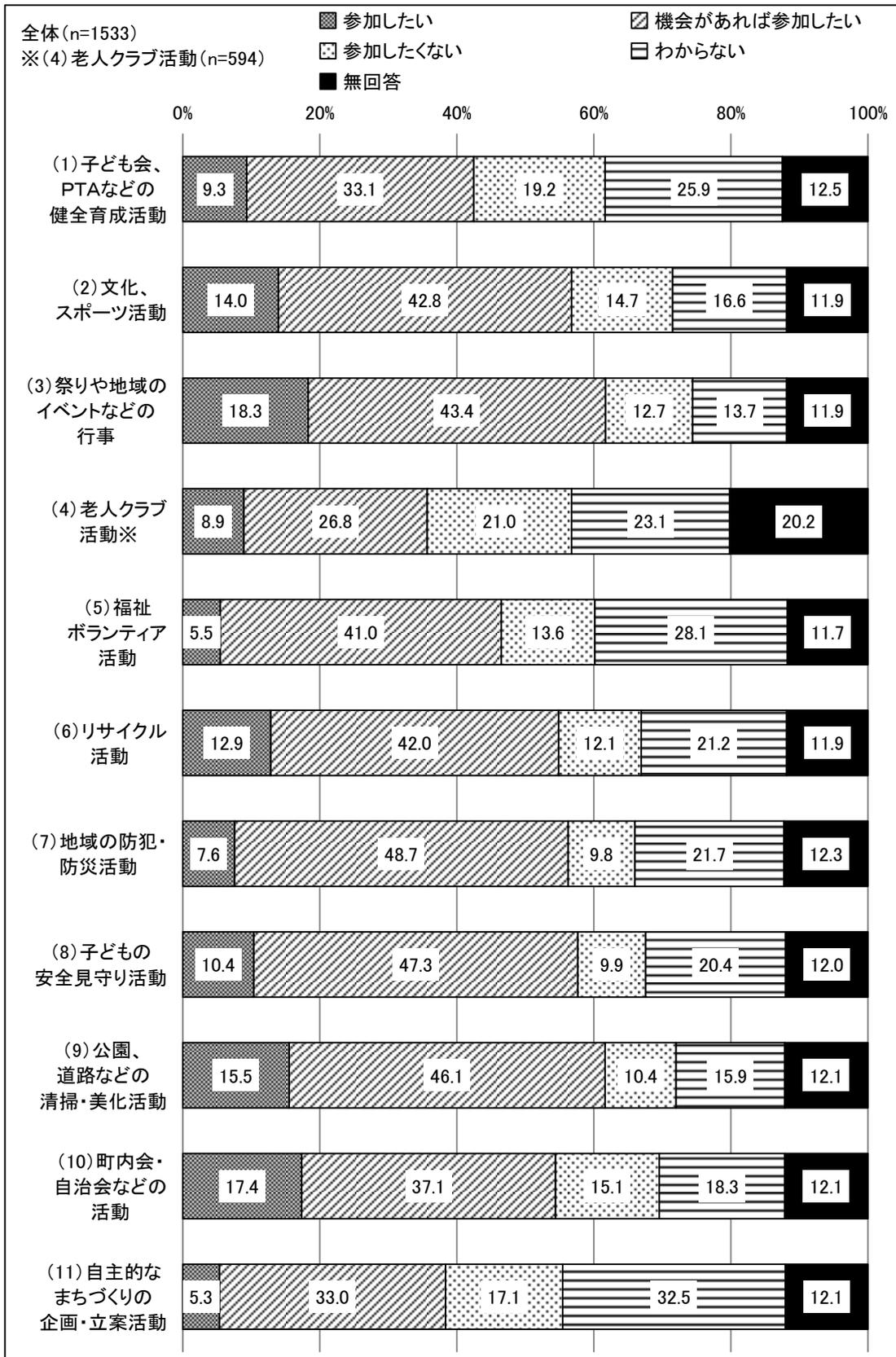
②参加意向

●ほとんどの項目で「機会があれば参加したい」が最も多い。

地域の活動や行事などの参加意向については、ほとんどの項目で「機会があれば参加したい」が最も多くなっています。

また、地域の活動や行事などの参加状況について「参加したことがない」と回答した人の中で、今後の参加意向について“参加したい”（「参加したい」と「機会があれば参加したい」の合計）と回答した人は、『(8) 子どもの安全見守り活動』(56.6%) が最も多く、次いで『(7) 地域の防犯・防災活動』(55.4%)、『(9) 公園、道路などの清掃・美化活動』(49.8%)、『(2) 文化、スポーツ活動』(47.1%)、『(6) リサイクル活動』(45.7%)、『(5) 福祉ボランティア活動』(45.1%) などの順となっています。[図表 42～43 参照]

[図表 42] 地域の活動や行事などへの参加について②参加意向（全体）



※回答者を 60 歳以上で抽出

[図表 43]地域の活動や行事などへの参加についての“参加したい”の割合

(①参加状況で「参加したことがない」と回答した人のみ)

	“参加したい”	
	n	%
(1)子ども会、PTAなどの健全育成活動 (n=419)	142	33.9
(2)文化、スポーツ活動 (n=480)	226	47.1
(3)祭りや地域のイベントなどの行事 (n=303)	129	42.6
(4)老人クラブ活動※ (n=366)	128	34.9
(5)福祉ボランティア活動 (n=1104)	498	45.1
(6)リサイクル活動 (n=762)	348	45.7
(7)地域の防犯・防災活動 (n=989)	548	55.4
(8)子どもの安全見守り活動 (n=867)	491	56.6
(9)公園、道路などの清掃・美化活動 (n=464)	231	49.8
(10)町内会・自治会などの活動 (n=375)	121	32.3
(11)自主的なまちづくりの企画・立案活動 (n=1162)	448	38.6

※回答者を60歳以上で抽出

②参加意向（１）子ども会、PTAなどの健全育成活動

- “参加したい” が 42.4%。

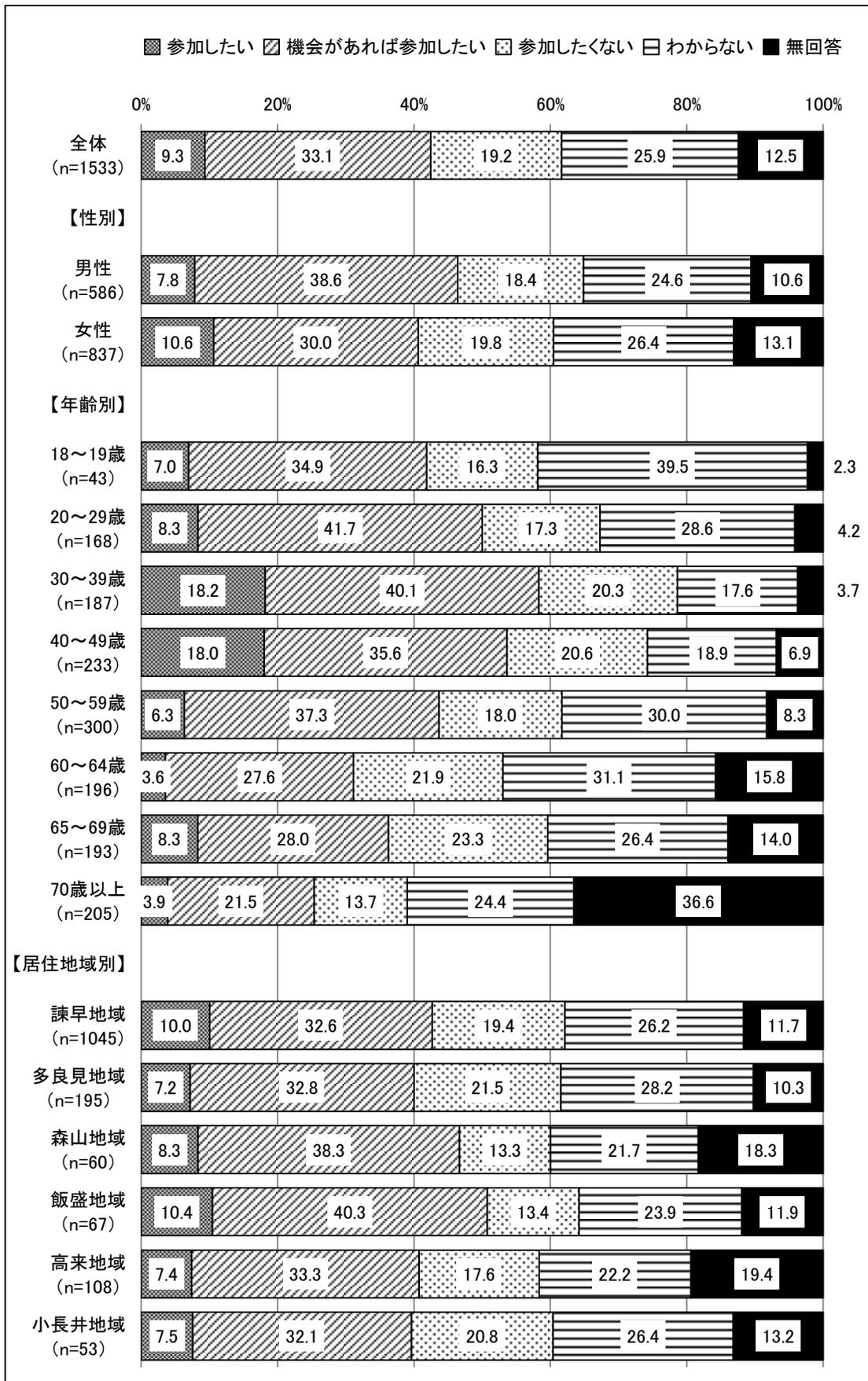
子ども会、PTAなどの健全育成活動の今後の参加意向については、「機会があれば参加したい」（33.1%）が最も多く、次いで「わからない」（25.9%）、「参加したくない」（19.2%）、「参加したい」（9.3%）の順となっています。また、「参加したい」と「機会があれば参加したい」を合わせた“参加したい”は42.4%となっています。

性別で見ると、男女ともに「機会があれば参加したい」が最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、男性（46.4%）が女性（40.6%）を上回ります。

年齢別で見ると、18～19歳、60～64歳、70歳以上では「わからない」、それ以外の年齢層では「機会があれば参加したい」が最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、30～39歳が58.3%で他の年齢層に比べて最も多くなっています。

居住地域別で見ると、すべての地域で「機会があれば参加したい」が最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、飯盛地域が50.7%で他の地域に比べて最も多くなっています。[図表 44 参照]

[図表 44]②参加意向（１）子ども会、PTAなどの健全育成活動
（全体、性別、年齢別、居住地域別）



②参加意向（２）文化、スポーツ活動

- “参加したい” が 56.8%。

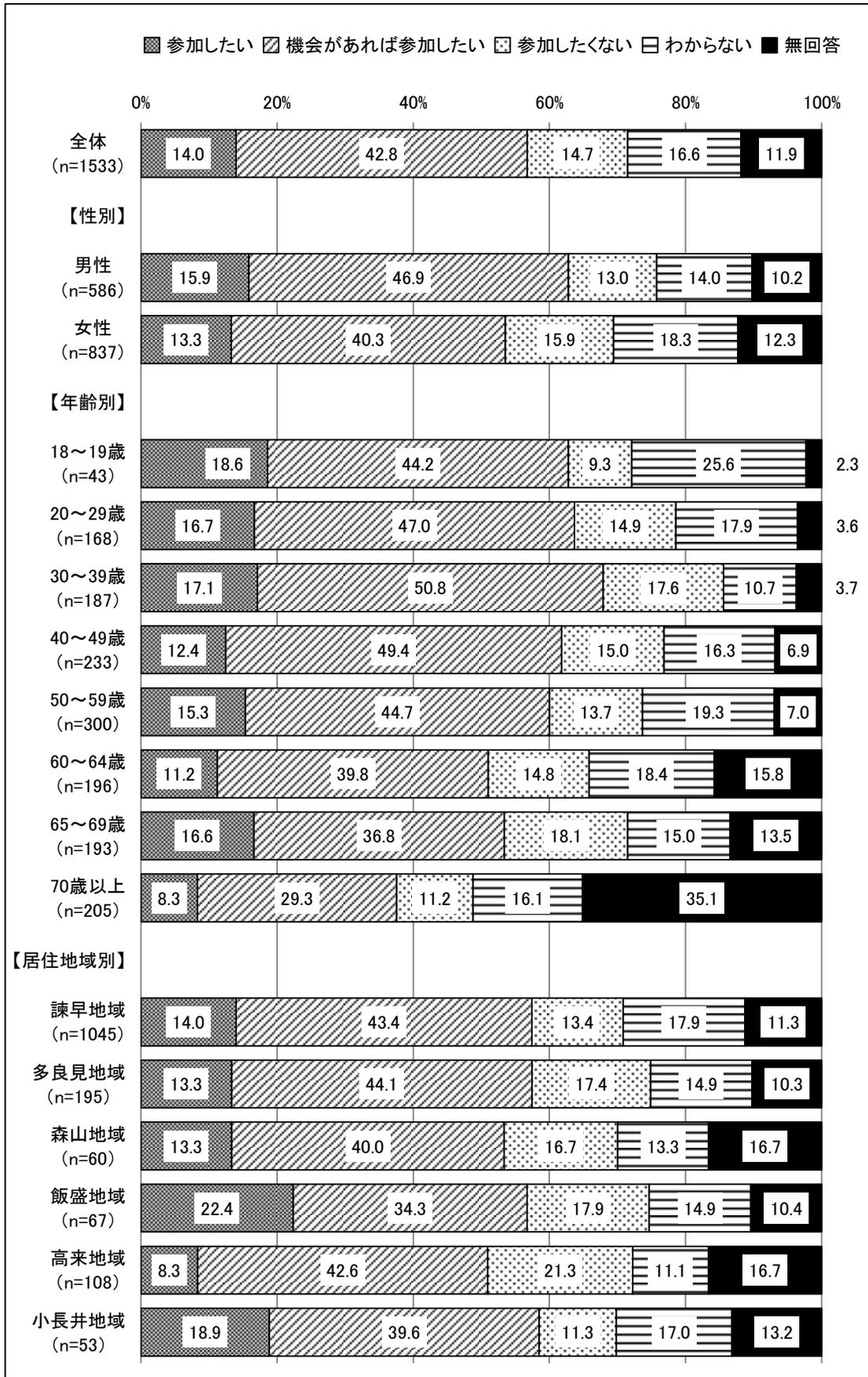
文化、スポーツ活動の今後の参加意向については、「機会があれば参加したい」（42.8%）が最も多く、次いで「わからない」（16.6%）、「参加したくない」（14.7%）、「参加したい」（14.0%）の順となっています。また、「参加したい」と「機会があれば参加したい」を合わせた“参加したい”は56.8%となっています。

性別で見ると、男女ともに「機会があれば参加したい」が最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、男性（62.8%）が女性（53.6%）を上回ります。

年齢別で見ると、すべての年齢層で「機会があれば参加したい」が最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、30～39歳が67.9%で他の年齢層に比べて最も多くなっています。

居住地域別で見ると、すべての地域で「機会があれば参加したい」が最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、小長井地域が58.5%で他の地域に比べて最も多くなっています。[図表 45 参照]

[図表 45] ②参加意向（２）文化、スポーツ活動
（全体、性別、年齢別、居住地域別）



②参加意向（3）祭りや地域のイベントなどの行事

- “参加したい” が 61.7%。

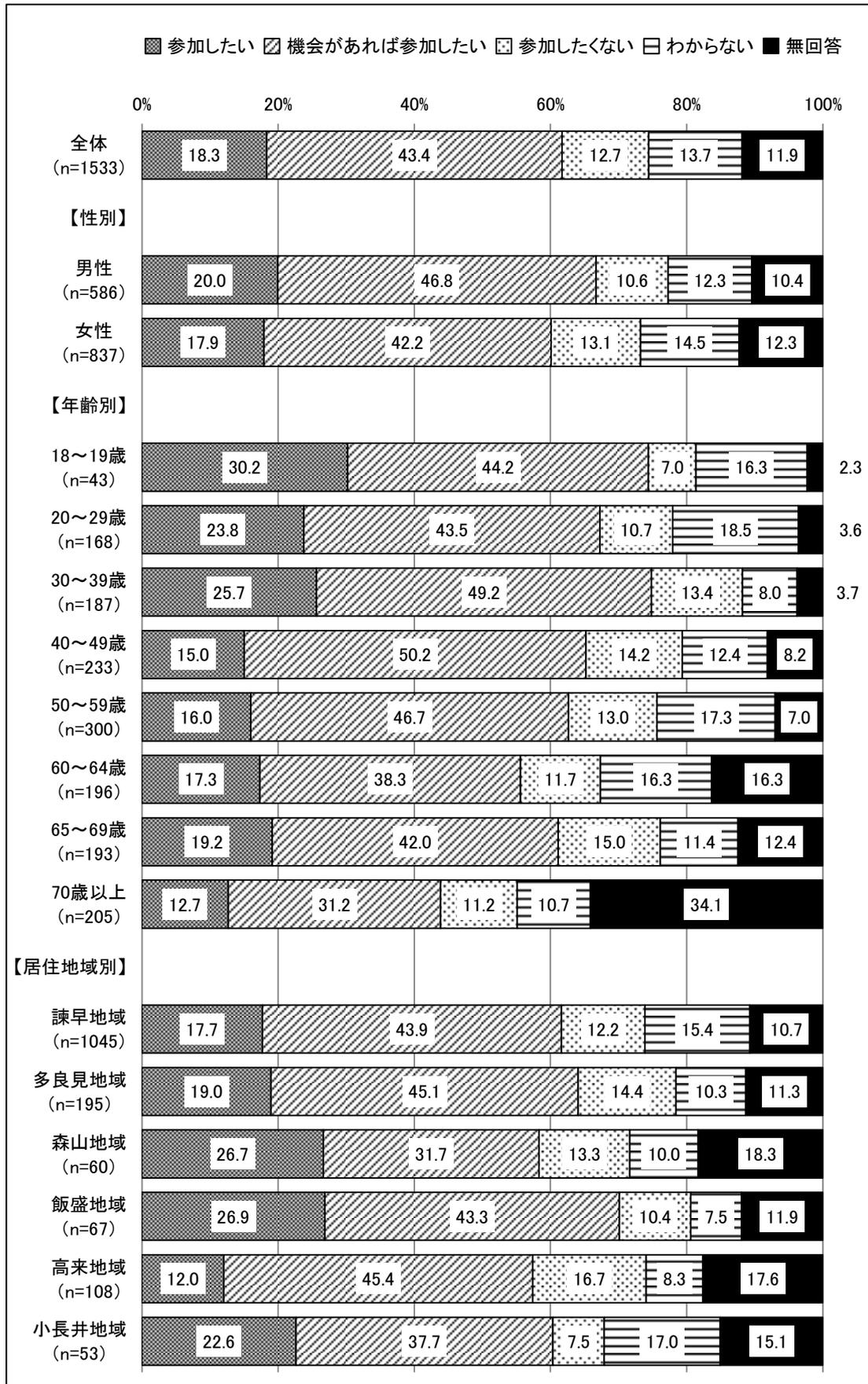
祭りや地域のイベントなどの行事の今後の参加意向については、「機会があれば参加したい」（43.4%）が最も多く、次いで「参加したい」（18.3%）、「わからない」（13.7%）、「参加したくない」（12.7%）の順となっています。また、「参加したい」と「機会があれば参加したい」を合わせた“参加したい”は 61.7%となっています。

性別でみると、男女ともに「機会があれば参加したい」が最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、男性（66.8%）が女性（60.1%）を上回ります。

年齢別でみると、すべての年齢層で「機会があれば参加したい」が最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、30～39歳が 74.9%で他の年齢層に比べて最も多くなっています。

居住地域別でみると、すべての地域で「機会があれば参加したい」が最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、飯盛地域が 70.2%で他の地域に比べて最も多くなっています。[図表 46 参照]

[図表 46] ②参加意向（３）祭りや地域のイベントなどの行事
（全体、性別、年齢別、居住地域別）



②参加意向（４）老人クラブ活動

- “参加したい” が 35.7%。

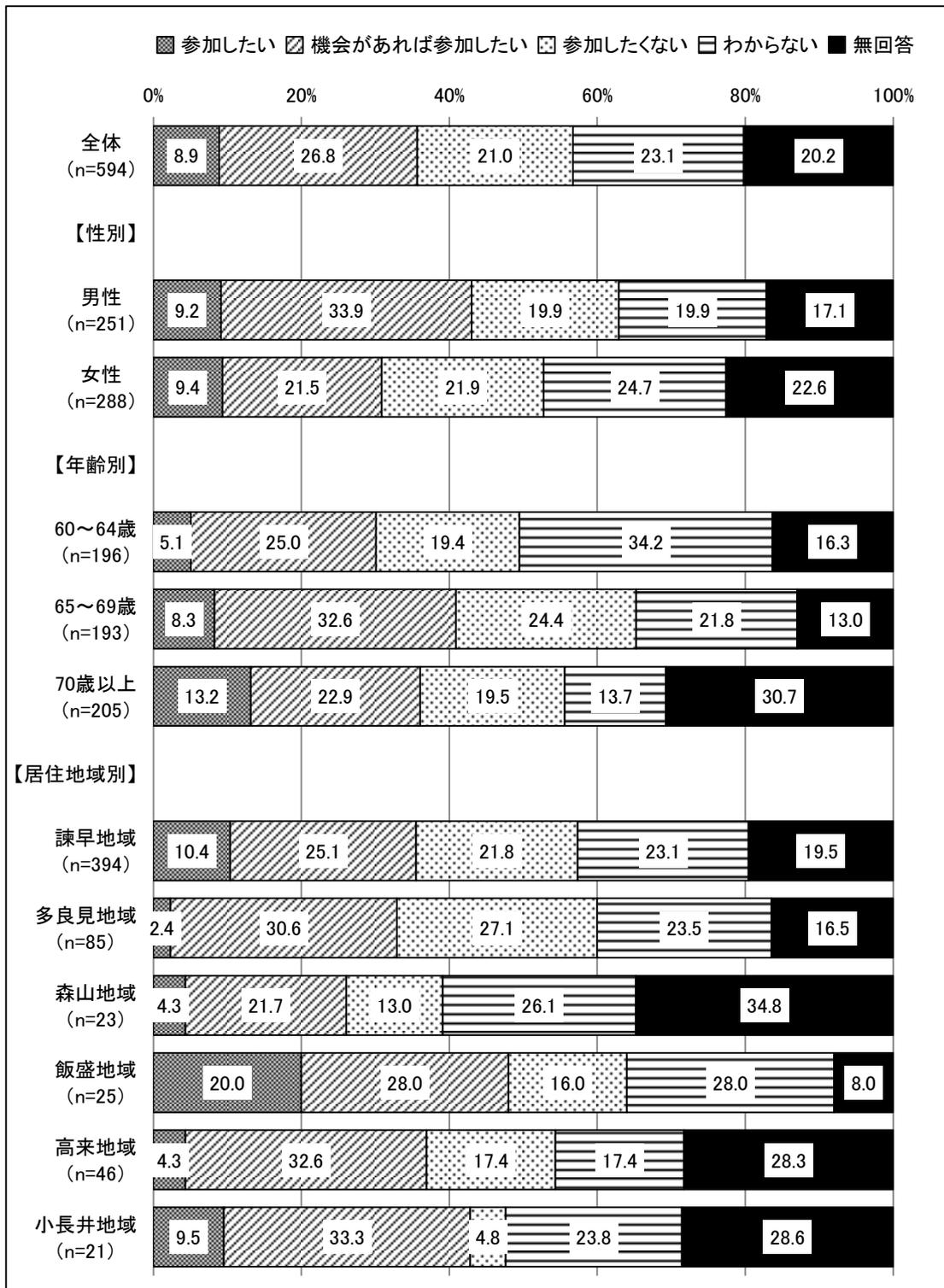
老人クラブ活動の今後の参加意向については、「機会があれば参加したい」(26.8%)が最も多く、次いで「わからない」(23.1%)、「参加したくない」(21.0%)、「参加したい」(8.9%)の順となっています。また、「参加したい」と「機会があれば参加したい」を合わせた“参加したい”は35.7%となっています。

性別で見ると、男性は「機会があれば参加したい」(33.9%)、女性は「わからない」(24.7%)がそれぞれ最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、男性(43.1%)が女性(30.9%)を上回ります。

年齢別で見ると、60～64歳では「わからない」、65歳以上の年齢層では「機会があれば参加したい」がそれぞれ最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、65～69歳が40.9%で他の年齢層に比べて最も多くなっています。

居住地域別で見ると、森山地域では「わからない」、飯盛地域では「機会があれば参加したい」及び「わからない」、それ以外の地域では「機会があれば参加したい」がそれぞれ最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、飯盛地域が48.0%で他の地域に比べて最も多くなっています。[図表 47 参照]

[図表 47] ②参加意向（４）老人クラブ活動
（全体、性別、年齢別、居住地域別）※



※回答者を60歳以上で抽出

②参加意向（５）福祉ボランティア活動

- “参加したい” が 46.5%。

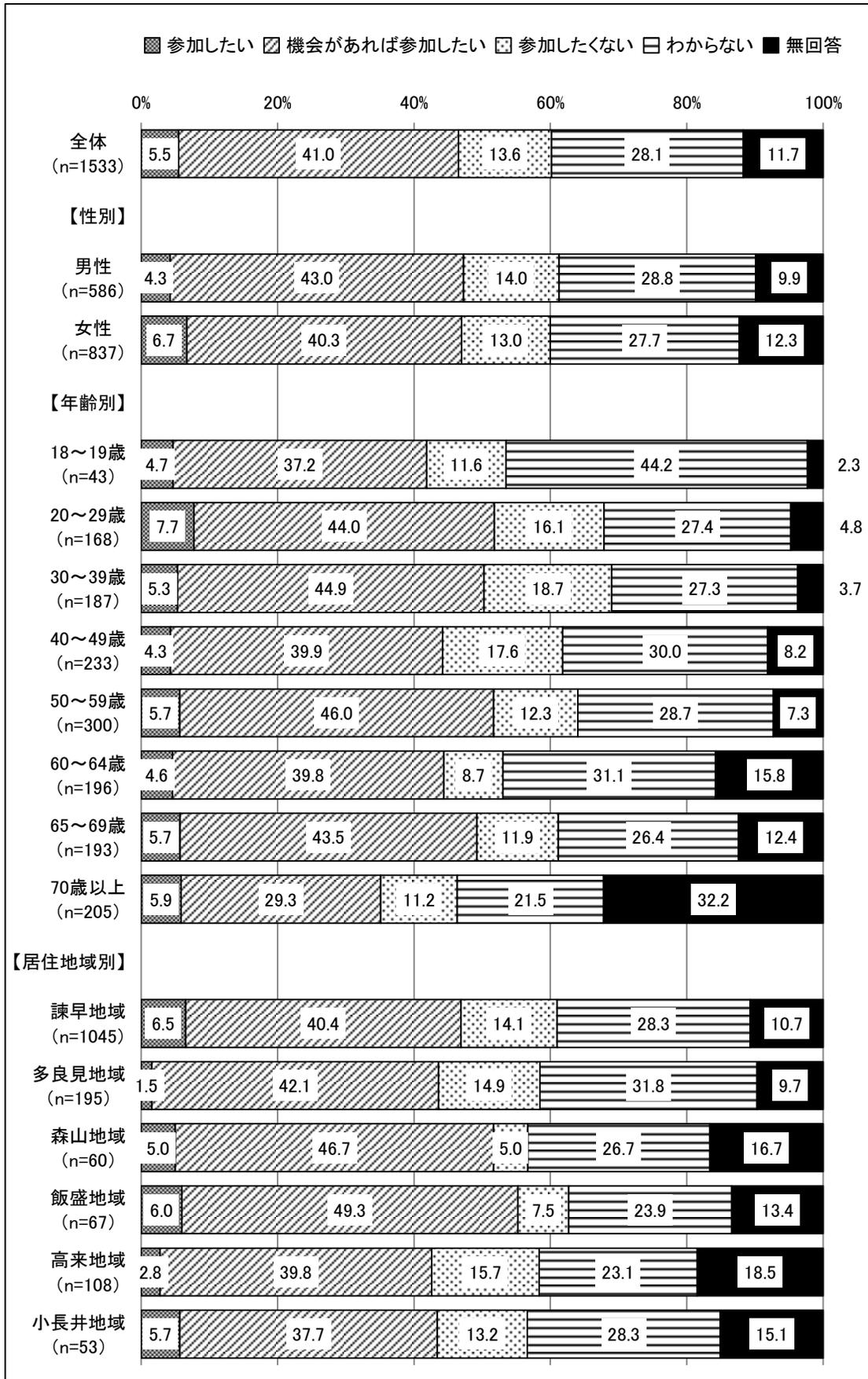
福祉ボランティア活動の今後の参加意向については、「機会があれば参加したい」（41.0%）が最も多く、次いで「わからない」（28.1%）、「参加したくない」（13.6%）、「参加したい」（5.5%）の順となっています。また、「参加したい」と「機会があれば参加したい」を合わせた“参加したい”は46.5%となっています。

性別で見ると、男女ともに「機会があれば参加したい」が最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、男性が47.3%、女性が47.0%で、あまり差はみられません。

年齢別で見ると、18～19歳では「わからない」、20歳以上の年齢層では「機会があれば参加したい」がそれぞれ最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、20～29歳及び50～59歳が同率51.7%で他の年齢層に比べて最も多くなっています。

居住地域別で見ると、すべての地域で「機会があれば参加したい」が最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、飯盛地域が55.3%で他の地域に比べて最も多くなっています。[図表 48 参照]

[図表 48]②参加意向（５）福祉ボランティア活動
（全体、性別、年齢別、居住地域別）



②参加意向（6）リサイクル活動

- “参加したい” が 54.9%。

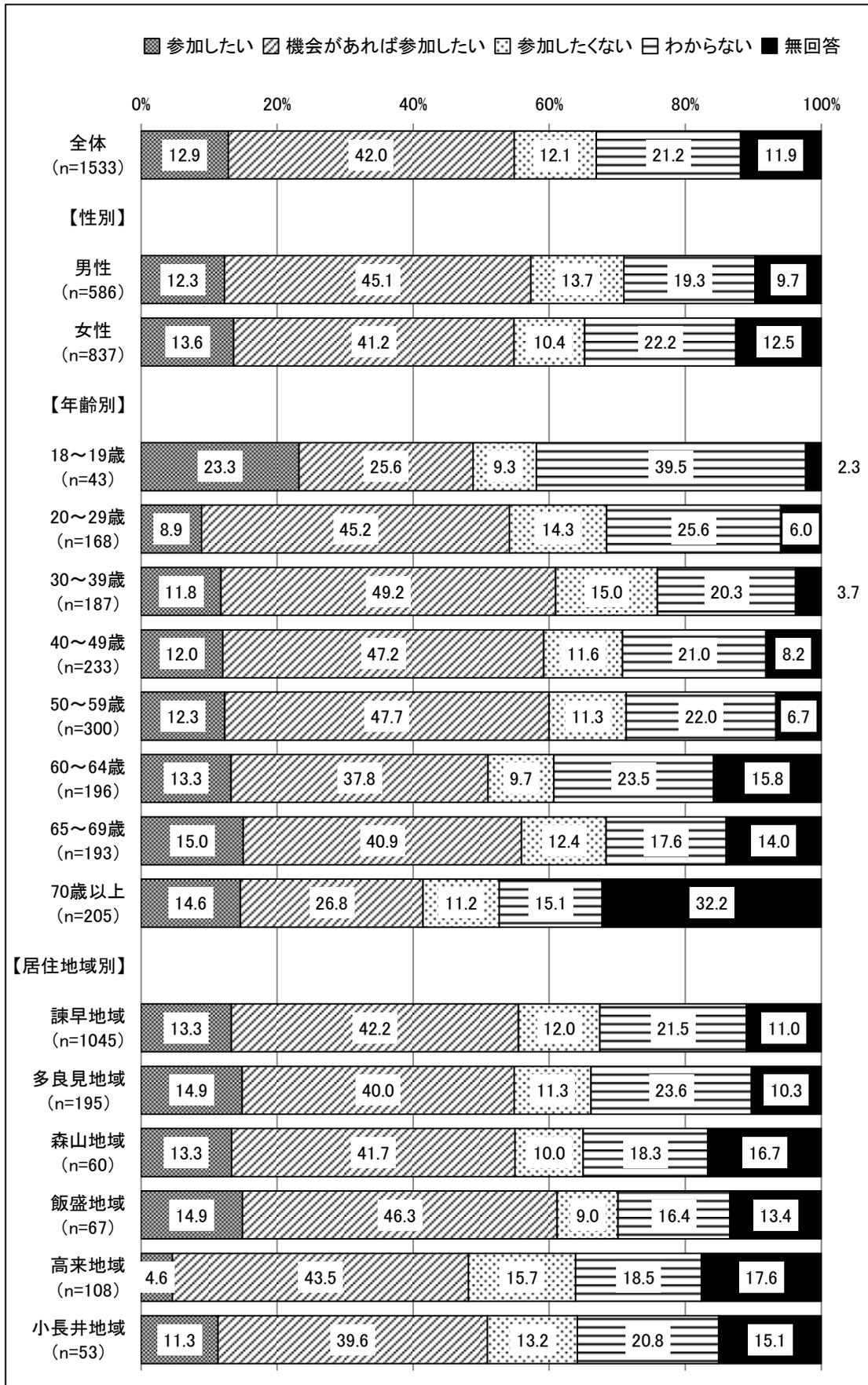
リサイクル活動の今後の参加意向については、「機会があれば参加したい」（42.0%）が最も多く、次いで「わからない」（21.2%）、「参加したい」（12.9%）、「参加したくない」（12.1%）の順となっています。また、「参加したい」と「機会があれば参加したい」を合わせた“参加したい”は54.9%となっています。

性別でみると、男女ともに「機会があれば参加したい」が最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、男性（57.4%）が女性（54.8%）をやや上回ります。

年齢別でみると、18～19歳では「わからない」、20歳以上の年齢層では「機会があれば参加したい」がそれぞれ最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、30～39歳が61.0%で他の年齢層に比べて最も多くなっています。

居住地域別でみると、すべての地域で「機会があれば参加したい」が最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、飯盛地域が61.2%で他の地域に比べて最も多くなっています。[図表 49 参照]

[図表 49]②参加意向（6）リサイクル活動
（全体、性別、年齢別、居住地域別）



②参加意向（7）地域の防犯・防災活動

- “参加したい” が 56.3%。

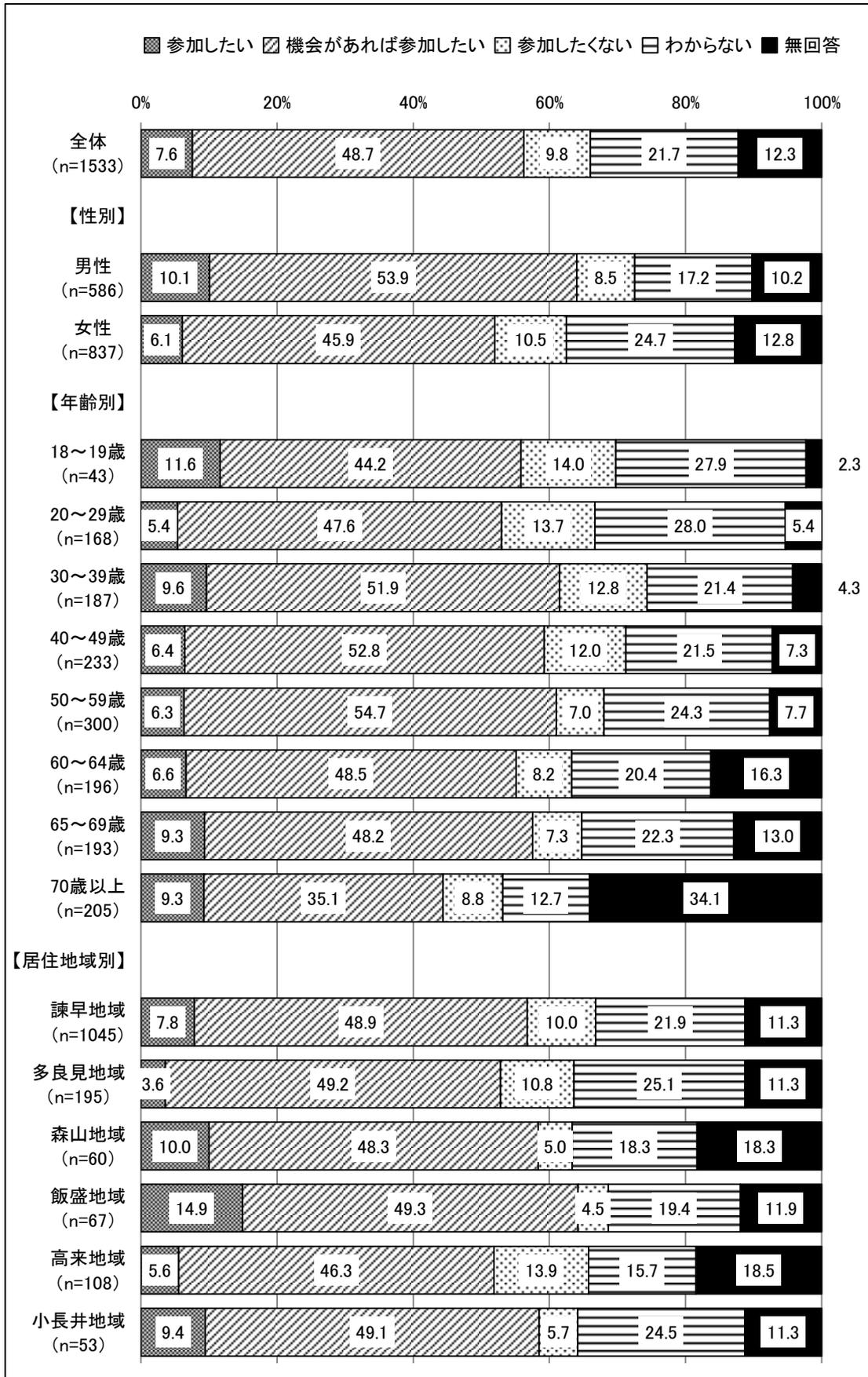
地域の防犯・防災活動の今後の参加意向については、「機会があれば参加したい」（48.7%）が最も多く、次いで「わからない」（21.7%）、「参加したくない」（9.8%）、「参加したい」（7.6%）の順となっています。また、「参加したい」と「機会があれば参加したい」を合わせた“参加したい”は56.3%となっています。

性別でみると、男女ともに「機会があれば参加したい」が最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、男性（64.0%）が女性（52.0%）を上回ります。

年齢別でみると、すべての年齢層で「機会があれば参加したい」が最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、30～39歳が61.5%で他の年齢層に比べて最も多くなっています。

居住地域別でみると、すべての地域で「機会があれば参加したい」が最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、飯盛地域が64.2%で他の地域に比べて最も多くなっています。[図表 50 参照]

[図表 50]②参加意向（7）地域の防犯・防災活動
（全体、性別、年齢別、居住地域別）



②参加意向（8）子どもの安全見守り活動

- “参加したい” が 57.7%。

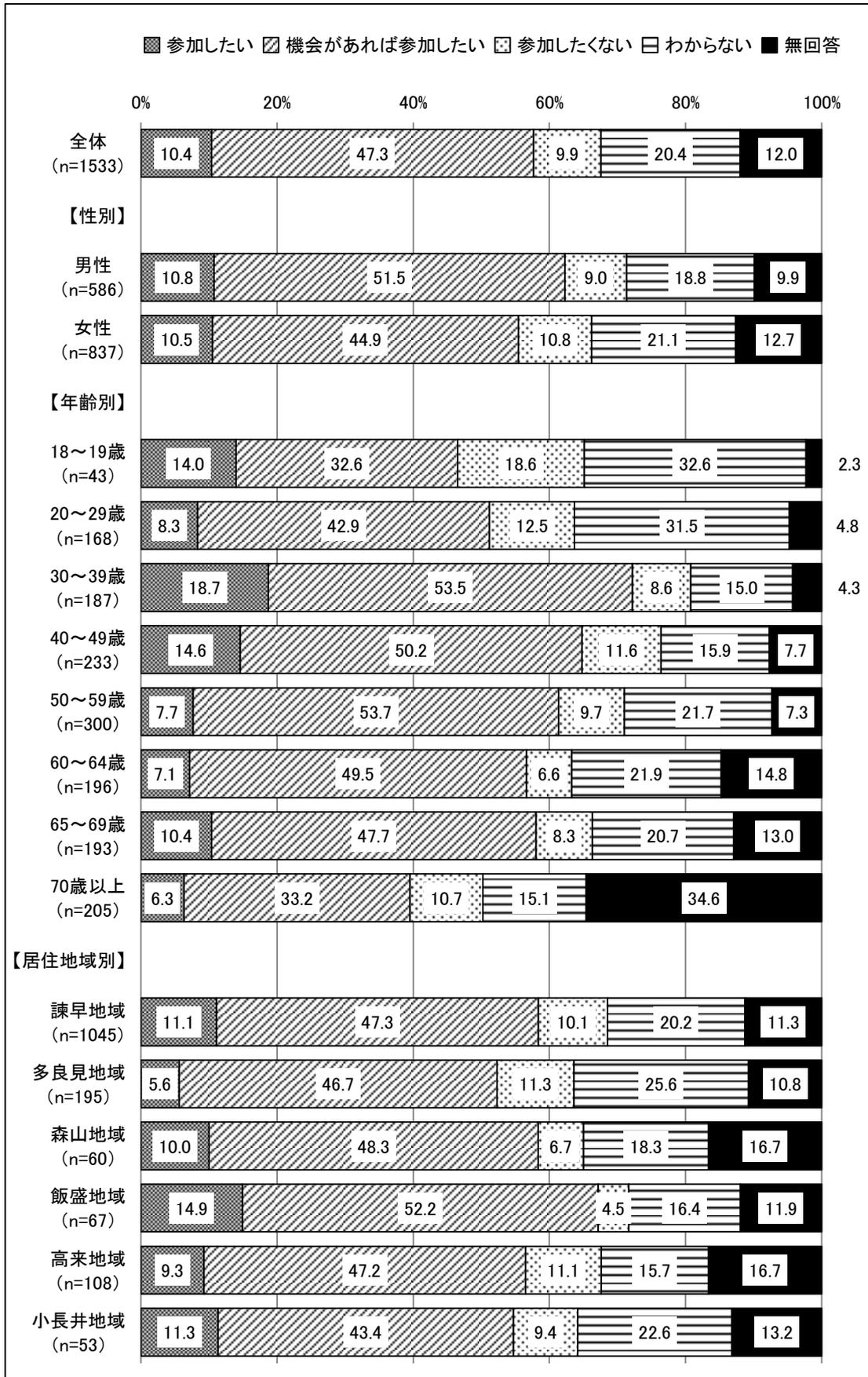
子どもの安全見守り活動の今後の参加意向については、「機会があれば参加したい」(47.3%) が最も多く、次いで「わからない」(20.4%)、「参加したい」(10.4%)、「参加したくない」(9.9%) の順となっています。また、「参加したい」と「機会があれば参加したい」を合わせた“参加したい”は57.7%となっています。

性別で見ると、男女ともに「機会があれば参加したい」が最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、男性(62.3%)が女性(55.4%)を上回ります。

年齢別で見ると、18～19歳では「機会があれば参加したい」及び「わからない」、20歳以上の年齢層では「機会があれば参加したい」がそれぞれ最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、30～39歳が72.2%で他の年齢層に比べて最も多くなっています。

居住地域別で見ると、すべての地域で「機会があれば参加したい」が最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、飯盛地域が67.1%で他の地域に比べて最も多くなっています。[図表 51 参照]

[図表 51]②参加意向（８）子どもの安全見守り活動
（全体、性別、年齢別、居住地域別）



②参加意向（9）公園、道路などの清掃・美化活動

- “参加したい” が 61.6%。

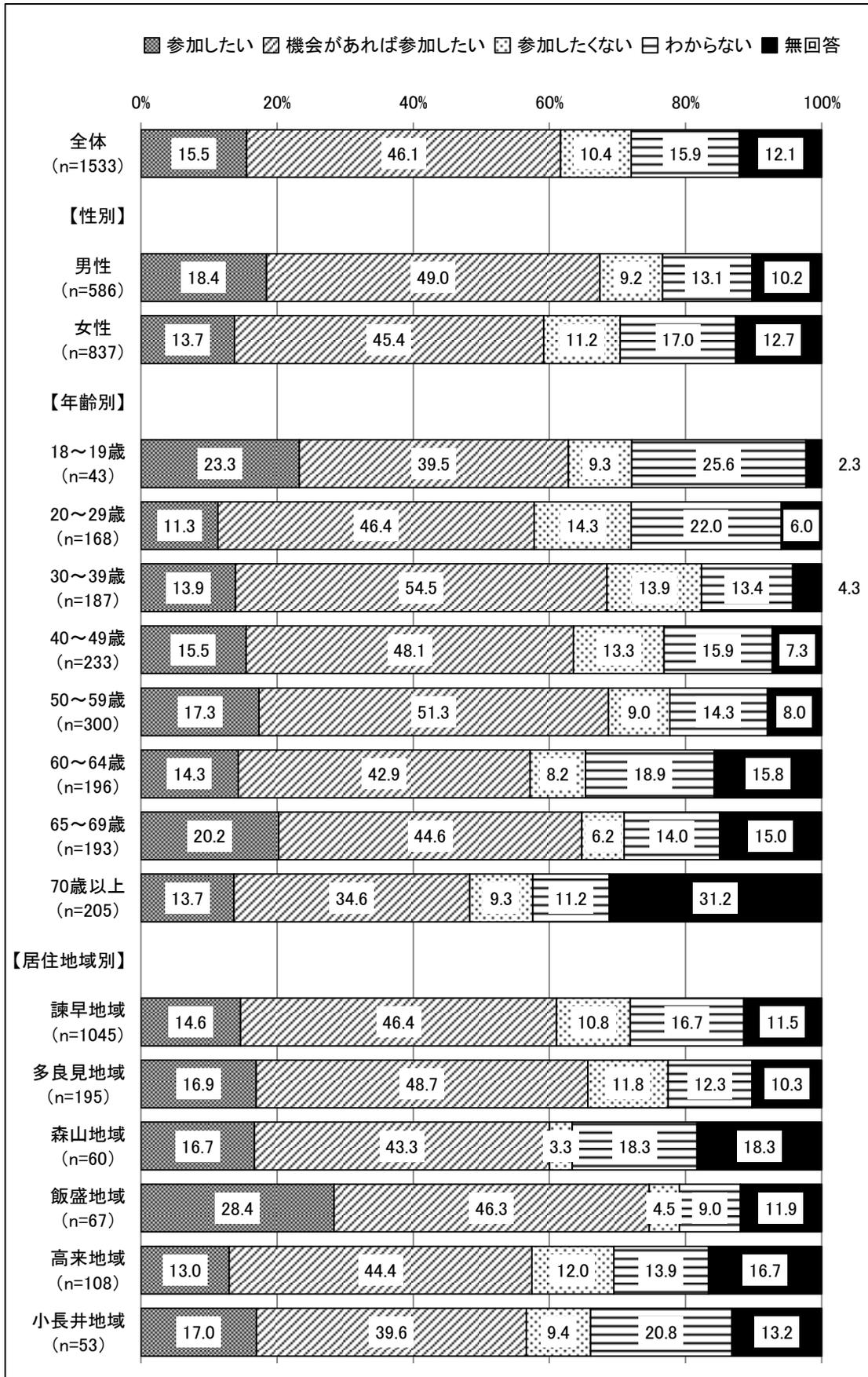
公園、道路などの清掃・美化活動の今後の参加意向については、「機会があれば参加したい」（46.1%）が最も多く、次いで「わからない」（15.9%）、「参加したい」（15.5%）、「参加したくない」（10.4%）の順となっています。また、「参加したい」と「機会があれば参加したい」を合わせた“参加したい”は 61.6%となっています。

性別で見ると、男女ともに「機会があれば参加したい」が最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、男性（67.4%）が女性（59.1%）を上回ります。

年齢別で見ると、すべての年齢層で「機会があれば参加したい」が最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、50～59歳が 68.6%で他の年齢層に比べて最も多くなっています。

居住地域別で見ると、すべての地域で「機会があれば参加したい」が最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、飯盛地域が 74.7%で他の地域に比べて最も多くなっています。[図表 52 参照]

[図表 52] ②参加意向（9）公園、道路などの清掃・美化活動
（全体、性別、年齢別、居住地域別）



②参加意向（10）町内会・自治会などの活動

- “参加したい” が 54.5%。

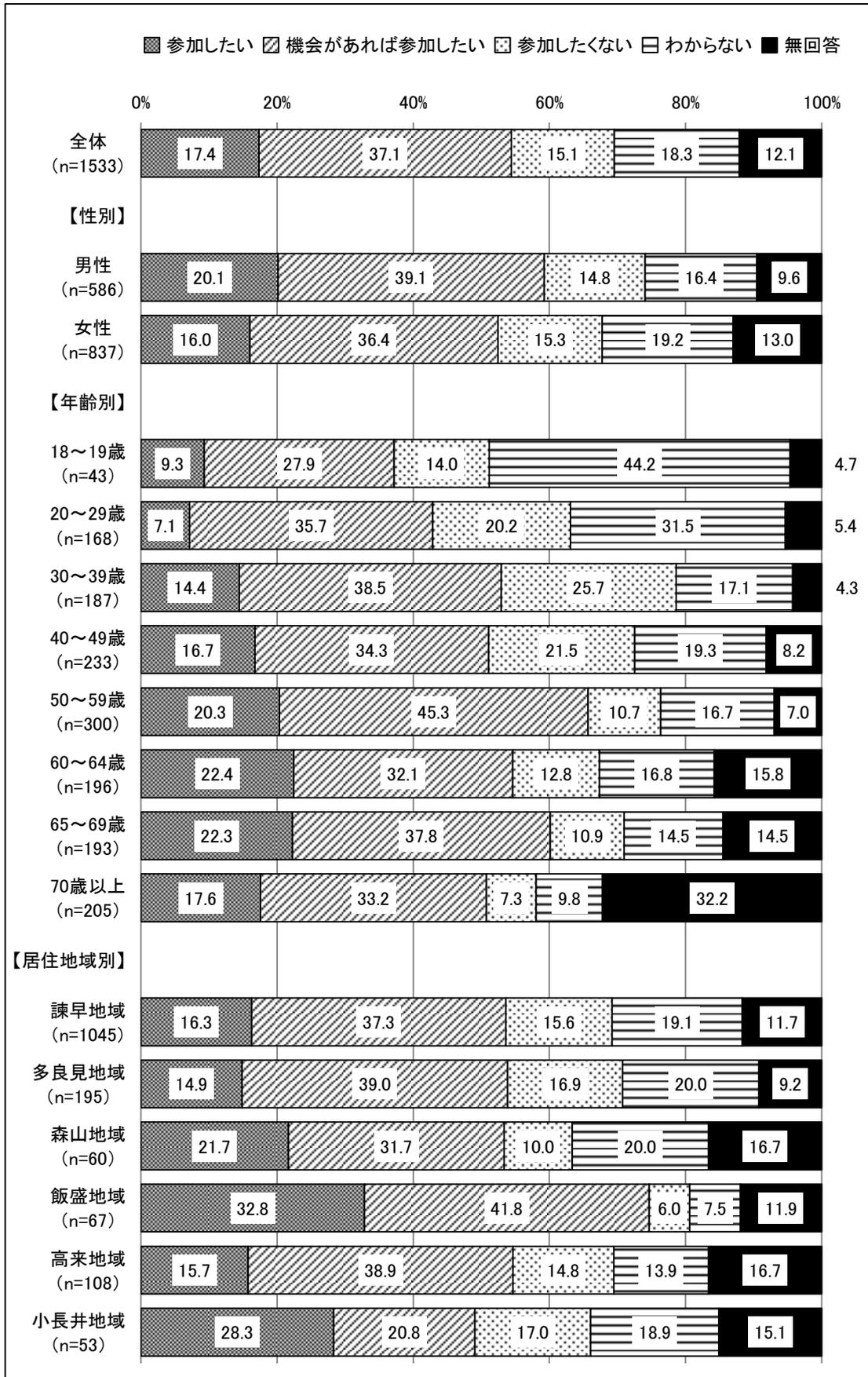
町内会・自治会などの活動の今後の参加意向については、「機会があれば参加したい」(37.1%)が最も多く、次いで「わからない」(18.3%)、「参加したい」(17.4%)、「参加したくない」(15.1%)の順となっています。また、「参加したい」と「機会があれば参加したい」を合わせた“参加したい”は54.5%となっています。

性別でみると、男女ともに「機会があれば参加したい」が最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、男性(59.2%)が女性(52.4%)を上回ります。

年齢別でみると、18～19歳では「わからない」、20歳以上の年齢層では「機会があれば参加したい」がそれぞれ最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、50～59歳が65.6%で他の年齢層に比べて最も多くなっています。

居住地域別でみると、小長井地域では「参加したい」、それ以外の地域では「機会があれば参加したい」がそれぞれ最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、飯盛地域が74.6%で他の地域に比べて最も多くなっています。[図表 53 参照]

[図表 53] ②参加意向 (10) 町内会・自治会などの活動
(全体、性別、年齢別、居住地域別)



②参加意向（11）自主的なまちづくりの企画・立案活動

- “参加したい” が 38.3%。

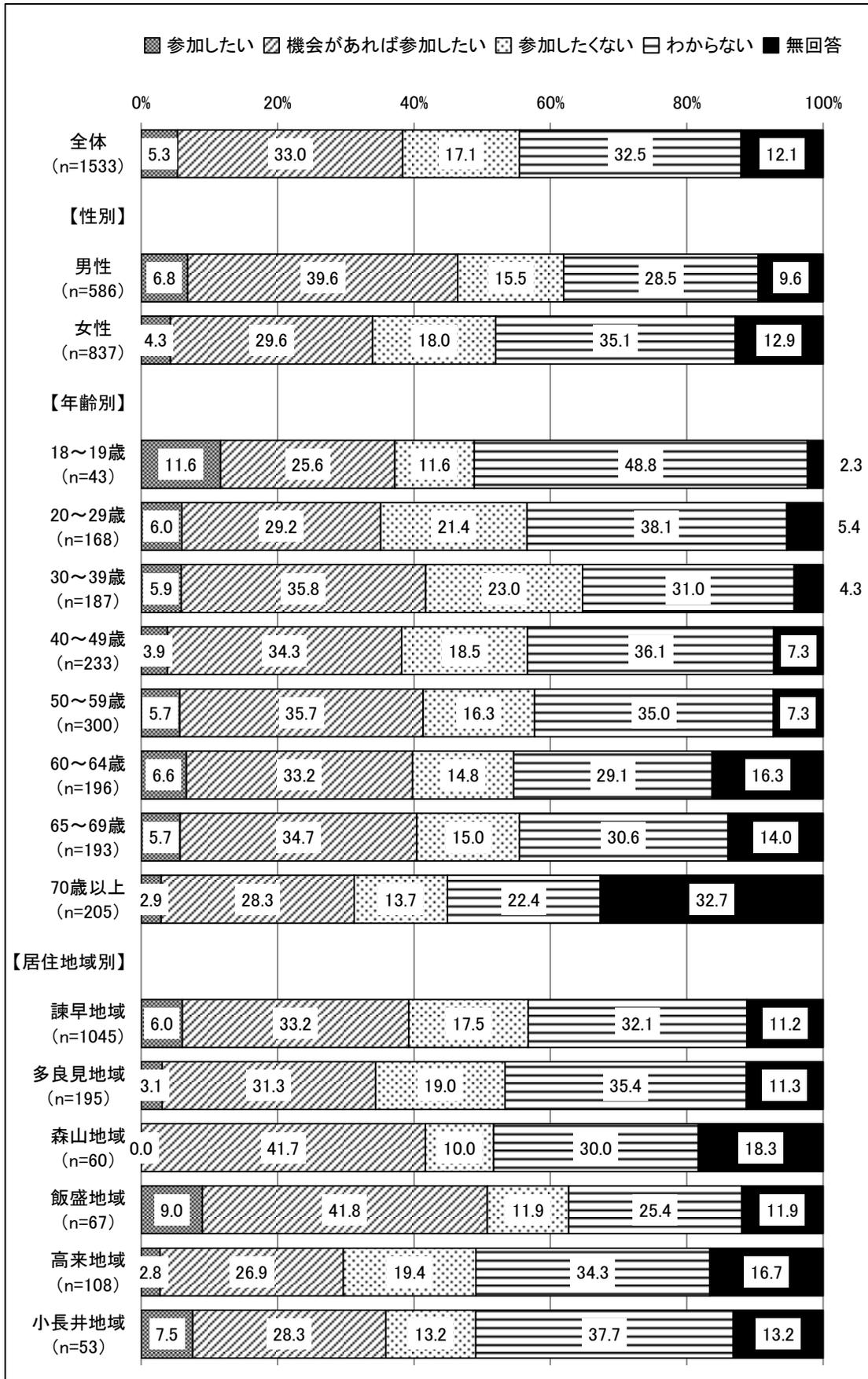
自主的なまちづくりの企画・立案活動の今後の参加意向については、「機会があれば参加したい」（33.0%）が最も多く、次いで「わからない」（32.5%）、「参加したくない」（17.1%）、「参加したい」（5.3%）の順となっています。また、「参加したい」と「機会があれば参加したい」を合わせた“参加したい”は 38.3%となっています。

性別でみると、男性は「機会があれば参加したい」（39.6%）、女性は「わからない」（35.1%）がそれぞれ最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、男性（46.4%）が女性（33.9%）を上回ります。

年齢別でみると、29歳以下の年齢層と40～49歳では「わからない」、30～39歳と50歳以上の年齢層では「機会があれば参加したい」がそれぞれ最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、30～39歳が41.7%で他の年齢層に比べて最も多くなっています。

居住地域別でみると、諫早地域、森山地域、飯盛地域では「機会があれば参加したい」、それ以外の地域では「わからない」がそれぞれ最も多くなっています。また、“参加したい”の割合は、飯盛地域が50.8%で他の地域に比べて最も多くなっています。[図表 54 参照]

[図表 54]②参加意向 (11) 自主的なまちづくりの企画・立案活動
(全体、性別、年齢別、居住地域別)



(5) 活発な地域活動のために大切なこと

問7 あなたは、地域の活動がもっと活発に行われるようにしていくためには、どのようなことが大切だと思いますか。お考えに近いものを3つ以内で選んで番号に○をつけてください。【複数回答】

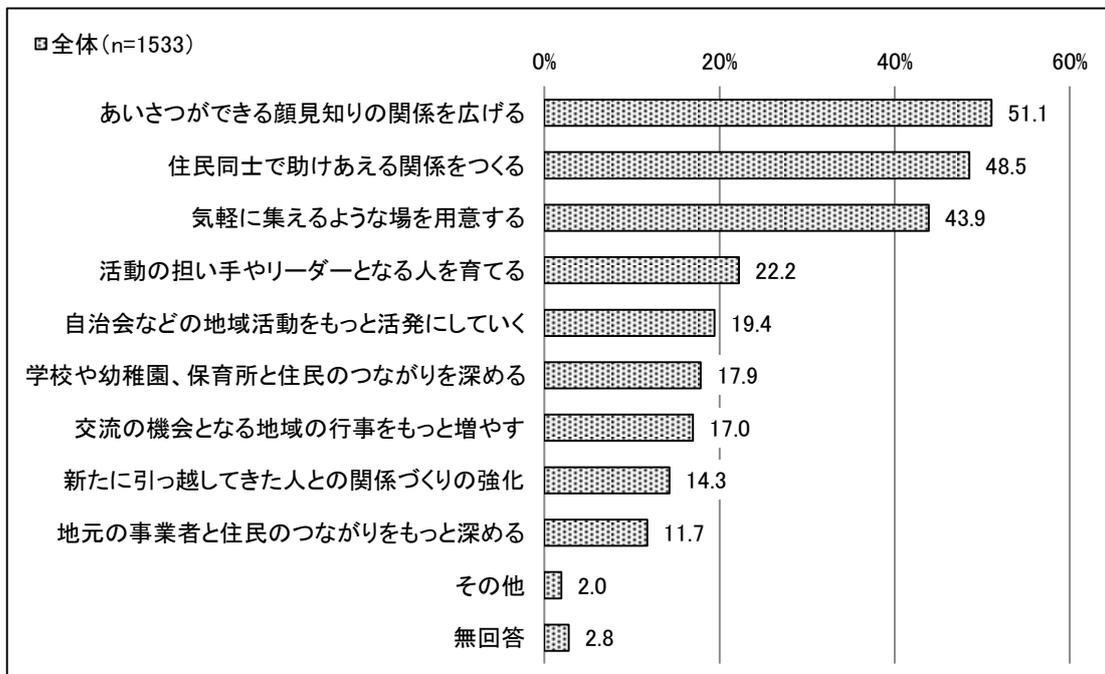


●「あいさつができる顔見知りの関係を広げる」「住民同士で助けあえる関係をつくる」「気軽に集えるような場を用意する」が4割以上。

地域の活動がもっと活発に行なわれるようにしていくために大切なことについては、「あいさつができる顔見知りの関係を広げる」(51.1%)が第1位に挙げられ、次いで「住民同士で助けあえる関係をつくる」(48.5%)、「気軽に集えるような場を用意する」(43.9%)が上位を占め、以下、「活動の担い手やリーダーとなる人を育てる」(22.2%)が続いています。

性別、年齢別、居住地域別でも、すべての層で全体と同様に「あいさつができる顔見知りの関係を広げる」「住民同士で助けあえる関係をつくる」「気軽に集えるような場を用意する」が上位を占めています。[図表 55~56 参照]

[図表 55] 活発な地域活動のために大切なこと (全体/複数回答)



[図表 56] 活発な地域活動のために大切なこと

(全体、性別、年齢別、居住地域別／複数回答)

(上位3項目、単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		あいさつができる顔見知りの関係を広げる 51.1	住民同士で助けあえる関係をつくる 48.5	気軽に集えるような場を用意する 43.9
性別	男性	あいさつができる顔見知りの関係を広げる 50.9	住民同士で助けあえる関係をつくる 48.5	気軽に集えるような場を用意する 41.8
	女性	あいさつができる顔見知りの関係を広げる 50.5	住民同士で助けあえる関係をつくる 49.5	気軽に集えるような場を用意する 46.1
年齢	18～19歳	住民同士で助けあえる関係をつくる 55.8	あいさつができる顔見知りの関係を広げる 48.8	気軽に集えるような場を用意する 41.9
	20～29歳	あいさつができる顔見知りの関係を広げる 47.6	住民同士で助けあえる関係をつくる 44.6	気軽に集えるような場を用意する 41.7
	30～39歳	あいさつができる顔見知りの関係を広げる 51.9	住民同士で助けあえる関係をつくる 44.9	気軽に集えるような場を用意する 37.4
	40～49歳	あいさつができる顔見知りの関係を広げる 52.8	住民同士で助けあえる関係をつくる 46.4	気軽に集えるような場を用意する 42.5
	50～59歳	あいさつができる顔見知りの関係を広げる 49.3	住民同士で助けあえる関係をつくる 47.0	気軽に集えるような場を用意する 45.0
	60～64歳	住民同士で助けあえる関係をつくる 56.1	あいさつができる顔見知りの関係を広げる 51.0	気軽に集えるような場を用意する 46.4
	65～69歳	住民同士で助けあえる関係をつくる／あいさつができる顔見知りの関係を広げる 53.9		気軽に集えるような場を用意する 51.8
	70歳以上	あいさつができる顔見知りの関係を広げる 50.7	住民同士で助けあえる関係をつくる 46.3	気軽に集えるような場を用意する 42.0
居住地域	諫早地域	あいさつができる顔見知りの関係を広げる 52.4	住民同士で助けあえる関係をつくる 46.9	気軽に集えるような場を用意する 43.6
	多良見地域	あいさつができる顔見知りの関係を広げる 52.3	住民同士で助けあえる関係をつくる 46.2	気軽に集えるような場を用意する 43.1
	森山地域	住民同士で助けあえる関係をつくる 58.3	あいさつができる顔見知りの関係を広げる 50.0	気軽に集えるような場を用意する 43.3
	飯盛地域	住民同士で助けあえる関係をつくる 62.7	気軽に集えるような場を用意する 49.3	あいさつができる顔見知りの関係を広げる 40.3
	高来地域	住民同士で助けあえる関係をつくる 53.7	あいさつができる顔見知りの関係を広げる 45.4	気軽に集えるような場を用意する 44.4
	小長井地域	住民同士で助けあえる関係をつくる 50.9	あいさつができる顔見知りの関係を広げる／気軽に集えるような場を用意する	43.4

3 子ども・若者・高齢者のことなどについて

(1) 子どもたちが健やかに育つまちとなるためには

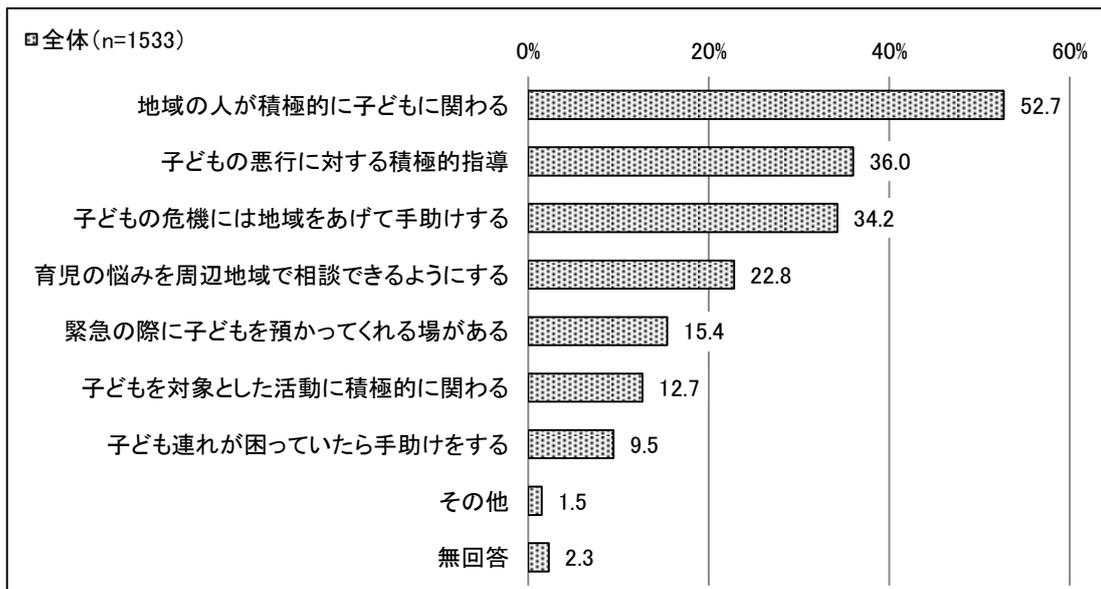
問8 子どもたちが健やかにのびのびと育つまちとなるために、あなたは地域全体がどのようなになればよいと思いますか。お考えに近いものを2つ以内で選んで番号に○をつけてください。【複数回答】

●「地域の人が積極的に子どもに関わる」が52.7%で第1位。

子どもたちが健やかに育つまちとなるために必要な地域全体の変化については、「地域の人が積極的に子どもに関わる」(52.7%)が第1位に挙げられ、次いで「子どもの悪行に対する積極的指導」(36.0%)、「子どもの危機には地域をあげて手助けする」(34.2%)が上位を占め、以下、「育児の悩みを周辺地域で相談できるようにする」(22.8%)、「緊急の際に子どもを預かってくれる場がある」(15.4%)などの順になっています。

性別、年齢別、居住地域別でみると、ほぼすべての層で全体と同様に「地域の人積極的に子どもに関わる」「子どもの悪行に対する積極的指導」「子どもの危機には地域をあげて手助けする」が上位を占めていますが、高来地域では「育児の悩みを周辺地域で相談できるようにする」が35.2%で上位に挙げられています。[図表57~58 参照]

[図表57] 子どもたちが健やかに育つまちとなるためには (全体/複数回答)



[図表 58]子どもたちが健やかに育つまちとなるためには

(全体、性別、年齢別、居住地域別／複数回答)

(上位3項目、単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		地域の人が積極的に子どもに関わる 52.7	子どもの悪行に対する積極的指導 36.0	子どもの危機には地域をあげて手助けする 34.2
性別	男性	地域の人が積極的に子どもに関わる 52.6	子どもの悪行に対する積極的指導 42.5	子どもの危機には地域をあげて手助けする 32.3
	女性	地域の人が積極的に子どもに関わる 53.0	子どもの危機には地域をあげて手助けする 35.1	子どもの悪行に対する積極的指導 31.3
年齢	18～19歳	地域の人が積極的に子どもに関わる 44.2	子どもの悪行に対する積極的指導 39.5	子どもの危機には地域をあげて手助けする 27.9
	20～29歳	地域の人が積極的に子どもに関わる 45.8	子どもの悪行に対する積極的指導 33.3	子どもの危機には地域をあげて手助けする 32.7
	30～39歳	地域の人が積極的に子どもに関わる 46.0	子どもの危機には地域をあげて手助けする 39.6	子どもの悪行に対する積極的指導 32.1
	40～49歳	地域の人が積極的に子どもに関わる 45.5	子どもの危機には地域をあげて手助けする 36.9	子どもの悪行に対する積極的指導 33.9
	50～59歳	地域の人が積極的に子どもに関わる 55.0	子どもの悪行に対する積極的指導 37.7	子どもの危機には地域をあげて手助けする 32.7
	60～64歳	地域の人が積極的に子どもに関わる 60.2	子どもの悪行に対する積極的指導 41.3	子どもの危機には地域をあげて手助けする 35.7
	65～69歳	地域の人が積極的に子どもに関わる 60.1	子どもの悪行に対する積極的指導 38.3	子どもの危機には地域をあげて手助けする 31.6
	70歳以上	地域の人が積極的に子どもに関わる 57.1	子どもの悪行に対する積極的指導 34.1	子どもの危機には地域をあげて手助けする 32.7
居住地域	諫早地域	地域の人が積極的に子どもに関わる 51.7	子どもの悪行に対する積極的指導 36.4	子どもの危機には地域をあげて手助けする 34.2
	多良見地域	地域の人が積極的に子どもに関わる 52.8	子どもの悪行に対する積極的指導 32.8	子どもの危機には地域をあげて手助けする 31.8
	森山地域	地域の人が積極的に子どもに関わる 58.3	子どもの危機には地域をあげて手助けする 41.7	子どもの悪行に対する積極的指導 33.3
	飯盛地域	地域の人が積極的に子どもに関わる 62.7	子どもの悪行に対する積極的指導 46.3	子どもの危機には地域をあげて手助けする 29.9
	高来地域	地域の人が積極的に子どもに関わる 51.9	子どもの危機には地域をあげて手助けする 37.0	育児の悩みを周辺地域で相談できるようにする 35.2
	小長井地域	地域の人が積極的に子どもに関わる 54.7	子どもの悪行に対する積極的指導 41.5	子どもの危機には地域をあげて手助けする 35.8

(2) 子育てを支援するために今後必要なこと

問9 子育てを支援するために、今後どのようなことが必要だと思いますか。お考えに近いものを3つ以内で選んで番号に○をつけてください。【複数回答】



- 「子供が身近でのびのび遊べる環境の整備」「子供の一時預かりの充実」が2大要望。

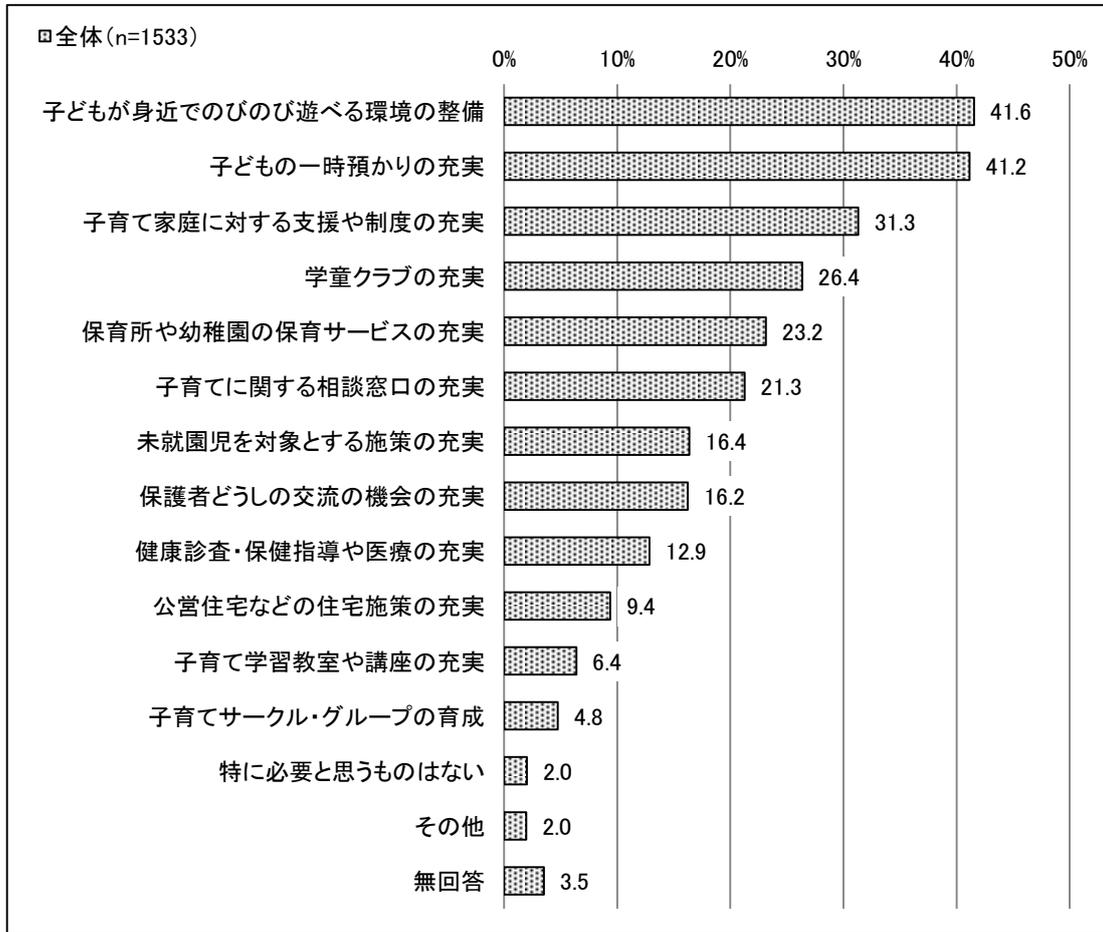
子育てを支援するために今後必要なことについては、「子どもが身近でのびのび遊べる環境の整備」(41.6%)が第1位に挙げられ、次いで「子どもの一時預かりの充実」(41.2%)が僅差で続き、これらが2大要望となっています。以下、「子育て家庭に対する支援や制度の充実」(31.3%)、「学童クラブの充実」(26.4%)、「保育所や幼稚園の保育サービスの充実」(23.2%)、「子育てに関する相談窓口の充実」(21.3%)などの順となっています。

性別で見ると、男女ともに全体と同様に2大要望が上位3位以内に挙げられています。それ以外では、男女ともに「子育て家庭に対する支援や制度の充実」が上位3位以内に挙げられています。

年齢別で見ると、すべての年齢層で全体と同様に2大要望が上位3位以内に挙げられています。それ以外では、20～29歳、30～39歳、40～49歳、60～64歳では「子育て家庭に対する支援や制度の充実」、18～19歳、50～59歳、65～69歳、70歳以上では「学童クラブの充実」が上位3位以内に挙げられています。

居住地域別で見ると、すべての地域で全体と同様に2大要望が上位3位以内に挙げられています。それ以外では、諫早地域、多良見地域、森山地域、飯盛地域、小長井地域では「子育て家庭に対する支援や制度の充実」、高来地域では「学童クラブの充実」が上位3位以内に挙げられています。[図表 59～60 参照]

[図表 59] 子育てを支援するために今後必要なこと（全体／複数回答）



[図表 60]子育てを支援するために今後必要なこと
(全体、性別、年齢別、居住地域別／複数回答)

(上位3項目、単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		子どもが身近でのびのび遊べる環境の整備 41.6	子どもの一時預かりの充実 41.2	子育て家庭に対する支援や制度の充実 31.3
性別	男性	子どもが身近でのびのび遊べる環境の整備 42.5	子育て家庭に対する支援や制度の充実 36.2	子どもの一時預かりの充実 32.8
	女性	子どもの一時預かりの充実 47.1	子どもが身近でのびのび遊べる環境の整備 41.5	子育て家庭に対する支援や制度の充実 28.7
年齢	18～19歳	子どもが身近でのびのび遊べる環境の整備 58.1	子どもの一時預かりの充実 39.5	学童クラブの充実 30.2
	20～29歳	子どもが身近でのびのび遊べる環境の整備／子育て家庭に対する支援や制度の充実 39.3		子どもの一時預かりの充実 34.5
	30～39歳	子育て家庭に対する支援や制度の充実 47.1	子どもが身近でのびのび遊べる環境の整備 44.9	子どもの一時預かりの充実 40.6
	40～49歳	子どもの一時預かりの充実 39.5	子どもが身近でのびのび遊べる環境の整備 39.1	子育て家庭に対する支援や制度の充実 36.1
	50～59歳	子どもの一時預かりの充実 46.3	子どもが身近でのびのび遊べる環境の整備 39.7	学童クラブの充実 26.3
	60～64歳	子どもが身近でのびのび遊べる環境の整備 42.3	子どもの一時預かりの充実 37.8	子育て家庭に対する支援や制度の充実 28.6
	65～69歳	子どもの一時預かりの充実 47.2	子どもが身近でのびのび遊べる環境の整備 45.6	学童クラブの充実 31.6
	70歳以上	子どもの一時預かりの充実 40.0	子どもが身近でのびのび遊べる環境の整備 39.0	学童クラブの充実 24.4
居住地域	諫早地域	子どもが身近でのびのび遊べる環境の整備 42.4	子どもの一時預かりの充実 40.9	子育て家庭に対する支援や制度の充実 32.0
	多良見地域	子どもの一時預かりの充実 43.6	子どもが身近でのびのび遊べる環境の整備 35.9	子育て家庭に対する支援や制度の充実 30.8
	森山地域	子どもの一時預かりの充実 46.7	子どもが身近でのびのび遊べる環境の整備 36.7	子育て家庭に対する支援や制度の充実 26.7
	飯盛地域	子どもが身近でのびのび遊べる環境の整備 50.7	子どもの一時預かりの充実 44.8	子育て家庭に対する支援や制度の充実 28.4
	高来地域	子どもが身近でのびのび遊べる環境の整備 44.4	子どもの一時預かりの充実 39.8	学童クラブの充実 34.3
	小長井地域	子どもが身近でのびのび遊べる環境の整備／子育て家庭に対する支援や制度の充実 35.8		子どもの一時預かりの充実 30.2

(3) 高齢者が自宅での生活を続けていくために必要な支援

問 10 高齢化が全国的に進みつつありますが、今後どのような高齢者に対する支援があれば、身近な地域や自宅での生活を続けていくことができると思いますか。お考えに近いものを2つ以内で選んで番号に○をつけてください。【複数回答】

●「買い物や通院時などの介助や送迎」「定期的な安否の確認」「緊急時に通報できる手段・連絡体制」が3割以上。

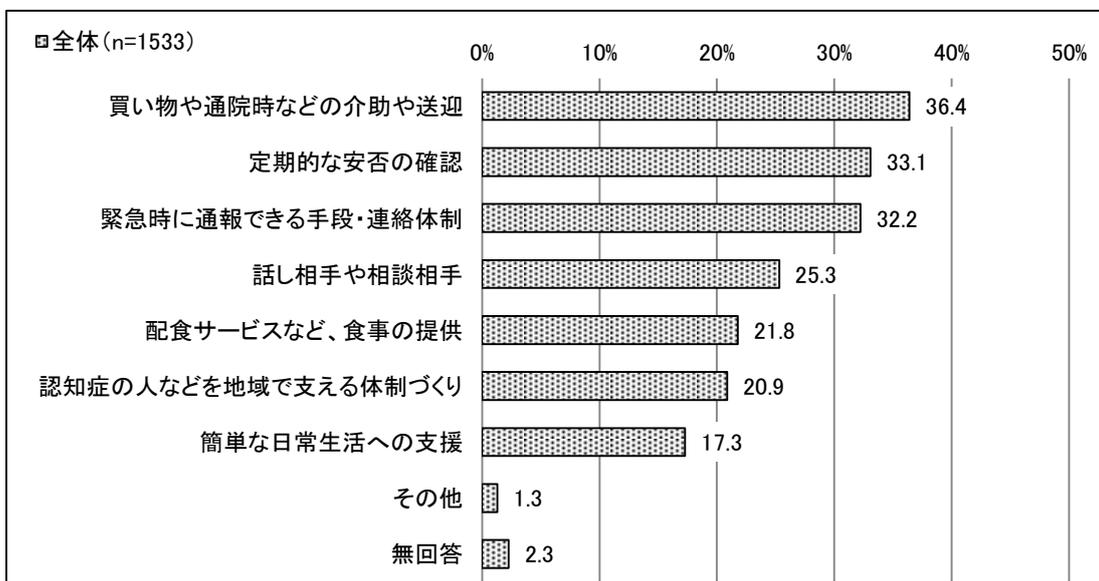
高齢者が自宅での生活を続けていくために必要な支援は、「買い物や通院時などの介助や送迎」(36.4%)が第1位に挙げられ、次いで「定期的な安否の確認」(33.1%)、「緊急時に通報できる手段・連絡体制」(32.2%)が上位を占め、以下、「話し相手や相談相手」(25.3%)、「配食サービスなど、食事の提供」(21.8%)などの順となっています。

性別で見ると、男女ともに全体と同様に「買い物や通院時などの介助や送迎」「定期的な安否の確認」「緊急時に通報できる手段・連絡体制」が上位を占めています。

年齢別で見ると、40歳以上の年齢層では全体と同様に「買い物や通院時などの介助や送迎」「定期的な安否の確認」「緊急時に通報できる手段・連絡体制」が上位を占めています。18～19歳では「話し相手や相談相手」が39.5%で第1位に挙げられ、次いで「配食サービスなど食事の提供」及び「定期的な安否の確認」(同率34.9%)が挙げられています。また、20～29歳と30～39歳では「話し相手や相談相手」が上位3位以内に挙げられています。

居住地域別で見ると、諫早地域、多良見地域、小長井地域では全体と同様に「買い物や通院時などの介助や送迎」「定期的な安否の確認」「緊急時に通報できる手段・連絡体制」が上位を占めています。森山地域、飯盛地域、高来地域では「話し相手や相談相手」が上位3位以内に挙げられています。[図表 61～62 参照]

[図表 61] 高齢者が自宅での生活を続けていくために必要な支援 (全体/複数回答)



[図表 62] 高齢者が自宅での生活を続けていくために必要な支援

(全体、性別、年齢別、居住地域別／複数回答)

(上位3項目、単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		買い物や通院時などの介助 や送迎 36.4	定期的な安否の確認 33.1	緊急時に通報できる手段・連 絡体制 32.2
性別	男性	買い物や通院時などの介助 や送迎 33.4	緊急時に通報できる手段・連 絡体制 33.1	定期的な安否の確認 32.8
	女性	買い物や通院時などの介助 や送迎 39.1	定期的な安否の確認 32.4	緊急時に通報できる手段・連 絡体制 31.3
年齢	18～19 歳	話し相手や相談相手 39.5	配食サービスなど、食事の提供／定期的な安否の確認 34.9	
	20～29 歳	買い物や通院時などの介助 や送迎 43.5	話し相手や相談相手 30.4	定期的な安否の確認 29.8
	30～39 歳	買い物や通院時などの介助 や送迎 36.4	定期的な安否の確認 34.8	話し相手や相談相手 29.9
	40～49 歳	買い物や通院時などの介助 や送迎 38.6	定期的な安否の確認 36.5	緊急時に通報できる手段・連 絡体制 25.3
	50～59 歳	買い物や通院時などの介助 や送迎 37.7	定期的な安否の確認 35.7	緊急時に通報できる手段・連 絡体制 33.0
	60～64 歳	緊急時に通報できる手段・連 絡体制 41.8	買い物や通院時などの介助 や送迎 38.3	定期的な安否の確認 31.6
	65～69 歳	緊急時に通報できる手段・連 絡体制 40.9	定期的な安否の確認 32.6	買い物や通院時などの介助 や送迎 31.6
	70 歳以上	緊急時に通報できる手段・連 絡体制 36.6	買い物や通院時などの介助 や送迎 34.1	定期的な安否の確認 27.8
居住地域	諫早地域	買い物や通院時などの介助 や送迎 35.6	定期的な安否の確認 33.6	緊急時に通報できる手段・連 絡体制 32.3
	多良見地域	定期的な安否の確認 36.4	買い物や通院時などの介助や送迎／緊急時に通報できる手 段・連絡体制 32.8	
	森山地域	買い物や通院時などの介助 や送迎 46.7	緊急時に通報できる手段・連絡体制／話し相手や相談相手 31.7	
	飯盛地域	買い物や通院時などの介助 や送迎 43.3	定期的な安否の確認 31.3	話し相手や相談相手 29.9
	高来地域	買い物や通院時などの介助 や送迎 42.6	緊急時に通報できる手段・連 絡体制 31.5	話し相手や相談相手 25.0
	小長井地域	定期的な安否の確認 39.6	買い物や通院時などの介助 や送迎 35.8	緊急時に通報できる手段・連 絡体制 34.0

(4) 今後特に力を入れるべき高齢者支援

問 11 高齢者に関わる施策のうち、今後特に力を入れるべきだと思うものは何ですか。お考えに近いものを3つ以内で選んで番号に○をつけてください。【複数回答】

● 「入所施設の充実」が 26.1%で第1位。

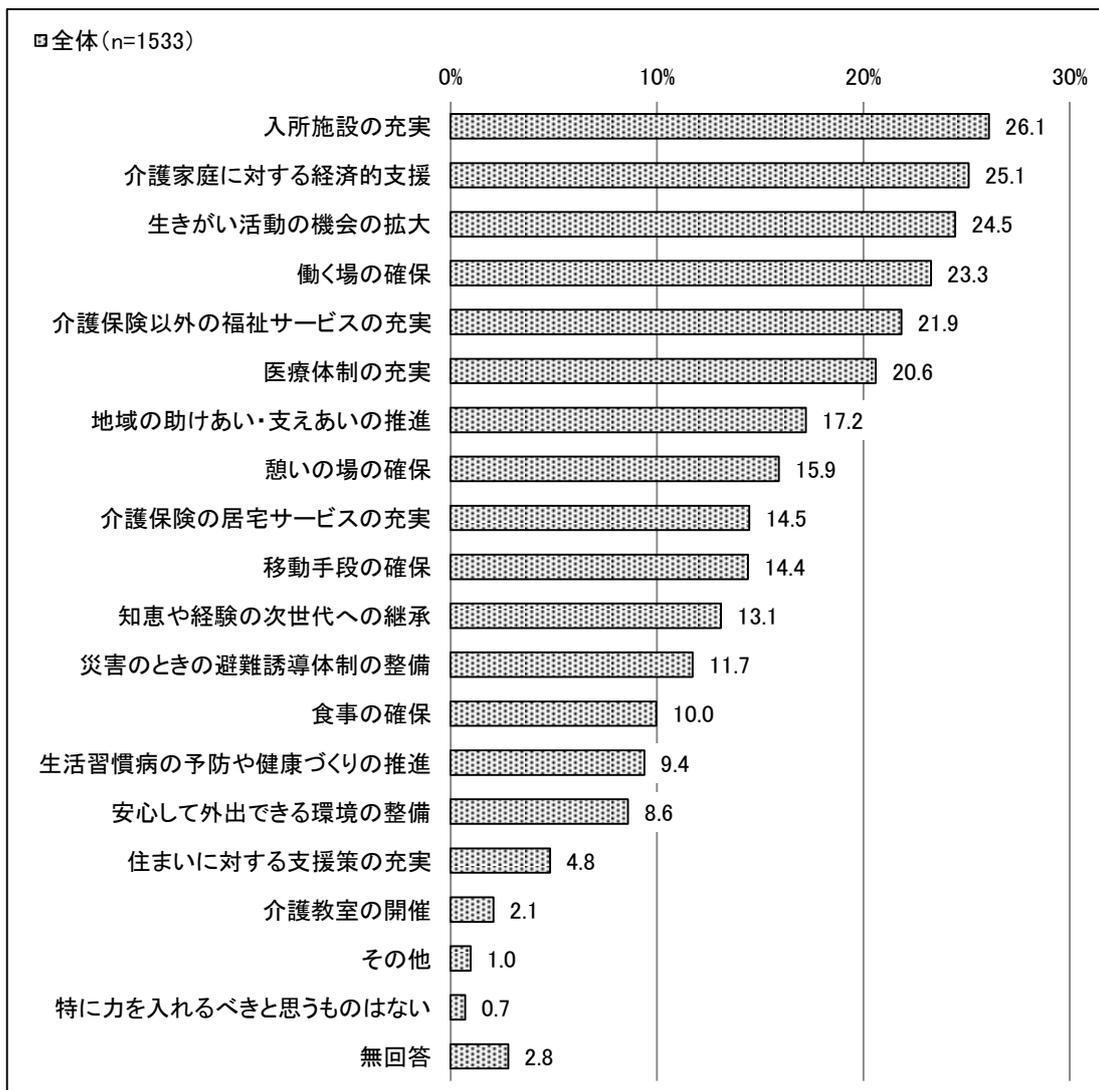
今後特に力を入れるべき高齢者支援については、「入所施設の充実」(26.1%)が第1位に挙げられ、次いで「介護家庭に対する経済的支援」(25.1%)、「生きがい活動の機会の拡大」(24.5%)が上位を占め、以下、「働く場の確保」(23.3%)、「介護保険以外の福祉サービスの充実」(21.9%)、「医療体制の充実」(20.6%)などの順となっています。

性別でみると、女性は全体と同様に「入所施設の充実」「介護家庭に対する経済的支援」「生きがい活動の機会の拡大」が上位を占めていますが、男性は「働く場の確保」(29.2%)が第1位に挙げられ、次いで「生きがい活動の機会の拡大」(25.8%)、「入所施設の充実」(24.4%)と続いています。

年齢別でみると、18～19歳は「生きがい活動の機会の拡大」及び「医療体制の充実」(同率 32.6%)、20～29歳は「生きがい活動の機会の拡大」(28.6%)、30～39歳は「働く場の確保」(28.9%)、40～49歳は「生きがい活動の機会の拡大」(29.6%)、50～59歳は「介護家庭に対する経済的支援」(28.7%)、60歳以上の層では全体と同様に「入所施設の充実」がそれぞれ第1位に挙げられています。また、70歳以上では「地域の助けあい・支えあいの推進」(20.5%)が上位に挙げられています。

居住地域別でみると、諫早地域、多良見地域は全体と同様に「入所施設の充実」、森山地域は「介護保険以外の福祉サービスの充実」、高来地域、小長井地域は「介護家庭に対する経済的支援」、飯盛地域は「働く場の確保」がそれぞれ第1位に挙げられています。また、飯盛地域では「憩いの場の確保」が 22.4%で上位に挙げられています。[図表 63～64 参照]

[図表 63] 今後特に力を入れるべき高齢者支援（全体／複数回答）



[図表 64] 今後特に力を入れるべき高齢者支援
(全体、性別、年齢別、居住地域別／複数回答)

(上位3項目、単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		入所施設の充実 26.1	介護家庭に対する経済的支援 25.1	生きがい活動の機会の拡大 24.5
性別	男性	働く場の確保 29.2	生きがい活動の機会の拡大 25.8	入所施設の充実 24.4
	女性	入所施設の充実 27.2	介護家庭に対する経済的支援 25.6	生きがい活動の機会の拡大 25.3
年齢	18～19歳	生きがい活動の機会の拡大／医療体制の充実 32.6		介護保険以外の福祉サービスの充実 23.3
	20～29歳	生きがい活動の機会の拡大 28.6	介護家庭に対する経済的支援 23.8	移動手段の確保 23.2
	30～39歳	働く場の確保 28.9	介護家庭に対する経済的支援 27.3	生きがい活動の機会の拡大 25.1
	40～49歳	生きがい活動の機会の拡大 29.6	介護家庭に対する経済的支援 28.3	働く場の確保 27.9
	50～59歳	介護家庭に対する経済的支援 28.7	入所施設の充実 28.3	働く場の確保 27.7
	60～64歳	入所施設の充実 30.6	介護保険以外の福祉サービスの充実 25.5	介護家庭に対する経済的支援 25.0
	65～69歳	入所施設の充実 31.1	生きがい活動の機会の拡大 22.8	働く場の確保 22.3
	70歳以上	入所施設の充実 27.8	地域の助けあい・支えあいの推進 20.5	介護保険以外の福祉サービスの充実 19.0
居住地域	諫早地域	入所施設の充実 27.7	生きがい活動の機会の拡大 25.4	介護家庭に対する経済的支援 24.6
	多良見地域	入所施設の充実 25.1	介護家庭に対する経済的支援 24.6	生きがい活動の機会の拡大 23.6
	森山地域	介護保険以外の福祉サービスの充実 30.0	生きがい活動の機会の拡大 26.7	介護家庭に対する経済的支援 25.0
	飯盛地域	働く場の確保 28.4	入所施設の充実 25.4	憩いの場の確保 22.4
	高来地域	介護家庭に対する経済的支援 26.9	地域の助けあい・支えあいの推進 25.9	入所施設の充実 25.0
	小長井地域	介護家庭に対する経済的支援 37.7	地域の助けあい・支えあいの推進 32.1	生きがい活動の機会の拡大 26.4

(5) 若年者増加のために重要な施策

問 12 次にあげる項目について、あなたは、若い人の定住者を増やすために、どのような施策が重要だと思われますか。(1)から(17)のそれぞれについて、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。



●重要度の最も高い項目は「(1) 子育て環境の充実」。次いで「(8) 企業誘致等による雇用の確保」及び「(9) 医療や福祉面の充実」の順。

若年者増加のために重要な施策について、重要度を尋ねた17の設問項目について、「大変重要」「やや重要」「あまり重要でない」「重要でない」の4段階で評価してもらいました。

“重要である”(「大変重要」と「やや重要」の合計)の比率が高い項目としては、『(1) 子育て環境の充実』が91.8%で第1位に挙げられ、次いで『(9) 医療や福祉面の充実』(91.1%)、『(8) 企業誘致等による雇用の確保』(88.2%)、『(13) 防犯・防災の安心度の充実』(87.7%)などの順となっています。

性別で“重要である”をみると、男女ともに全体と同様に『(1) 子育て環境の充実』『(9) 医療や福祉面の充実』『(8) 企業誘致等による雇用の確保』『(13) 防犯・防災の安心度の充実』が上位を占めています。

年齢別で“重要である”をみると、ほぼすべての年齢層で全体と同様に『(1) 子育て環境の充実』『(9) 医療や福祉面の充実』『(8) 企業誘致等による雇用の確保』『(13) 防犯・防災の安心度の充実』が上位を占めていますが、18～19歳では『(12) 良好な自然環境の保全』(93.0%)が『(8) 企業誘致等による雇用の確保』及び『(9) 医療や福祉面の充実』と同率で第2位に挙げられています。

居住地域別で“重要である”をみると、すべての地域で全体と同様に『(1) 子育て環境の充実』『(9) 医療や福祉面の充実』『(8) 企業誘致等による雇用の確保』『(13) 防犯・防災の安心度の充実』が上位を占めています。

さらに、その結果を加重平均値〔後述参照〕による数量化で評価点(重要度:最高点9点、最低点0点)を算出しました。

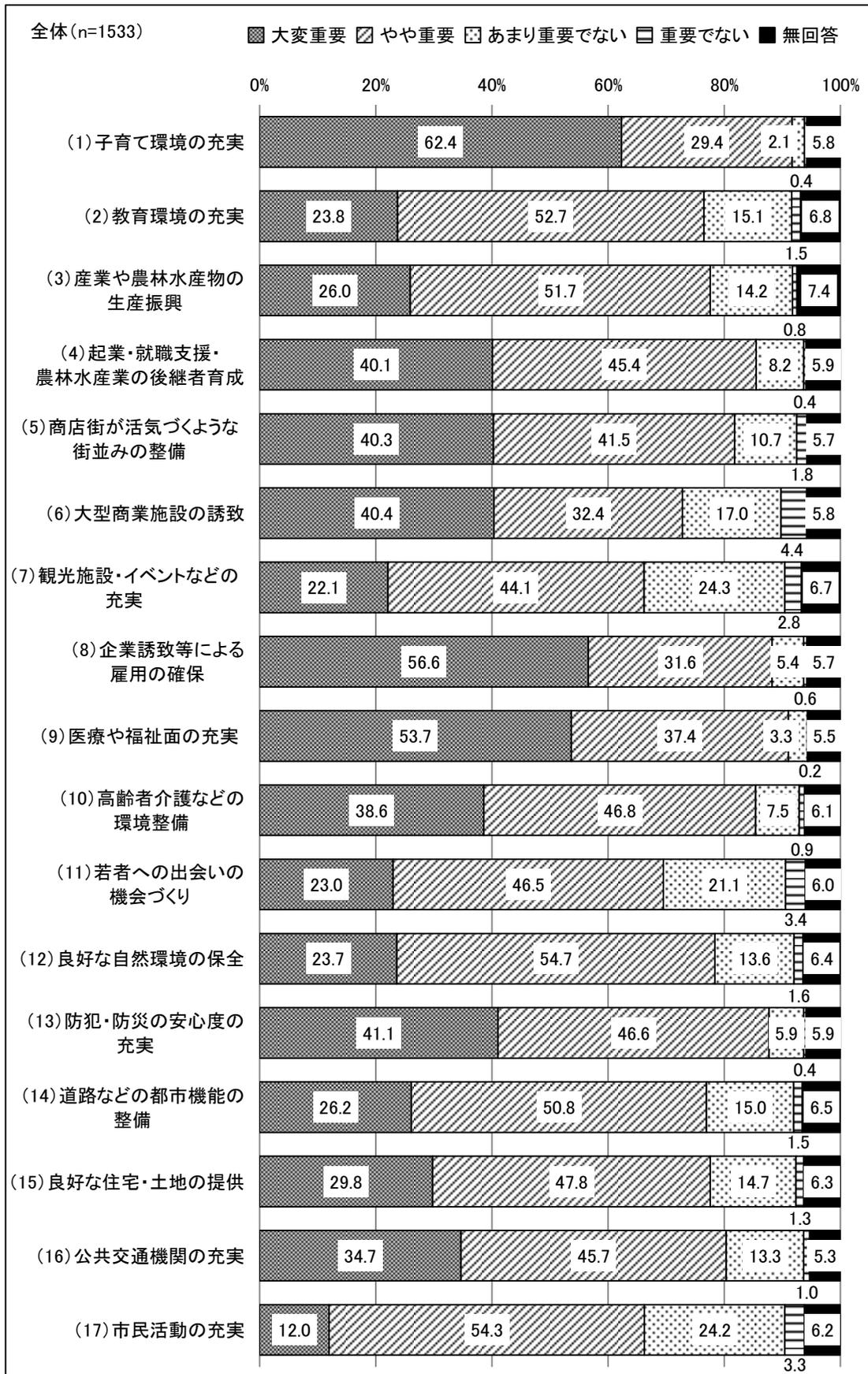
この結果をみると重要度は、『(1) 子育て環境の充実』(7.89点)が第1位に挙げられ、次いで『(8) 企業誘致等による雇用の確保』及び『(9) 医療や福祉面の充実』(同点7.59点)と続き、以下、『(13) 防犯・防災の安心度の充実』(7.10点)、『(4) 起業・就職支援・農林水産業の後継者育成』(6.99点)などの順となっています。また、居住地域別で重要度の高い項目をみると、高来地域では『(9) 医療や福祉面の充実』、それ以外の地域では全体と同様に『(1) 子育て環境の充実』が第1位に挙げられています。〔図表 65～75 参照〕

※加重平均値の算出方法

4段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点（重要度）を算出する。

$$\text{評価点} = \left[\begin{array}{l} \text{「大変重要」の回答者数} \times 9 \text{点} \\ + \\ \text{「やや重要」の回答者数} \times 6 \text{点} \\ + \\ \text{「あまり重要でない」の回答者数} \times 3 \text{点} \\ + \\ \text{「重要でない」の回答者数} \times 0 \text{点} \end{array} \right] \div \left[\begin{array}{l} \text{「大変重要」、「やや重要」、「あ} \\ \text{まり重要でない」、「重要でない} \\ \text{」の回答者数} \end{array} \right]$$

[図表 65] 若年者増加のために重要な施策（全体）



[図表 66] 若年者増加のために重要な施策についての“重要である”の割合

(1) ~ (9) (全体、性別、年齢別、居住地域別)

(単位：%)

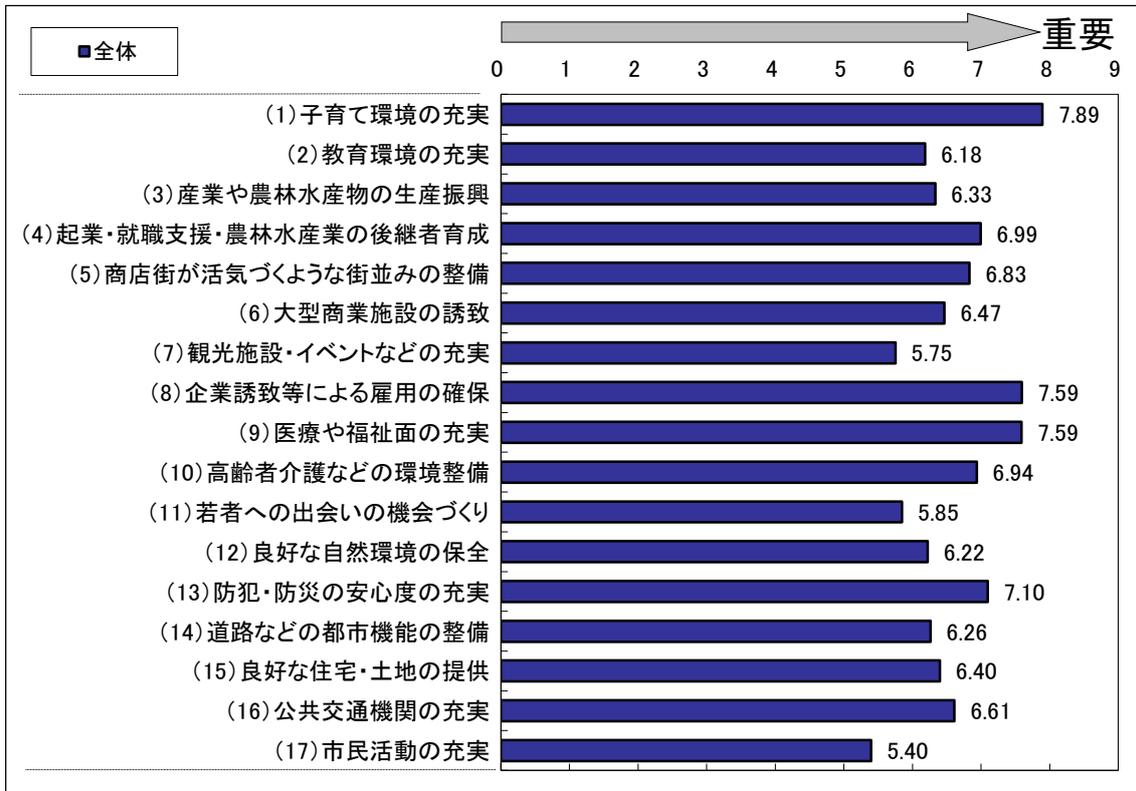
		n	(1) 子育て環境の充実	(2) 教育環境の充実	(3) 産業や農林水産物の生産振興	(4) 起業・就職支援・農林水産業の後継者育成	(5) 商店街が活気づくような街並みの整備	(6) 大型商業施設の誘致	(7) 観光施設・イベントなどの充実	(8) 企業誘致等による雇用の確保	(9) 医療や福祉面の充実
全体		1533	91.8	76.5	77.7	85.5	81.8	72.8	66.2	88.2	91.1
性別	男性	586	92.3	75.1	80.3	84.5	77.7	70.1	65.3	88.2	88.7
	女性	837	91.8	78.3	76.4	86.5	85.1	75.4	67.7	88.9	93.3
年齢	18～19歳	43	93.1	88.4	74.5	83.7	79.0	76.8	79.0	93.0	93.0
	20～29歳	168	95.8	76.8	75.0	87.5	86.3	77.9	78.0	89.9	95.2
	30～39歳	187	95.7	79.1	68.5	85.1	84.5	78.1	72.7	93.0	96.8
	40～49歳	233	93.1	80.7	77.7	87.6	84.1	82.4	73.9	92.3	93.1
	50～59歳	300	93.0	78.7	83.3	89.0	83.4	78.0	66.0	89.7	93.3
	60～64歳	196	90.8	72.5	79.6	87.3	82.1	67.4	60.2	85.7	90.3
	65～69歳	193	92.8	78.8	85.5	86.5	80.3	71.0	62.7	90.7	92.3
70歳以上	205	80.5	65.3	70.3	74.2	71.7	51.2	47.8	74.6	75.6	
居住地域	諫早地域	1045	91.4	75.9	77.9	86.0	82.5	74.6	68.5	89.7	91.8
	多良見地域	195	94.4	80.0	78.0	86.2	81.5	64.1	56.9	87.6	90.2
	森山地域	60	91.7	76.7	73.3	80.0	78.3	78.3	56.6	80.0	90.0
	飯盛地域	67	92.5	82.1	83.6	88.1	86.5	76.1	71.6	86.5	92.5
	高来地域	108	89.8	73.1	73.2	83.4	75.0	67.6	63.9	83.3	87.0
	小長井地域	53	90.6	77.4	75.5	81.2	79.3	69.8	62.3	81.1	86.8

[図表 67] 若年者増加のために重要な施策についての“重要である”の割合
(10) ~ (17) (全体、性別、年齢別、居住地域別)

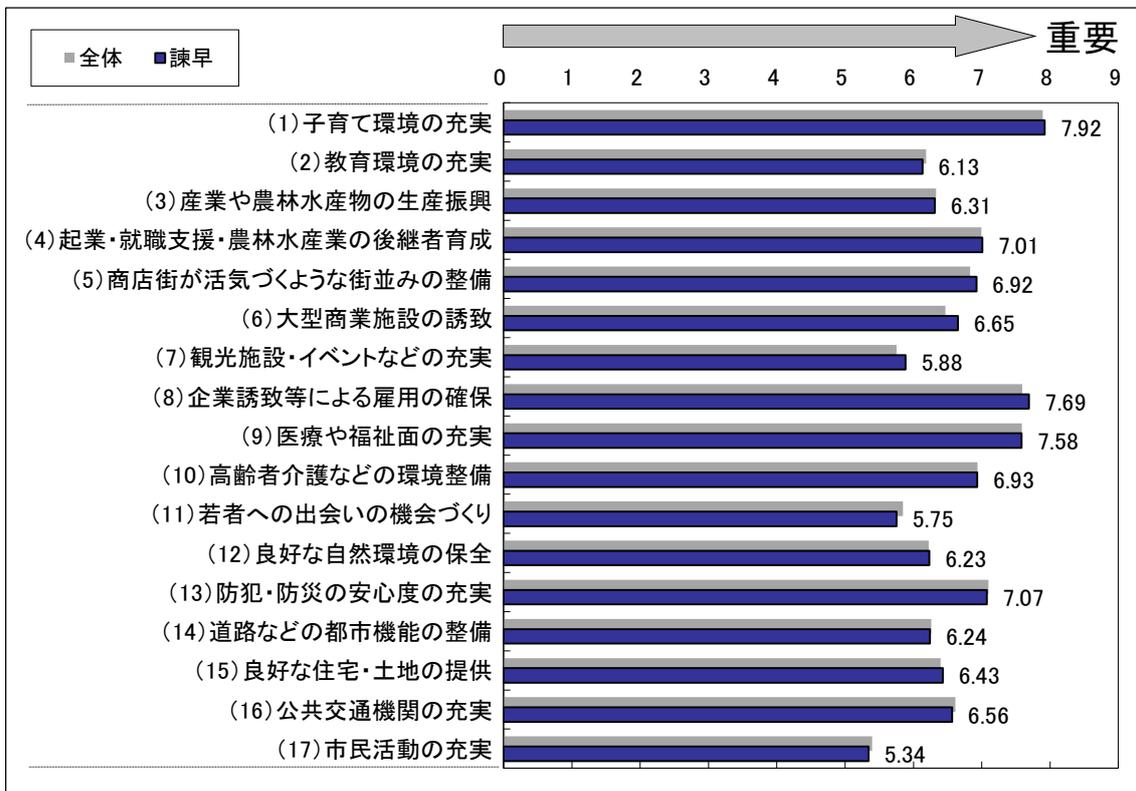
(単位：%)

		n	(10) 高齢者介護などの環境整備	(11) 若者への出会いの機会づくり	(12) 良好な自然環境の保全	(13) 防犯・防災の安心度の充実	(14) 道路などの都市機能の整備	(15) 良好な住宅・土地の提供	(16) 公共交通機関の充実	(17) 市民活動の充実
全体		1533	85.4	69.5	78.4	87.7	77.0	77.6	80.4	66.3
性別	男性	586	83.4	68.4	76.8	86.9	78.5	79.2	78.3	65.6
	女性	837	87.1	70.1	79.9	88.5	76.7	77.4	82.4	67.5
年齢	18～19歳	43	79.1	72.1	93.0	90.7	83.7	81.4	88.3	72.1
	20～29歳	168	88.1	70.9	82.7	90.5	78.5	82.1	82.7	66.6
	30～39歳	187	87.1	60.9	78.1	92.5	80.2	83.9	82.8	59.4
	40～49歳	233	85.9	65.3	79.0	89.7	80.7	88.4	83.6	63.5
	50～59歳	300	87.7	72.6	79.3	90.0	76.0	79.3	79.3	66.3
	60～64歳	196	85.2	76.0	80.6	84.2	75.5	69.9	79.6	69.9
	65～69歳	193	88.6	75.1	78.2	88.6	78.8	75.6	81.8	73.1
居住地域	70歳以上	205	76.1	63.4	67.8	77.1	67.8	61.5	71.2	63.4
	諫早地域	1045	85.6	67.9	79.3	88.0	77.0	78.0	79.9	65.6
	多良見地域	195	86.7	68.2	76.9	88.7	80.5	77.9	85.1	65.1
	森山地域	60	78.3	68.4	78.3	81.7	75.0	76.6	83.4	63.4
	飯盛地域	67	82.1	85.1	79.1	88.1	76.1	79.1	77.6	71.6
	高来地域	108	86.1	69.5	71.3	85.2	69.4	75.9	77.8	69.4
	小長井地域	53	86.8	86.8	79.3	90.5	81.1	71.7	77.4	73.6

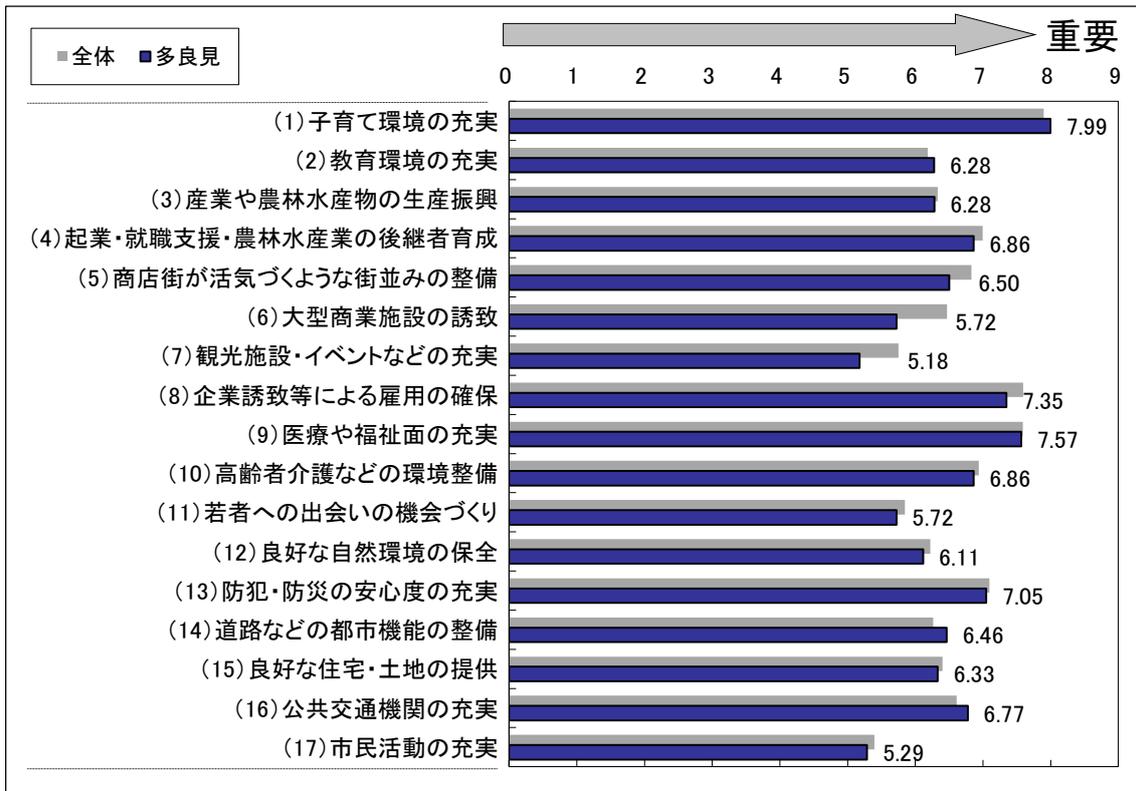
[図表 68] 若年者増加のための施策の重要度（全体／評価点）



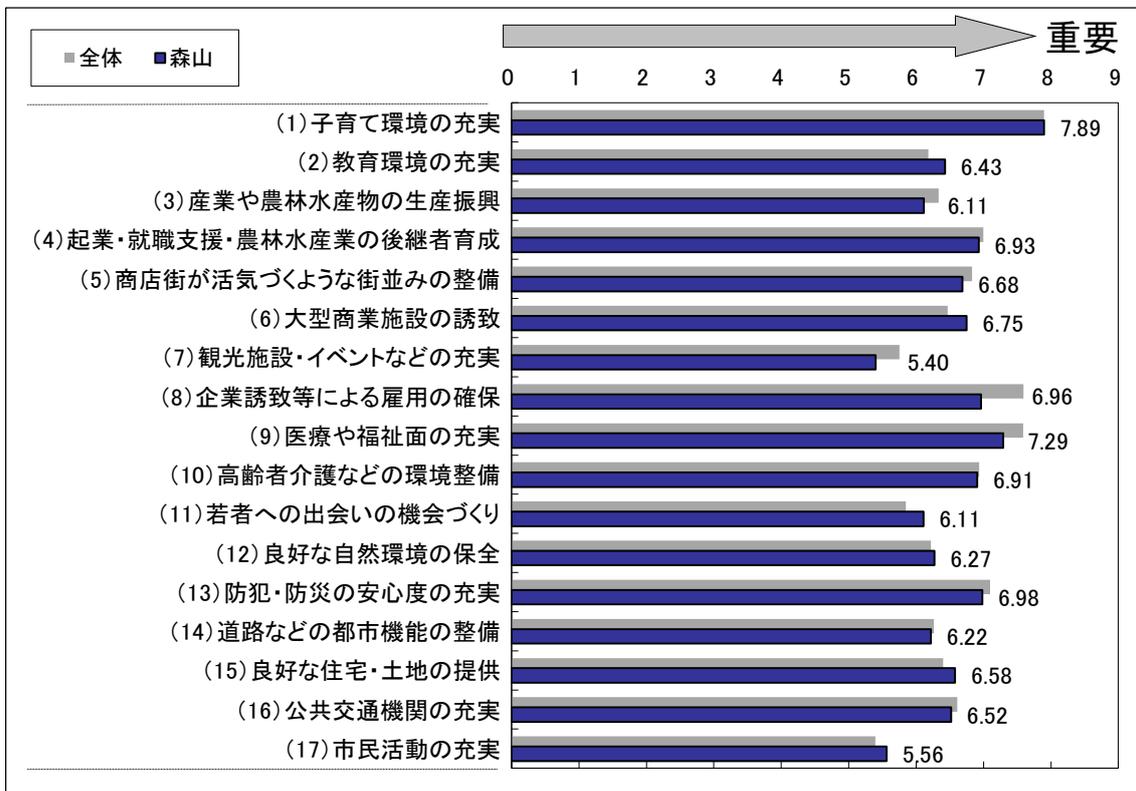
[図表 69] 若年者増加のための施策の重要度（諫早地域／評価点）



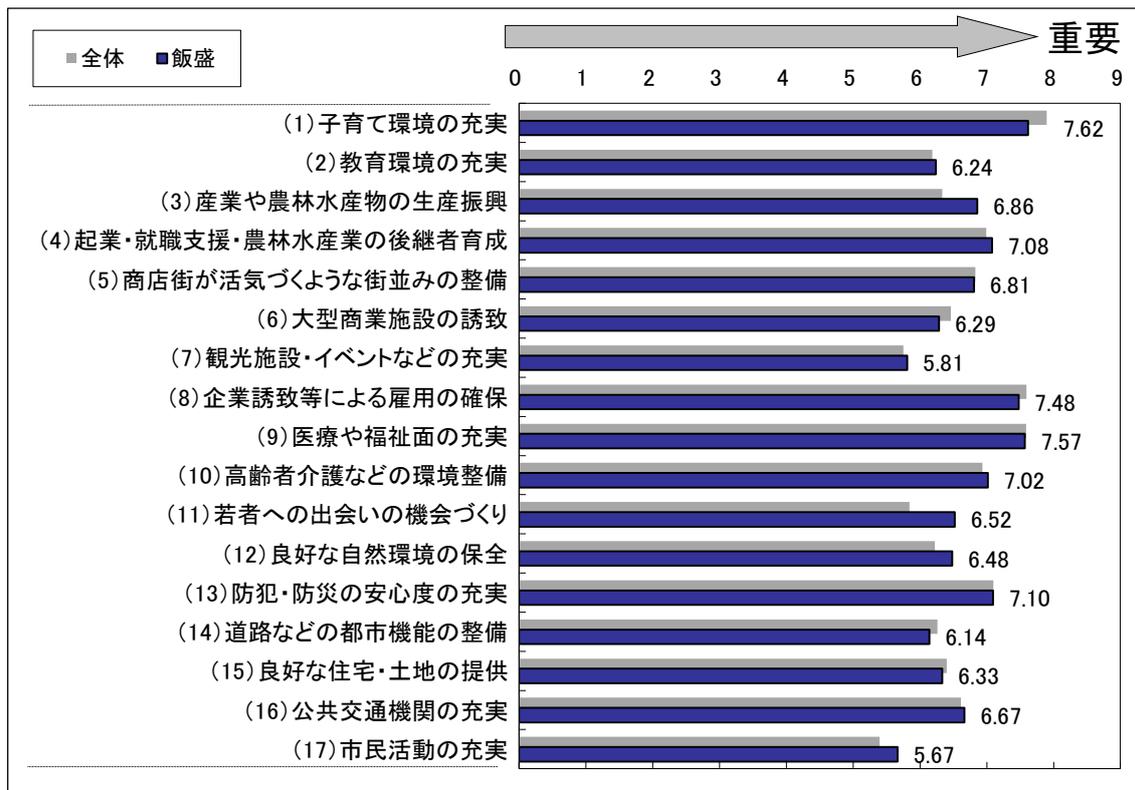
[図表 70] 若年者増加のための施策の重要度（多良見地域／評価点）



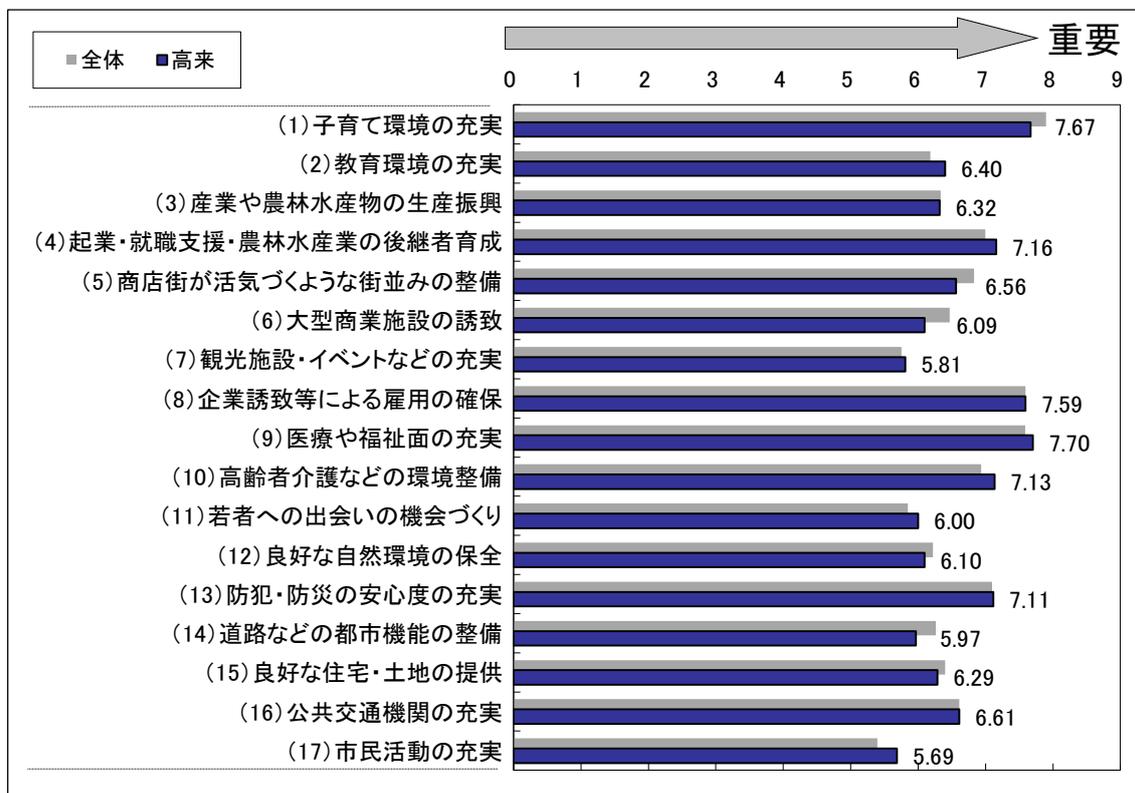
[図表 71] 若年者増加のための施策の重要度（森山地域／評価点）



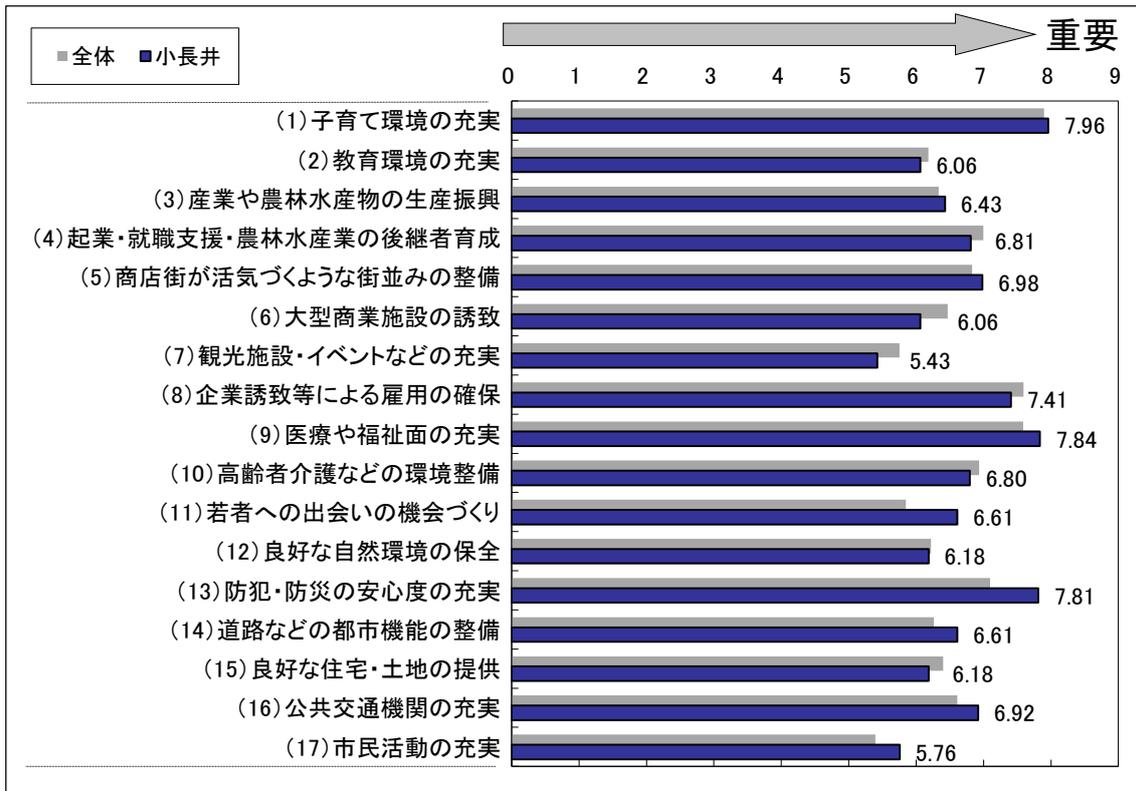
[図表 72] 若年者増加のための施策の重要度（飯盛地域／評価点）



[図表 73] 若年者増加のための施策の重要度（高来地域／評価点）



[図表 74] 若年者増加のための施策の重要度（小長井地域／評価点）



[図表 75] 若年者増加のための施策の重要度（全体、居住地域別）

（上位3項目、単位：評価点）

		第1位	第2位	第3位
全体		(1)子育て環境の充実 7.89	(8)企業誘致等による雇用の確保／(9)医療や福祉面の充実 7.59	
居住地域	諫早地域	(1)子育て環境の充実 7.92	(8)企業誘致等による雇用の確保 7.69	(9)医療や福祉面の充実 7.58
	多良見地域	(1)子育て環境の充実 7.99	(9)医療や福祉面の充実 7.57	(8)企業誘致等による雇用の確保 7.35
	森山地域	(1)子育て環境の充実 7.89	(9)医療や福祉面の充実 7.29	(13)防犯・防災の安心度の充実 6.98
	飯盛地域	(1)子育て環境の充実 7.62	(9)医療や福祉面の充実 7.57	(8)企業誘致等による雇用の確保 7.48
	高来地域	(9)医療や福祉面の充実 7.70	(1)子育て環境の充実 7.67	(8)企業誘致等による雇用の確保 7.59
	小長井地域	(1)子育て環境の充実 7.96	(9)医療や福祉面の充実 7.84	(13)防犯・防災の安心度の充実 7.81

4 諫早市のまちづくりについて

(1) 市政への市民意向の反映度合い

問 13 あなたは、現在の市政に市民の意向がどの程度反映されていると考えていますか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

● “反映されている” が 23.4%、“反映されていない” が 37.6%。

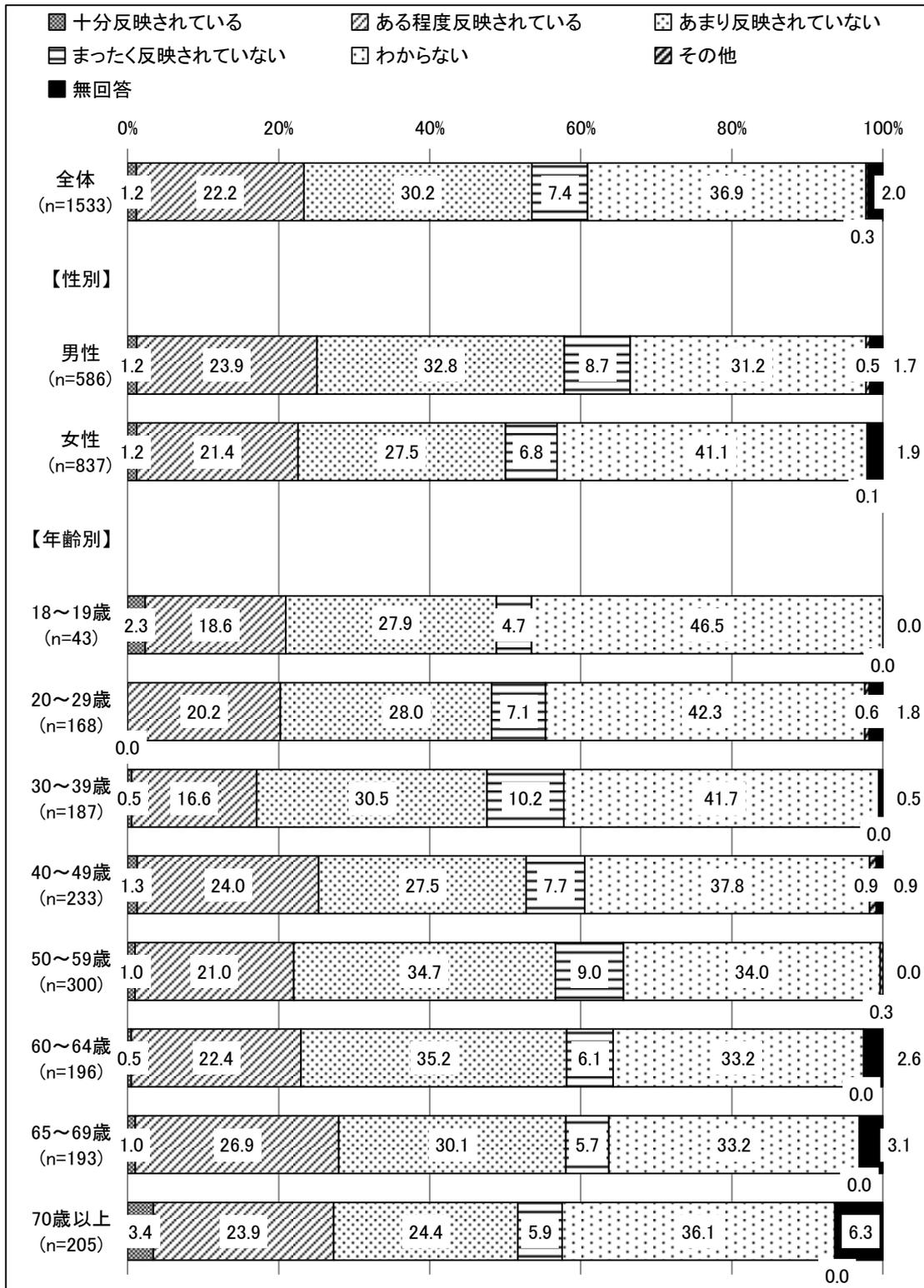
市政への市民意向の反映度合いについては、「わからない」が36.9%で最も多く、次いで「あまり反映されていない」(30.2%)、「ある程度反映されている」(22.2%)、「まったく反映されていない」(7.4%)、「十分反映されている」(1.2%)、「その他」(0.3%)の順となっています。また、「十分反映されている」と「ある程度反映されている」を合わせた“反映されている”は23.4%、「あまり反映されていない」と「まったく反映されていない」を合わせた“反映されていない”は37.6%となっています。

性別で見ると、男性は女性に比べて“反映されている”と回答する割合がやや高くなっています。また、女性は「わからない」が40%を超えていますが、男性は31.2%にとどまっています。

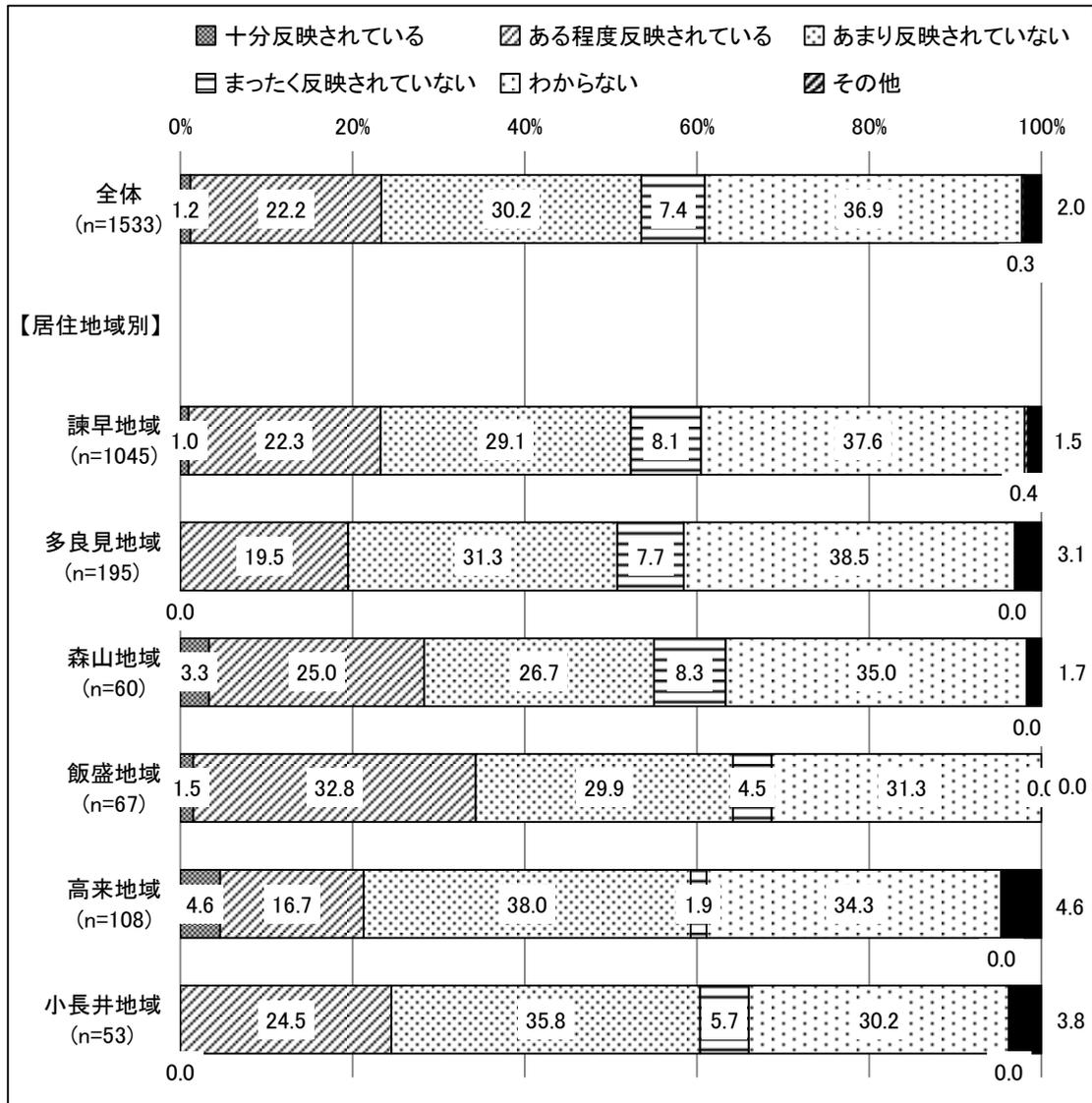
年齢別で見ると、65歳以上の層は“反映されている”が30%弱で他の年齢階層より多くなっており、一方30～39歳は17.1%と全年齢階層で最も低くなっています。また、39歳以下の年齢層は「わからない」が40%を超えています。

居住地域別で見ると、飯盛地域は“反映されている”が34.3%と全居住地域で最も多くなっており、次いで森山地域が28.3%と続いています。[図表 76～77 参照]

[図表 76] 市政への市民意向の反映度合い（全体、性別、年齢別）



[図表 77] 市政への市民意向の反映度合い（全体、居住地域別）



(2) 市民意向を反映させるために力を入れるべきこと

問 14 あなたは、できるだけ多くの市民の意向を市政に反映させるためには、どのようなことに力を入れるべきだと考えますか。あてはまるものを2つ以内で選んで番号に○をつけてください。【複数回答】

- 「事業計画に関する対話機会の充実」「情報提供の機会の充実」「市民アンケート調査の実施」がそれぞれ3割以上。

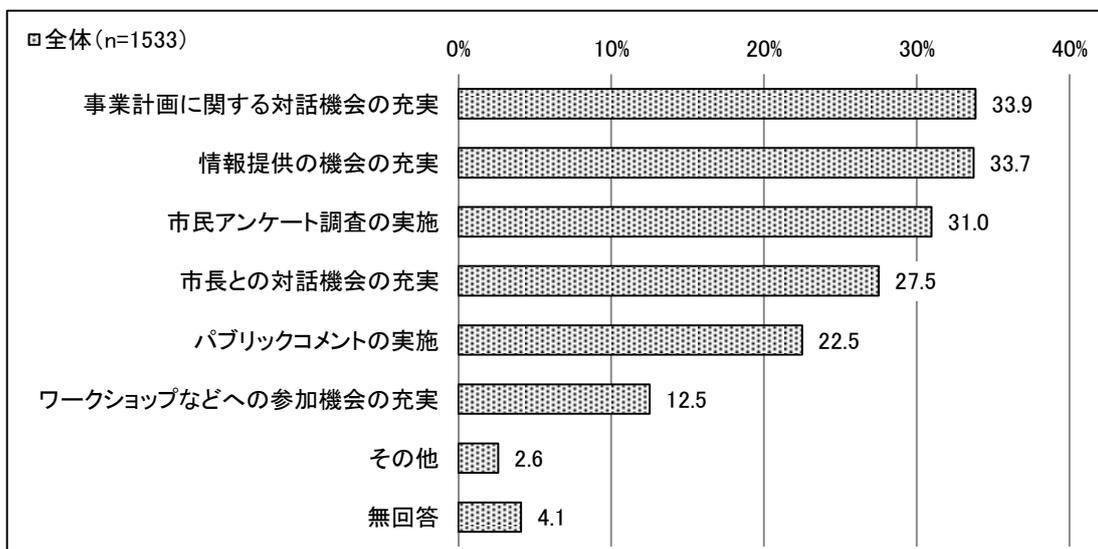
市民意向を反映させるために力を入れるべきことについては、「事業計画に関する対話機会の充実」(33.9%)が第1位に挙げられ、次いで「情報提供の機会の充実」(33.7%)、「市民アンケート調査の実施」(31.0%)が上位を占め、以下、「市長との対話機会の充実」(27.5%)、「パブリックコメントの実施」(22.5%)などの順となっています。

性別で見ると、男女ともに全体と同様に「事業計画に関する対話機会の充実」「情報提供の機会の充実」「市民アンケート調査の実施」が上位を占めています。

年齢別で見ると、50～59歳と60～64歳は全体と同様に「事業計画に関する対話機会の充実」「情報提供の機会の充実」「市民アンケート調査の実施」が上位を占めていますが、18～19歳、65～69歳、70歳以上では「市長との対話機会の充実」、20～29歳、30～39歳、40～49歳は「パブリックコメントの実施」が上位3位以内に挙げられています。

居住地域別で見ると、諫早地域と飯盛地域は全体と同様に「事業計画に関する対話機会の充実」「情報提供の機会の充実」「市民アンケート調査の実施」が上位を占めていますが、その他の地域では「市長との対話機会の充実」が上位3位以内に挙げられています。[図表 78～79 参照]

[図表 78] 市民意向を反映させるために力を入れるべきこと (全体/複数回答)



[図表 79] 市民意向を反映させるために力を入れるべきこと

(全体、性別、年齢別、居住地域別／複数回答)

(上位3項目、単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		事業計画に関する対話機会の充実 33.9	情報提供の機会の充実 33.7	市民アンケート調査の実施 31.0
性別	男性	事業計画に関する対話機会の充実 39.9	市民アンケート調査の実施 32.4	情報提供の機会の充実 30.4
	女性	情報提供の機会の充実 36.3	市民アンケート調査の実施 30.0	事業計画に関する対話機会の充実 29.6
年齢	18～19歳	市民アンケート調査の実施 39.5	市長との対話機会の充実 34.9	情報提供の機会の充実 30.2
	20～29歳	情報提供の機会の充実 35.1	市民アンケート調査の実施／パブリックコメントの実施 29.2	
	30～39歳	市民アンケート調査の実施 41.2	情報提供の機会の充実 34.8	パブリックコメントの実施 27.3
	40～49歳	情報提供の機会の充実 32.2	パブリックコメントの実施 30.9	事業計画に関する対話機会の充実 29.6
	50～59歳	事業計画に関する対話機会の充実 40.3	情報提供の機会の充実 36.7	市民アンケート調査の実施 31.3
	60～64歳	事業計画に関する対話機会の充実 38.3	情報提供の機会の充実 33.7	市民アンケート調査の実施 28.1
	65～69歳	事業計画に関する対話機会の充実 40.4	市長との対話機会の充実 35.2	市民アンケート調査の実施 32.1
	70歳以上	事業計画に関する対話機会の充実 38.5	市長との対話機会の充実 32.2	情報提供の機会の充実 31.2
居住地域	諫早地域	事業計画に関する対話機会の充実 33.8	市民アンケート調査の実施 32.6	情報提供の機会の充実 32.4
	多良見地域	情報提供の機会の充実 37.9	事業計画に関する対話機会の充実 29.7	市長との対話機会の充実 28.2
	森山地域	事業計画に関する対話機会の充実 41.7	市長との対話機会の充実 36.7	情報提供の機会の充実 26.7
	飯盛地域	情報提供の機会の充実 43.3	事業計画に関する対話機会の充実 31.3	市民アンケート調査の実施 28.4
	高来地域	情報提供の機会の充実 40.7	事業計画に関する対話機会の充実 39.8	市長との対話機会の充実 26.9
	小長井地域	市長との対話機会の充実 39.6	市民アンケート調査の実施 37.7	事業計画に関する対話機会の充実 35.8

(3) 今後の居留意向

問 15 あなたは、これからも諫早市に住み続けたいと思いますか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

● “住み続けたい” が 85.4%、一方、“住み続けたくない” が 9.7%。

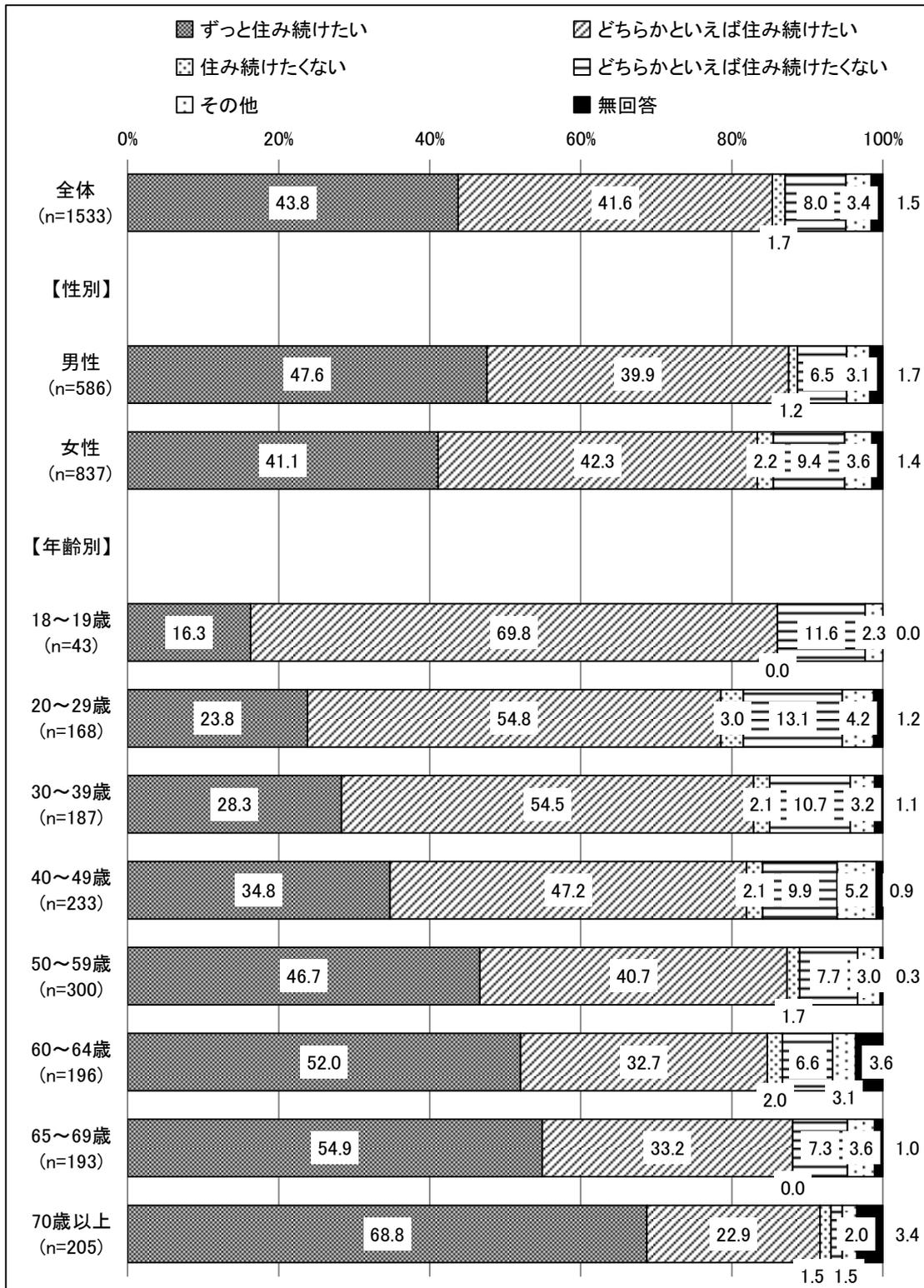
今後の居留意向については、「ずっと住み続けたい」と答えた人が 43.8%と最も多く、これに「どちらかといえば住み続けたい」(41.6%)を合わせた 85.4%の人が“住み続けたい”という意向を示しています。また、「住み続けたくない」は 1.7%で、これに「どちらかといえば住み続けたくない」(8.0%)を合わせた“住み続けたくない”は 9.7%でした。

性別で見ると、“住み続けたい”率は男性(87.5%)が女性(83.4%)を上回り、特に「ずっと住み続けたい」と回答した率では男性(47.6%)が女性(41.1%)を 6.5ポイント上回り、男性の定住意向が強い傾向がうかがえます。

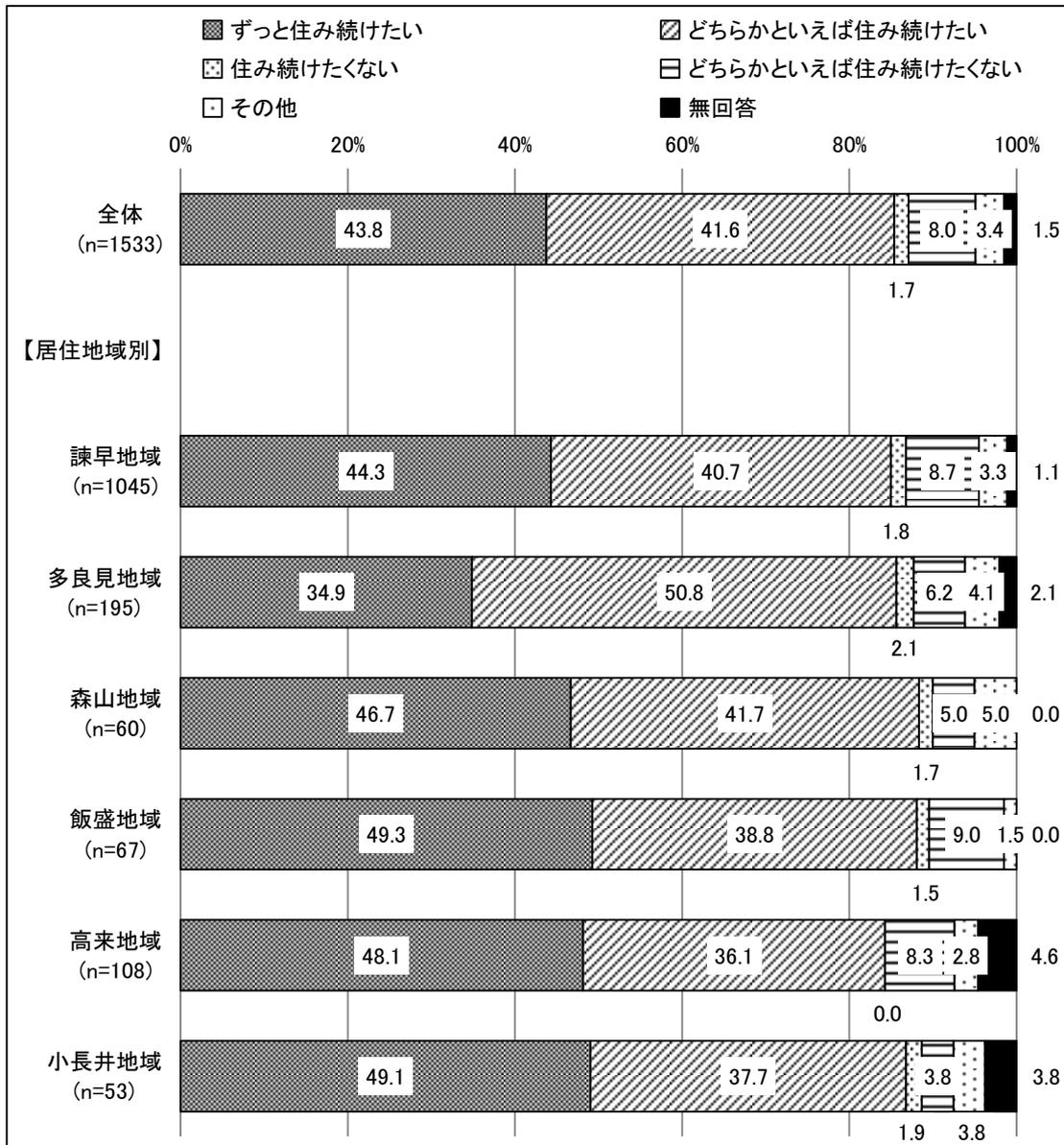
年齢別で見ると、「ずっと住み続けたい」と回答した人は 39歳以下の年齢層では 30%以下と若干落ちるものの、“住み続けたい”率はすべての年齢で約 80%の率になり、70歳以上では 91.7%にのびります。

居住地域別で見ると、“住み続けたい”率はすべての地域で 80%以上となっており、特に飯盛地域、高来地域、小長井地域では「ずっと住み続けたい」が 50%弱を占めています。[図表 80~81 参照]

[図表 80] 今後の居留意向（全体、性別、年齢別）



[図表 81] 今後の居留意向（全体、居住地域別）



(4) 「諫早市らしさ」を感じ、愛着や誇りを持てるもの

問 16 あなたが“諫早市らしさ”を感じ、愛着や誇りを持てるものは何ですか。1から20のうちからお考えに近いものを5つ以内で選んで番号に○をつけてください。
【複数回答】



● 「自然」が55.8%で第1位。

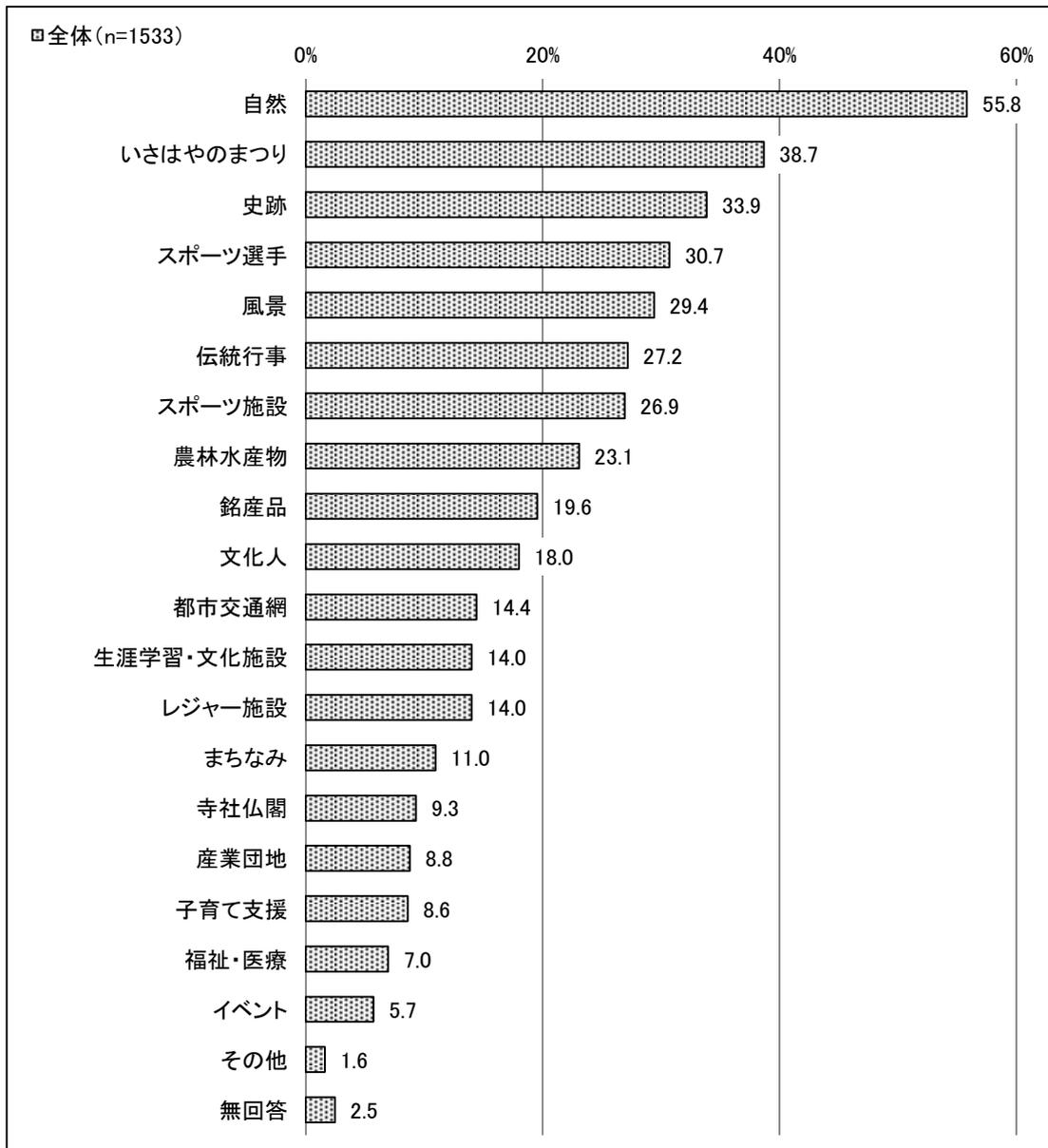
「諫早市らしさ」を感じ、愛着や誇りを持てるものは、「自然」(55.8%)が第1位に挙げられ、次いで「いさはやのまつり」(38.7%)、「史跡」(33.9%)、「スポーツ選手」(30.7%)が上位を占め、以下、「風景」(29.4%)、「伝統行事」(27.2%)、「スポーツ施設」(26.9%)、「農林水産物」(23.1%)などの順となっています。

性別でみると、男女ともに全体と同様に「自然」「いさはやのまつり」「史跡」が上位を占めています。

年齢別でみると、39歳以下の年齢層では「いさはやのまつり」、40歳以上の年齢層では全体と同様に「自然」が第1位に挙げられています。また、18～19歳、30～39歳、40～49歳は「スポーツ選手」が上位3位以内に挙げられています。

居住地域別でみると、森山地域では「風景」、それ以外の地域では全体と同様に「自然」が第1位に挙げられています。また、多良見地域と飯盛地域では「農林水産物」が上位3位以内に挙げられています。[図表 82～83 参照]

[図表 82] 「諫早市らしさ」を感じ、愛着や誇りを持てるもの（全体／複数回答）



[図表 83] 「諫早市らしさ」を感じ、愛着や誇りを持てるもの
 (全体、性別、年齢別、居住地域別／複数回答)

(上位3位／単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		自然 55.8	いさはやのまつり 38.7	史跡 33.9
性別	男性	自然 60.9	史跡 32.4	いさはやのまつり 31.6
	女性	自然 51.9	いさはやのまつり 44.0	史跡 34.1
年齢	18～19歳	いさはやのまつり 55.8	史跡 46.5	スポーツ選手 44.2
	20～29歳	いさはやのまつり 48.2	自然 47.0	史跡 34.5
	30～39歳	いさはやのまつり 49.2	自然 48.7	スポーツ選手 33.7
	40～49歳	自然 50.6	いさはやのまつり 39.1	スポーツ選手 37.8
	50～59歳	自然 58.3	いさはやのまつり 36.3	史跡 35.0
	60～64歳	自然 62.2	風景 34.7	史跡／いさはやのまつり 33.2
	65～69歳	自然 66.8	史跡 37.3	風景 36.8
	70歳以上	自然 59.0	いさはやのまつり 35.1	史跡 33.2
居住地域	諫早地域	自然 53.8	いさはやのまつり 38.3	史跡 36.5
	多良見地域	自然 58.5	農林水産物 34.9	スポーツ選手 34.4
	森山地域	風景 53.3	いさはやのまつり 50.0	自然 41.7
	飯盛地域	自然 59.7	農林水産物 46.3	いさはやのまつり 41.8
	高来地域	自然 68.5	いさはやのまつり 43.5	史跡 32.4
	小長井地域	自然 69.8	いさはやのまつり 41.5	史跡 37.7

(5) 諫早市の望ましい将来像

問 17 あなたは、諫早市を今後どのようなまちにするのがよいと思いますか。お考えに近いものを3つ以内で選んで番号に○をつけてください。【複数回答】



● 「生活・福祉のまち」が38.6%で第1位。

諫早市の望ましい将来像は、「生活・福祉のまち」(38.6%)が第1位に挙げられ、次いで「安全・安心なまち」(29.9%)、「商業のまち」(27.1%)が上位を占め、以下、「快適住宅のまち」(24.2%)、「歴史と伝統文化の息づくまち」(23.9%)、「スポーツ・レクリエーションのまち」(21.1%)、「産業のまち」(20.8%)などの順となっています。

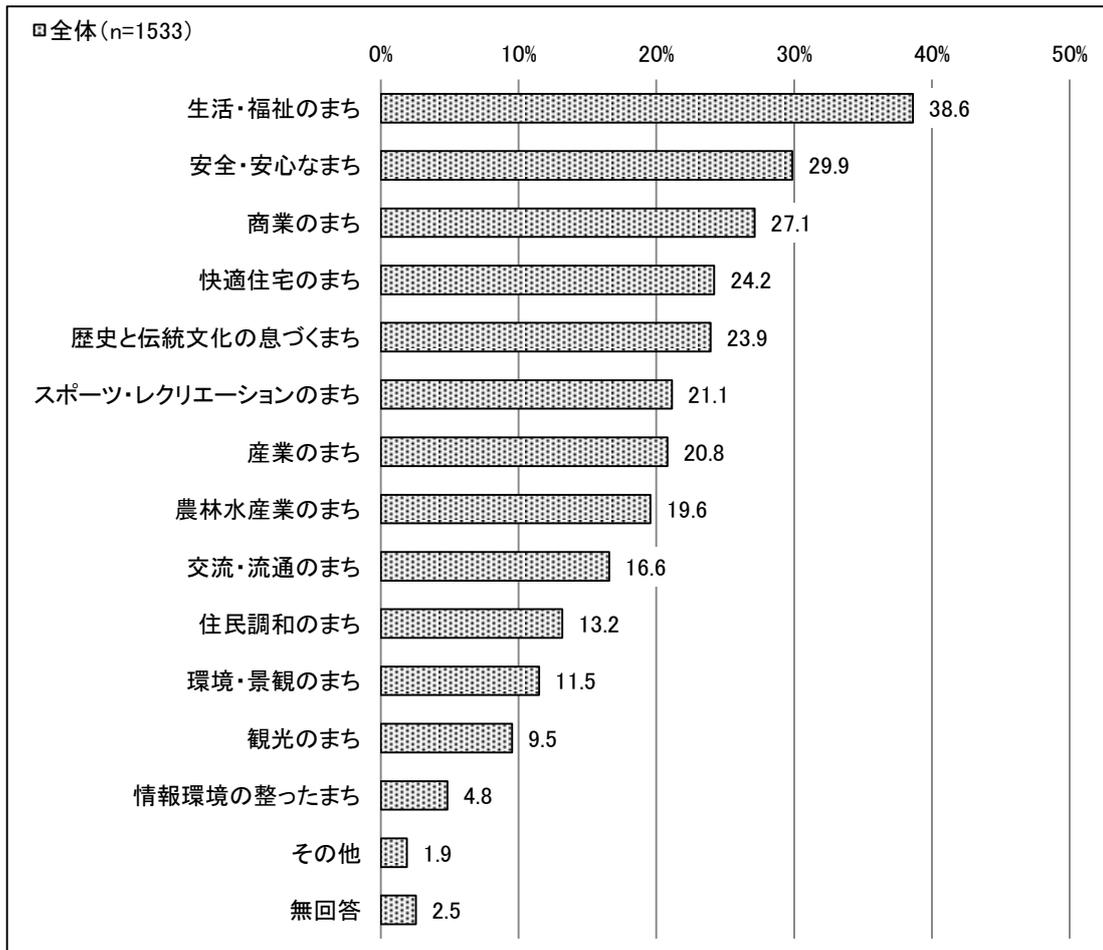
性別で見ると、男女ともに全体と同様に「生活・福祉のまち」が第1位に挙げられています。男性は「産業のまち」(28.5%)、「安全・安心なまち」(26.8%)などが続き、女性は「安全・安心なまち」(32.3%)、「商業のまち」(29.4%)などが続いています。

年齢別で見ると、18～19歳と30～39歳は「安全・安心なまち」、20～29歳は「快適住宅のまち」、40歳以上の年齢層では全体と同様に「生活・福祉のまち」が第1位に挙げられています。

居住地域別で見ると、飯盛地域は「農林水産業のまち」が第1位、それ以外の地域では全体と同様に「生活・福祉のまち」が第1位に挙げられています。

[図表 84～85 参照]

[図表 84] 諫早市の望ましい将来像（全体／複数回答）



[図表 85] 諫早市の望ましい将来像（全体、性別、年齢別、居住地域別／複数回答）

（上位3項目、単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		生活・福祉のまち 38.6	安全・安心なまち 29.9	商業のまち 27.1
性別	男性	生活・福祉のまち 33.4	産業のまち 28.5	安全・安心なまち 26.8
	女性	生活・福祉のまち 41.3	安全・安心なまち 32.3	商業のまち 29.4
年齢	18～19 歳	安全・安心なまち 46.5	スポーツ・レクリエーションの まち 37.2	歴史と伝統文化の息づくまち 34.9
	20～29 歳	快適住宅のまち 35.1	生活・福祉のまち 34.5	商業のまち 32.1
	30～39 歳	安全・安心なまち 37.4	商業のまち 33.2	快適住宅のまち 33.2
	40～49 歳	生活・福祉のまち 32.6	安全・安心なまち 30.5	快適住宅のまち 27.5
	50～59 歳	生活・福祉のまち 43.0	安全・安心なまち 30.3	歴史と伝統文化の息づくまち 27.0
	60～64 歳	生活・福祉のまち 42.3	歴史と伝統文化の息づくまち 30.1	商業のまち 25.0
	65～69 歳	生活・福祉のまち 42.0	農林水産業のまち 31.1	歴史と伝統文化の息づくまち 24.9
	70 歳以上	生活・福祉のまち 45.4	安全・安心なまち 32.2	歴史と伝統文化の息づくまち 31.2
居住地域	諫早地域	生活・福祉のまち 37.0	安全・安心なまち 30.8	商業のまち 30.0
	多良見地域	生活・福祉のまち 42.1	快適住宅のまち 30.8	安全・安心なまち 25.6
	森山地域	生活・福祉のまち 46.7	安全・安心なまち 31.7	歴史と伝統文化の息づくまち 26.7
	飯盛地域	農林水産業のまち 46.3	生活・福祉のまち 40.3	産業のまち 29.9
	高来地域	生活・福祉のまち 38.9	歴史と伝統文化の息づくまち 31.5	安全・安心なまち 30.6
	小長井地域	生活・福祉のまち 43.4	農林水産業のまち 35.8	歴史と伝統文化の息づくまち 34.0

(6) 九州新幹線西九州長崎ルートが完成した後のまちづくりに期待すること

問 18 あなたは、九州新幹線西九州（長崎）ルートが完成した後の諫早市のまちづくりにどのようなことを期待しますか。お考えに近いものを1つ選んで番号に○をつけてください。



●「交流人口の増加、宿泊施設などの整備」が最も多く、次いで「市街地の形成や整備」「物流・流通拠点や新たな企業などの誘致」と続く。

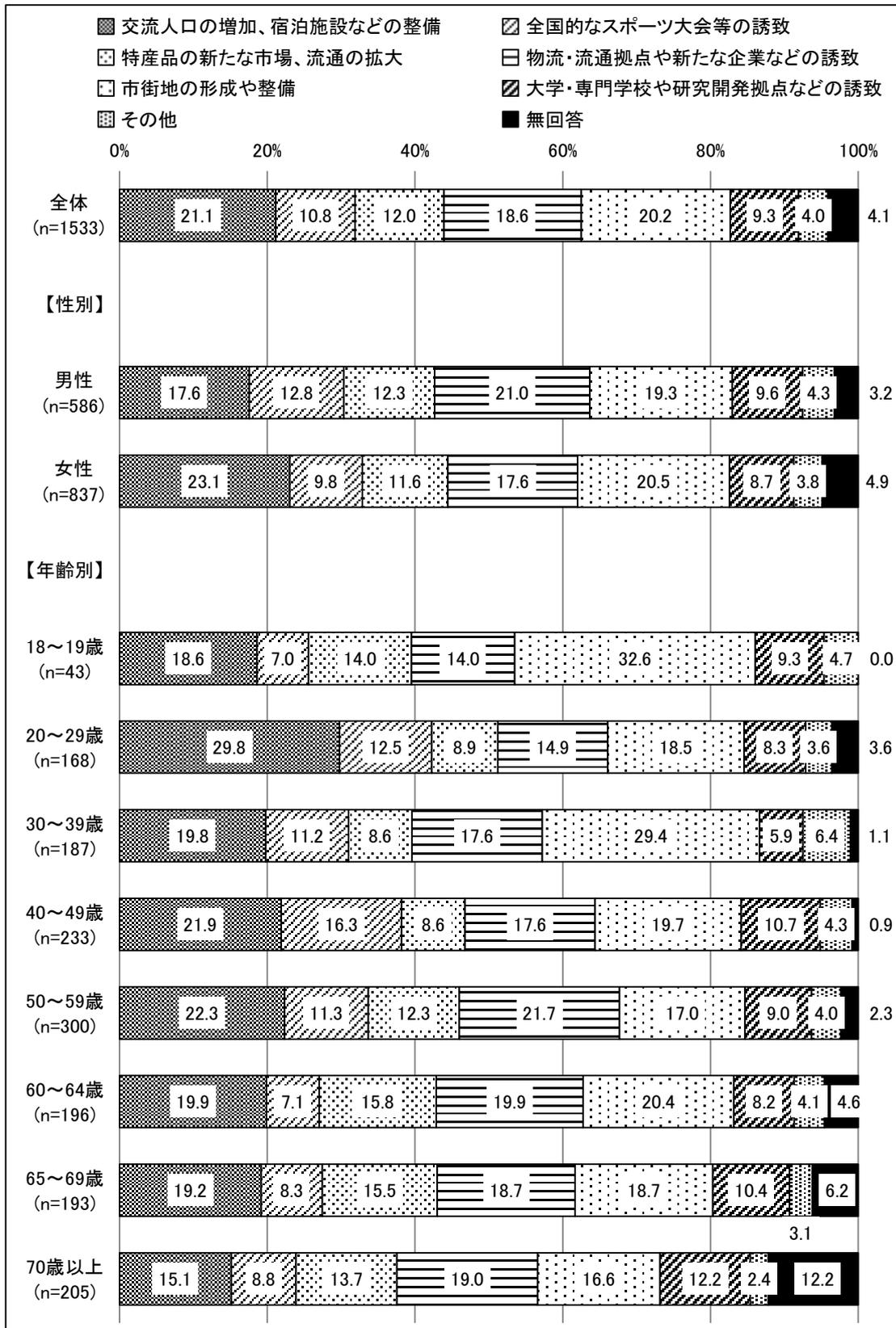
九州新幹線西九州（長崎）ルートが完成した後のまちづくりに期待することについては、「交流人口の増加、宿泊施設などの整備」（21.1%）が最も多く、次いで「市街地の形成や整備」（20.2%）、「物流・流通拠点や新たな企業などの誘致」（18.6%）、「特産品の新たな市場、流通の拡大」（12.0%）、「全国的なスポーツ大会等の誘致」（10.8%）、「大学・専門学校や研究開発拠点などの誘致」（9.3%）の順となっています。

性別で見ると、男性は「物流・流通拠点や新たな企業などの誘致」（21.0%）、女性は全体と同様に「交流人口の増加、宿泊施設などの整備」（23.1%）が最も多くなっています。

年齢別で見ると、20～29歳は「交流人口の増加、宿泊施設などの整備」が29.8%で他の年齢層に比べて多くなっています。また、18～19歳と30～39歳では「市街地の形成や整備」が3割前後と他の年齢層に比べて多くなっています。

居住地域別で見ると、諫早地域と多良見地域では「市街地の形成や整備」、それ以外の地域では全体と同様に「交流人口の増加、宿泊施設などの整備」が最も多くなっています。[図表 86～87 参照]

[図表 86] 九州新幹線西九州長崎ルートが完成した後のまちづくりに期待すること
(全体、性別、年齢別／複数回答)



[図表 87]九州新幹線西九州長崎ルートが完成した後のまちづくりに期待すること
(全体、居住地域別／複数回答)

